

70

NO.9
¥100

安保ランサイへ人間の渦巻を!!

過刊アンホ

3・9

昭和45年3月9日（隔週月曜日発行）通巻第9号



■里地 静子さんの場合

里地 困ったね。私なんか何もやっていないですよ、電話番号だけの。みな精力的に活動してはるから、ついていけないですよ。おこがましいわ。

開口一番、他の人にしてくださいよ、と言われたが、雑談しているうちに、話がはずんできた。息子さんの成長とともに行動してきた教育の場での関いをずっとたどってくれる。

里地 一番下の息子が中学に入った時が学力テスト反対運動が始まった頃で、地域のお母さんたちもそれにまき込まれて、学テがなにかよくわからないうちに感情的に対立していたんですね。それでとにかく自由に意見を述べることでできる場を、ということで婦人学級を作ったんです。

その頃から勤評闘争、学テ反対運動、全入運動、PTA民主化、強制寄付・強制謝恩金反対運動等々に参加し、現在では立命全共闘の息子さんが謝恩基金、自治会費不払いで除籍になっていること、友人が事実無根のリンチ事件で告訴されたことについて大学全職員に質問状を郵送したことなど、戦後教育闘争史を聞く思い。

べ平連運動はいつ頃から。

里地 婦人学級を作った後、平和運動や

政治についてもっと突込んだ話合いをしたいということで婦人民主クラブを作ったんです。そして日米反戦市民条約に署名したり、小田さんの講演を大阪で聞いたりにしているうちに、実際に行動しなければと思い始めて、息子の中学の時の先生や、婦人民主クラブの友人、近所の人など六人で六八年の初め頃伏見べ平連をつくろうということになったんです。

どんな活動をしているんですか。

里地 最初は毎月一回定例デモを七人、十五人くらいですつとやってましたけど、あちこちで闘争が激化して参加者が減ったこともあって、デモをやめて、今定例



この人と語る
さわやかなお母さん

でしているのは脱走兵カンパ（月二回）と学習会（週一回）です。そのほか、入管法粉砕や大久保自衛隊基地へ向けての行動などですけど、週一回の学習会、脱走兵問題、基地闘争、入管法などについてやってるんですが、なかなかたいへんで、もうついて行けなくなつて、今は本当に電話番号だけなんです。

伏見は京都の中心からはずれているし、なかなか大きな行動もできないんですけど、学習会を続けているうちに、皆ピラの原稿が書けるようになったり、ガリ切りなんかも皆でやるなど小さいけれど活発にやっているとしますね。

始めの頃はできるだけわかりやすく、やさしい言葉を使つたほうが思つていたんですけどね、若い人たちに、食いついていく気があれば少し難しくてもやっていけると言われて、今はその線で学習会も毎回十〜十五人程集まっていますし、わかりやすさということを気にして大事なことをばかしてしまふよりははそのほうがいいかも知れないって最近思ひはじめたんですけどね。

最近特に考えさせられた、というようなことは。

里地 チェコ問題と大学闘争ですね。チエコでは、それまでの私が持っていた保守改革新といった単純な図式が打破わざれてしまいました。よく、ソ連に行つて

きた人にいろいろ質問したりしたんですけど、まあ問題はあつてはようけど、とにかく社会保障が整つていっているのは事実です。というようなことが聞けなくて、よく知らなかつたんですよ、だからものすごいショックでした。その後で小田さんの「終結のなかの発端」ですか、あれを読んでようやくわかつてきたところです。

それから大学ですけど、私みたいに、彼ら学生が否定し、脱出しようとする日常性そのものの中に、埋没というより沈黙しているような主婦という立場から見ると、彼らの行動の非日常性は一見承服しがたいものに見えますけど、しかし彼らの理念の高さ、根元的な問いの深さときびしさに、心洗われるというかそういう感じを受けますね。

これからどういうことを。

里地 具体的には思い浮ばないんですけど、べ平連の原理は非常にいいものだと思つてますから、そういうところから、できることをやってみようつもりです。

（京都アンボ社S）

伏見べ平連・京都市伏見区深草西伊達町一ノ四九 里地方 電話〇七五—六四一—七〇七四

次号の発売日は三月二二日（月）です。

私はやるから君もやれ…………… 3
アンボ街へ…………… 5

〈特集〉

教育を問いかえそう

「教育」はどこで終るのか……………小田 実…	8
教育ってなんだ……………佐藤 忠男…	10
これが教育だというけれど……………編 集 部…	13
①小学生よ、日の丸に注目せよ!	
②コンピューターは国を守る	
③進学・Oh ソーレツ	
④女工哀史は昔のことじゃない	
座談会・反戦派教師は語る……………	19
造反中学生との対話……………	24
教育なんてどうでもいい……………	28
資料・静岡県教委の見解……………	32
アルカトラス島のインディアン…市井 三郎…	34
「スパルタ教育」批判……………編 集 部…	43
〈三面戯評〉 海外雄飛は大ハヤリ……………	47
〈詩〉 ギロギロギッちゃんの生活真情 鈴木志郎康……………	48
〈小説〉 義虫は何によって生きるか 三浦 浩樹……………	50
〈マンガ〉 ヘルメット……………ジョージ・秋山…	52
「声なき声」の声……………グループ・海…	54
日米反戦共同行動は なぜ必要か……………F・シャーマン…	60
出入国管理法の本質は何か……………小野 誠之…	63
三島由紀夫批判……………真継 伸彦…	66
〈アンボ講座〉 ■封じこめられるか 侵入するか……………	68
■新入社員にも チャンスはある	
■努力して「式」をやめる法	
奇妙な数字・驚く数字・戦慄の数字……………	70
〈外信デスクダイアリー〉C B兵器討議と日本…	71
〈新日本案内〉 金沢……………	72
〈市民運動入門〉 ピラ配りに関する三つの立場…吉川 勇一…	74
〈グラビア〉 岸根反戦放送局……………	35
〈表紙〉 池田稔	
〈この人と語る〉 里地静子さんの場合……………	2
〈フォーク・ソング〉 全共闘ブルース……………	75

私はやるから君もやれ

「万博」の出バナをくじ

会社へ勤めたり学校へ行った
りして普通に暮している私たち
にとって「万博」とは何かとい
うことを考えてみました。それ
は世界の国家の中の巨大な企業
(資本)の見本市にすぎないこ
とです。ベトナム、日本の東南
アジアへの経済・技術援助の名

による新植民地政策、部落のこ
となどを考えるとき、それは現
資本主義体制を承認するかしな
いかという問題として私たちに
帰ってきます。資本は私たちに
支配しつづけるために甘い甘い
幻想をいだかせなければならな
いのです。「繁栄国日本」を私
たちの中にしみこませようとし
ているのです。そして「人類の
進歩と調和」という気のきいた

ことばを使っていますが、彼ら
の人類の「調和」とは「秩序」
でありその「秩序」はベトナム
人民虐殺戦争へ協力することで
あり、又「進歩」とはあくまで
も資本の「進歩」にすぎないの
です。「万博」を文化的側面か
らみると、それは上からの与え
られた文化であり本来の文化、
つまり私たち一人一人がつくり
あげていく文化とは異っていま

す。過去の支配者たちは支配の
ために文化をも手段としてきま
した。そして「万博」はいわゆ
る「70年対策用」であることで
す。すなわち「万博」とは①企
業の国際見本市②支配体制の強
化の一環③私たちの文化ではな
いこと④「70年」から眼をそら
させるためのものであることと
す。

私は「万博」にYESとはも
ちろん言えない。私は今、会場
内かその近くでのピラまきを考
えています。それも「万博」の
最初の三月十五日にピラをまく
ことを考えています。三月十五
日としたのは出バナをくじくた
めです。ピラまいただけでは本
当に反対したことにはならない
と思うのだけど、私のイメージ
の貧困のため今はこのことしか
頭の中におもひつかびません。

他にいい考えがあったら教えてくだされ。この意見に賛成で一緒にやろうという人、何かいい考えがある人。連絡してください。討論して考えを煮つめたいのです。

連絡先 名古屋市中区新栄町二の一 高木ビル内「アンボ社」

堀 淳子

万博とは何か

万博が近づいている。私たちはこれを見ずしていいのか？ 私が言いたい事は、単に「万博よりも先に金を使うべき事がある」にとどまらない。誰がいったい何の為にこの七〇年に万博を開こうとしているのかという事なのだ。思えば万博が国民に宣伝されはじめたのは、オリンピックの直後だった。それから今日までに私たち日本人はどのような道を歩いてきたか。

ある有力新聞は一月のある日、社説に「万博は成功させねばならない」と述べた。その中に私たちひとりひとりの国民にとつての万博の必要性は何ら見出し得ないばかりか、「万博は見すでに通るにはあまりに魅力的だ」となどという権力への主体性のない追従の姿勢が述べられていた。

そもそも私たちにあって万博とは何か？ それを私たちはそ

してマスコミは、どれほど語り合ったのか。人類の進歩と調和——といったこの今の世界に進歩があるのか、調和があるのか。私たち平和を願う者にとって。

万博を日本のアジアへの再侵略の記念碑としてはならない。具体的には何を為すべきか。まず自分に万博は何なのかを問ひかけるのだ。そしてそれを人と語りあうのだ！

豊島区 嶋田 健（浪人）

万博第二会場を造ろう

わたしは、ここに一つの提案をしたい。それは、千里丘陵に独自の建造物を造ることだ。世界の真実を語る、資本家のものでも国家のものでもない、われわれの館をわれわれで造るのだ。名前は、「アンボ館」でも「ペ平連館」でも、また他にあったら考えてほしい。とにかく真実を多くの人に知らせること。パネルの展示や、映画や、なんでも工夫すればいい。しかし、問題はそれをどこへおつたてるかということだ。もちろん会場からはしめ出されるだろう。だから、万博にくる人のなるべく多く通るところ、たとえば、出入口、駅などの近くで

できるだけのことをやらなければならぬ。五千万もの人々

に、歪められた真実、平和を知ってもらおう。

ところで一部には、万博をつぶす動きもあるらしいが、それは無理であつて、できたところの人々の反感をかうだけだろう。最良の策は万博第二会場を造つて、多くの市民に目覚めをもたすことではないだろうか。

諸君、千里丘陵にわれらの世界を！

（三重県松阪市・林茂・十七歳）

元自衛隊員からのアピル

ペ平連の諸君、私は君たちの活躍に対して強く賞賛の意を表します。

ところで私は先日、陸上自衛隊を中途退職し、それを正当な人間としての行為であると信じております。

あの小西三曹の事件でもされたとおり、自衛隊の存在を、私は絶対的に否定します。そしてそれを妥当なる方向に進ませねばならない。つまり自衛隊解散まで、もっていくべきである。それには、国民ひとりひとりに真実を知らせねばならない。けれども私でさえ客観的な見方をしていることを否定できません。正義の味方ペ平連、弱者を助

けるイイ男！
でも、われわれ国民はエゴですヨ。

だから、われわれがやるべきなのである、ですね。

諸君のいっその活躍を期待します。

（元自衛隊員A）

投稿その後

五号に私の「状況はあまりよくないが仲間をふやすよう努力している」の文がでて以来、入局チェックの厳重さ加減の方は、私の文がショックだったのか、あまり表面上はきびしくなくなつた。しかし、その反面労働の方の動きが活発になつて

る。その具体的な例として、私自身かなり頭にきていることなのであるが、先日の二月七日の定例デモの際、労働課の人間が三人張り込んでいたのにでつくわした。私が地下鉄赤坂見付から清水谷に歩いていたら、ちょうど橋を渡つてちょっといったところで会つたのである。五メートル間隔くらいはなれていて、一緒になつていなかったが確かに労働課のヤツだった（一人はKという男で、以前から悪名は高い男である。のこりの二人は顔を見たことはあるが、名前は知らない）。最初、公園のまわり

で張り込んでいたらしいが、参加者が多くてその効果がなくなつたので、交通機関である地下鉄の駅で張り込むべく場所を移動しているらしい。

このようなことがこれからもあるなら、気の弱い人間はデモに参加できなくなる。我々が人間としてあるかぎり当然である表現の自由、デモへの参加を脅やかすこのような犯罪的な行為は絶対に許せない。火に油をそそぐがごとく、この一事は私の闘争心、人間としての怒りを、ますます燃え上がらせてくれた。この次には必ずしも動かぬ証拠をおさえるつもりである。

（台東区・大竹茂）

来たりて見よ！ 新宿西口のチェコを！

友よ西口に來たれ！ そこで君は特高を、ゲシュタポを、ゲイパーウーを見るだろう。とにかく今の警察がどんなものかを知ることができる。

市民のみなさん一緒に歌おう！ 我々のもつ自由はオリの中の自由だ。解放の場を西口に

つくりよう。労働者のみなさん一緒に語ろう！ それを妨害する権力が職場での抑圧のもと同一であることを一緒に確認しよう。学生の諸君一緒に楽しもう！

消耗回復の場、カンパの場、討論の場を勝ちとろう。

アマ・カメラマンの同志と一緒に闘おう！ 今や権力は監視庁発行の統一「報道」腕章のあるなしで我々を圧殺しようとしている。自からの犯罪行為を隠し、真実を闇に葬りさるうとしている。

野次馬の諸君よ来たれ！ 君達は我々の強大な味方だ。

※西口解放目標時間、毎週土曜6PM〜8PM

なんだかんだ

私たちは、映画を作る

私たちは昨年七月、資金その他一切を人民のカンパニアによる、という形で自主記録映画「奪還そして解放」を制作し、

過去百二十回全国で上映され、約三万人を動員してきました。

現在第二目として自主記録映画、仮題「七十年代・叛乱と革命」という作品を制作中です。69年秋、小西元三曹によって提起された問題―軍事とは、軍隊とは、武装とは、といった根本的な問いから、自衛隊の存在の是非、軍隊内叛乱等に至るまで―を映像表現をとうして一層純化し進化させていくべく準備を整えております。

しかし、ごぞんじのように映画制作には膨大な資金を要します。この作品も前回同様すべてカンパによって制作したいと考えて、私たちの力量を十分發揮できるような厚いカンパを呼びかけます。

多くの労働者、学生、市民のカンパー金銭、食糧、労働等をとわずどのような形をとるにせよ、意識の物質化として―を要望します。

なお、「奪還そして解放」の貸出しも同時におこなっています。

渋谷区恵比寿三ノ三八ノ二二 高橋気付 電話〇三・四四四・七六一九 仮題「七十年代・叛乱と革命」上映委員会 「奪還そして解放」上映委員会

ヤングベ平連の発展の為に

「週刊アンポ」を開くと、毎号、ヤングベ平連からの集会・デモの呼びかけが出ています。そして、いつも百人以上の参加者が

あります。二月二一日の定例デモを、私達は二二日に延期しなければなりません。それは事務的な申請が遅れた為です。しかし、その様な事が起きる根本的な理由を再考しなければなりません。

九月以来、十五人ではじめた私たちは、毎回定例デモ（第一・第三土曜日・清水谷公園）を行なってきました。しかし、そこに結集した各校ベ平連あるいは個人の間の本質的討論を行わず、情性的行動としてデモをしてきたのではないでしょう

か。また、水曜日に行なっている会合に参加する人も極めて少数で、デモの意味づけすら行ない得なかったのではないでしょう

か。その結果、活動はごく少数の個人が行なうことになり、前記の様な事が起きてしまったのです。

私たちは、まず、前記の失態を自己批判すると共に、再び皆様に訴えます。現在の高校ベ平連運動の重要性、そして討論の必要性を再考して下さい。その意味で、水曜の会合（四時から神楽坂ベ平連事務所）に参加される事を訴えると共に、三月末に懇談会を開く事を提案します。

君の主體的・独創的な反戦運動を、ヤンベは私・私たち、そして君が参加して作るのです。

（東京ヤングベ平連 T・S）

☆旭川ベ平連。週刊アンポ読者会 3月20日午後6時より旭川労働会館にて（毎月隔週の金曜日） 連絡先旭川市春光町一区十条 勝浦功一気付

☆青森ベ平連。定例デモ 3月15日午後2時より市役所前に集

合その後デモ（毎月第3日曜日） 短信ピラ配付 毎週日曜 日午後場所不明。連絡先青森市本町五丁目6の13 西村方井沼章気付

☆秋田ベ平連。定例デモ 3月15日午後2時千秋公園に集合そ

の後デモ（毎月第3日曜日） 連絡先秋田市千秋城下町7の53 今田明方 根岸基治気付

い。

☆小金井反戦市民行動委員会。

定例集会 3月14日午後6時小

金井市民会館にて(毎月第2土

曜日)連絡先り小金井市本町5

の38の3 野口英次方 小金井

反戦市民行動委員会

☆国分寺市平連。定例集会 3

月12日、19日午後7時より場所

不明(毎週木曜日)連絡先り国

分寺市東元町3の14の22 宮野

孝気付

☆埼玉平連。定例集会、デモ

3月21日午後4時から集会そ

の後デモ場所不明(毎月第3土

曜日)連絡先り埼玉県浦和市領

家49 小林方 埼玉平連気付

☆茅ヶ崎ANPAN共闘。フォ

ーク集会 3月14日、21日午後

4時から茅ヶ崎駅北口または市

立公園内平和塔前にて(毎週土

曜日)連絡先り不明、知らせて

下さい。

☆新潟ヤングベ平連。定例集会

3月11日、18日午後4時から

6時婦人会館にて(毎週水曜

日)定例カンパ 3月14日、21

日午後3時より古町にて(毎週

土曜日)フォークゲリラ 3月

14日、21日午後5時から6時ま

で古町にて(毎週土曜日)連絡

先り新潟西郵便局私書箱145

号

☆自由を我らにノ筑豊市民学生

連合雑談会 3月14日、21日午

後2時より5時まで(毎週土曜

日)連絡先り福岡県飯塚市飯塚

郵便局私書箱25号

☆「戦争に反対するデモの会」

ヤングベ平連チバ。定例集会、

デモ 3月21日午後2時千葉中

央公園にて集会、3時より市内

目抜き通りデモ(毎月第1、第

3土曜日)連絡先り不明、知ら

せて下さい。

☆仙台ベ平連。「第2、第3、

の小西をノ」仙台行動委結成大

会 3月9日市立公会堂、時間

不明。連絡先り仙台市同心町通

30 武田アパート内青柳純一気

付。

☆雑司ヶ谷ベ平連。定例集会

3月14日、21日午後3時鬼子母

神にて(毎週土曜日)連絡先り

東京都豊島郵便局留 中川龍之

輔気付

☆中野反戦行動。定例デモ 3

月22日午後2時中野新井葉師公

園に集合その後デモ。そして討

論会。(毎月第4日曜日)連絡

先り中野区南台2の35の2 高

田方 石川たか子気付

☆長野ベ平連。定例デモ 3月

21日学生コース、午後4時城山

公園出発 社会人コース(学生

の参加も可)、午後5時半に長

野駅前出発。連絡先り長野郵便

局私書箱98号

☆飯田ベ平連。学習会 3月14

日、21日午後1時30分より公民

館2階の相談室。連絡先り長野

県飯田郵便局私書箱46号 飯田

ベ平連気付

☆浜松ベ平連。定例デモ 3月

15日午後1時新川公園集合その

の後デモ(毎月第3日曜日)連絡

先り浜松市文丘町27の30柿本方

小川涉気付

☆反安保キリスト者連合・反万

博市民共闘 3月15日午後3時

扇町公園に集合その後デモ、万

国博初日ノ 万博に抗議するデ

モ。連絡先り大阪府高槻市富田

町3丁目7の25 日本キリスト

教団摂津富田教会 桑原重夫気

付

☆ベトナムに平和を非暴力反戦

市民の会。定例デモ 3月15日

午後1時ことぶき児童公園より

神柱公園まで(毎月第1、第3

日曜日)連絡先り宮崎県都城市

川東町 ベトナムに平和を非暴

力反戦市民の会気付

☆ベトナム反戦姫路行動 討論

集会 3月15日午後1時より5

時まで姫路労働会館。定例行動

3月15日午後5時30分より7時

姫路大手前公園露台前集合。連

絡先り姫路市かめ山354 向

井孝方 ベトナム反戦姫路行動

気付

☆新宿ベ平連。定例デモ 3月

21日午後4時大久保公園に集合

その後デモ(毎月第3土曜日)

連絡先り新宿区西大久保2の2

06 古屋能子

☆所沢ベ平連・狭山ベ平連合同

定例デモ 3月15日午後2時よ

り新所沢緑町公園集合後デモ

(毎月第3日曜日)連絡先り所

沢市久米1234所沢高校内

「形而上学研究会」

☆札幌ベ平連。定例デモ 3月

15日1時20分、大通テレビ塔下

(毎月第3日曜日) 定例集会

毎週水曜日(時・場所はデモ・

集会・ニュースその他でお知ら

せします) 連絡先り札幌郵便

局私書箱276

☆三鷹反戦ちようちんデモの会

定例デモ 3月15日午後6時30

分 中央線吉祥寺駅南口武蔵野

公会堂前に集合(毎月1日、15

日) 連絡先り三鷹市井の頭5

の8の11 もののべながおき気

付

☆無宿共闘学習会 3月2日

(第3回)7時 チーマ・三島

由紀夫 3月16日(第4回)7

時 テーマ・平和とはなにか 連

絡先り札幌中央郵便局私書箱2

76号札幌ベ平連気付

☆山口ベ平連。定例デモ 3月

14日午後4時半 山大教育学部

前(毎月第2土曜日) 連絡先

り山口県山口市市中町3の33山

根方 白橋勉気付

☆ヤング(高校生)ベ平連 定

例デモ 3月21日午後2時より

清水谷公園(第1・第3土曜日)

☆横浜ベ平連連絡会議 3月20

日場所・時間とも不明

☆リトルベ平連アメリカ。フ

ォーク集会 3月1日より毎月

曜日午後1時より小田原城跡公

園 連絡先り世田谷区船橋3の

11の16美濃路荘森田忠気付

☆徳島ベ平連。定例デモ 3月

15日午後3時より徳島駅前(毎

月第3日曜日) 連絡先り徳島

市南二軒屋町山越1112 長

谷川正治気付

☆反戦反安保市民行動委。定例

会議 3月10日、17日午後6時

30分四条寺町下る東入労働会館

会議室(毎週火曜日) 連絡先

り京都ベ平連

☆京都北地区反戦市民の会。定

例学習会 3月14日、21日午後

6時烏丸上立売同大学生会館会

議室(毎週土曜日)

☆砂川ワークキャンプ 3月14

日夕刻から16日まで立川市砂川

町1232の8砂川反戦聖域

にて、会費10000円、3月15

日国有地開墾をやる、寝具有り

討論資料各自持参。連絡先り立

川市砂川町1232の8砂川反

戦聖域行動隊気付。

※3月23日から4月5日までの行動日
程、公判日程をお知らせ下さい。締切り
は3月11日です。

■特集

教育を問いかえそう

大学闘争はあらゆる問題が未解決のまま行方不明となり、今や教育全体が本来の意味を問われつつ混迷を重ねている。その実態と原理を見つめよう



教育はどこで 終るのか

小田実

(一)
ときどき、いや、このところ、しょっちゅう、私は考えている。「教育」はどこで終るのか――。

と言っても、私はここで年齢のことを言っているのではない。何歳になったら「教育」はおしまいになる、学校教育はそこで終つてあとは成人教育に移す、というようなことをことあたらしく言っているわけではない。

私の言っているのは、次のようなことだ。

たとえば私が社会科の教師だとする。日本の社会のことについて私は教える。当然のことながら、私は日本の社会のさまざまなムジュン――いや、もっと強いことはを使って言うべきだろう――不正にふれざるを得ない。

そこまではいい。問題はない。私はとくとして、これまでの学者たちの研究成果にふれながら、しゃべりまくるだろう。生徒の眼が輝き出す。私はそれを見ながら、自分の「教育」は成功だ、と考え始める。自画自讃する。

あくる日、生徒の数人が連れだって、私のところに来て来る。

先生のお話はよく判りました。

一人が言う。

私はうれしさをかくしながら何気ない表情でうなずく。

昨日は眠れなかった。
ほかの一人が言う。

私はますますうれしくなる。
何か言い出したくなる。不正について、さらに一席おちたくなる。

と、ふいに横からそれまで黙っていた一人が言う。

で、今日はこれから弾薬庫のまえに坐り込みに行くんです。

先生はどうですか、というふうな眼で彼は私を見る。

私はギョッとする。なぜ、ギョッとするのか。

こうしたことが私に実際にあったというわけではない。ただ、こうした場合を私はいくらでも想定できる。根本的問題は、一つある。それは「教育」は、いったい、どこで終つたことになっているのか、つまり、「教育」は、弾薬庫のまえの坐り込みまでふくむのか、ということだ。

三つの場合が考えられるだろう。
まず、教育はそこまでふくまないという立場をとる場合である。

「教育」はなるほど社会の不正について教える。それをことこまかに分析してみせる。しかし、それをきいた学生がどう考えようと、何をしようと、あとは知ったことか、というわけである。

あるいは、Aという事象について、さまざまな学説を紹介する。

Aという学説によると、Aは困った事象だ。一刻でも早く消滅させなければならぬ。

βによると、ことはさように簡単ではない。Aにもいいところはある。と言つてすべてが万歳だというわけでもない。それがγの学説では、Aはまったくすばらしいことがらになる。日本中、いや、世界中がAでうずまればよい。

「教育」はもの判りよく、α、β、γの学説を紹介する。そして、学生がどれをとるか、そんなことはおれの知ったことではないと聞きなせる。

二番目の立場は、坐り込みなんかやめろ、という立場である。と言つても、坐り込みよりもデモ行進のほうが効果がある、といったふうなことを言うのではない。たとえば、坐り込みなんかは学生の

することではないと言つてやめさせようとするのである。

こういうことを言い出すと、学生はこ

とばを返して来るにちがいない。

そうすると、先生が教えて来たことはあれは、いったい、何なのですか。不正はある。しかし、黙っている。つまり、そういうわけなのですか。それじゃあ、「教育」に何の意味があるのですか。

さて、こうした学生のことばに何と答えればよいのか。

もちろん、こうした立場は、坐り込みまで「教育」の領域のなかにふくみ込むことを前提にしている。それを前提としているからこそ坐り込みなんかやめろ、学生は学生らしく黙って勉強しろ、と言えるのだろう。

同じように、今度は、坐り込みは結構だ、大いにやりたまえ、と先生が激励する場合を考えてみることもできる。そのときにも、坐り込みまでが「教育」のなかに入っているのだろう。さて、先生がそんなふう言い出すとなると、学生のほうのことばを返す。

先生はどうするんですか。坐り込みするんですか。

(二)

話をさきに進めるまえに、ここで一つ言っておかなくてはならない。それは、たとえば世の中の不正をおいかくすような「教育」があるということである。

このごろ政府が必死にやらせようとしている「教育」はこうした教育だから、そんなものは「教育」の名に値しないものだとい蹴し去るわけにいかない。それはそれでべつところでじっくり考えてみたいのだが、さて、学生たちは、私がこう言うのと、聞きなおって言うかも知れない。伝えっぱなしだったら同じことではないか。坐り込みをとめるとなると、もつとわるいのではないか。あるいは、先生自身が坐り込みしないとすると、これもまた同じではないか。

私には、ここ一、二年來、学生たちが提起して来たことがらはそうしたことであったように思われる。すくなくとも、戦後教育は、社会の不正を指摘することにおいてはかなりなことをして来たように思う(ここで、「教育」ということはの代りに、「学問」ということばを使つてもよい)。そして、まさに、それゆえに、学生たちは直接、間接にそうした疑問を口に出して来ているのだろう。

私は一部の学生たちが言うように、戦後教育がまったくのインチキのどうしようもないものであったとは思わない。多くの欠陥はあったにしても、それは決してインチキなものではなかった。あくまでマジメだった。そして、それゆえに、まさに、学生たちによって根本的な疑問が出されて来たのにちがいない。

教師も学生も根本的に考えてみるべき問題である——いや、こんな評論家が言うようなきまり文句はバカけている。それより、私はどうなのか。

私は、たぶん、第一の立場をとっているのだろう。と言つても、α、β、γの学説を紹介するというようなことをやっているわけではない。私はただ、おそらく、次のようなことを言っているだけなのだろう。ここにAという不正がある。私はそれを不正だと考える。それに対して、私はこうしようと考える。

私は学生にそれだけ告げるだろう。あと彼らがどうするか、私は知らない。知っていることは、私が実際それをするかどうか、ということだけである。もちろんそのとき、私は教師としてそうしているわけではないだろう。一人の人間としてそうしているだけのことで、しかし、そのとき、私は「教育」の外にいるのか、なかにいるのか。ここで、私が言っているのは他人に対する「教育」ではない。自分自身に対する教育である。

◆全ページをあなたがつくる!

安保をつぶす意志のある人すべてに、「週刊アンボ」は開放されています。安保・沖縄・ベトナム・朝鮮人問題・高校教育問題、あるいは権力の腐敗について、あなたの手持ちの情報のすべてを送ってください。

(四百字原稿用紙2〜20枚程度)

◆送り先 週刊アンボ社編集部投稿係

なんだ!

視されるのか?
都合がいいからだ。

佐藤忠男

もういろんな人が言っていることで、いまさらとも思うが、念には念をおす興味でいわせてもらおうと、近年の学園闘争があきらかにしたひとつの根本的な問題は、学問ってなんだ、教育ってなんだ、それはつまり、国家が既存の体制に都合のいい技術や人間をつくるための仕掛けでしかないのではないかと、そして、それは間違っているんじゃないかと、ということだと思う。

■「科学を人民の管理下に」

これまでも、学問とはなにか、教育とはなにか、ということとは、ちょいちょい、問題にはなっただと思うが、いまのように、大衆的な規模で、鋭く問題が出され、深刻に考えられている時代というのは、やはり、かつてないことだと思う。どうして、いま、そういうことがこんなに重大になってきたのか。原因はいくつか、考えられるだろう。いろんな面で、これまで無条件に信じるようにしむけられてきたことが、疑わしくなっている。

まず、学問についていえば――

科学が原水爆を生み出したということが、科学というものに対するこれまでの人間の無条件的な信頼というものを打ち砕いたと思う。科学は人間を進歩させ、幸福にするものだ、と、いわれるままになんとなくこれまでの人間はそう思ってきたが、どうも、そうとばかりはいえないことが、はっきりわかってきた。科学

というのは、人民によって管理されないと、とんでもないことになりそうである。広島と長崎で、人類はそれを思い知ったのである。しかし、科学万能という信仰の下で教育されてきた古い世代は、広島・長崎を知っても、「科学を人民の管理下に」(1)というようなスローガンをうち出すことができなかった。あれから二十五年。科学の発達が、ますます、人類絶滅戦争の準備という色あいを濃くしてくるなかに育った新しい世代が、やっと、「科学を人民の管理下に」(2)というスローガンのもう一歩手前ぐらいのスローガンとして、「帝国主義大学」解体という叫びをあげたのだ。帝国主義大学などど洒落たことをいうから、ちょっと意味がとりにくいが、「科学を人民の管理下に」(3)と、もうひとつはっきり言ってもらえば私にはすっかりとわかるし、ぜひそうでなければと思う。

もちろんこれまでも、学問の自由、という考え方があって、科学の管理は学者が行うべきであり、政治家に支配されてはならない、というところまでは考え方として確立していたわけであるが、産学協同というような事実が出てきたり、原子力や宇宙開発や海洋開発など、いわゆる巨大科学で、どうしても国家予算のなかの相当なパーセンテージの研究費をつぎこまなければやれない研究部門が重要になってきて、政府の仕事として科学研究ということが出てきたりして、学問の

自由ということも、ただ学者の自由な好奇心にまかせておけばそれでいいのだ、とはいえなくなってきた。どういう研究にどれだけの予算をつぎこむか。その研究成果をどう利用するか。そういうことが自ずから重要な政治問題になってくるのだが、そうすると、決定も、自ずから、政治家と、学界のボスたちとの馴れ合いですすめられてゆくことになり、人民はつんばさじきにおかれることになる。なにしろ学問は自由だから、学者が政治家や企業と馴れ合うことも自由だし、いっぽう、人民の側からは、学問の自由をおかしてまで、こんな研究をしてほしくない、こんな研究はおかしいではないか、とは言えないし、そもそも、これだけ科学が発達してくると、なにがなんだか分らなくて、文句のつけてみようもない。大学闘争というものにはいろんな意味があると思うけれども、私が、私流の関心から要約(総括)しているのか? するならば、これは、学問の自由というものが、学者によるささやかな研究の自由、ということから、学界と政府(自衛隊を含む)と大企業の三者複合体による科学の独占、という別の事態へと変貌をとげつつある過程に生じた、それへの抵抗運動である。それは、当面の要求としては、学者だけが学問の自由の担い手なのではなく、学生も学者と平等の権利をもつて学問の自由に参加するのだ、という形で出てきたが、やがて当然、「科学を

教育

- どうして、英語や数学が
- それは、エリートの選別

オロギの研究、社会科学研究では学問の自由は守られていても、自然科学のほうでは、大企業の意志にもとづく研究体制というものが着々と進行し、やがてはそれが、アメリカで産軍複合体と言われているように、政府と自衛隊の意志にもとづく研究体制にもなりかねないのである。そうすれば、たとえ社会学者がマルクス主義を研究する自由を確保していたところで、学問の自由なんて、自然科学の面では実質的にはたいした意味がなくなってしまうだろう。

■人民の側の教育原理

教育の問題も、私は、大学闘争で出てきた以上のような問題点との関連で考える。将来、人民は科学を管理しなければならない。科学研究のための国家予算を、人類絶滅兵器の開発に使うか、それとも公害駆除のために使うか、というような根本的な大問題からはじまって、さまざまな科学上の問題を、ある程度、大衆討議で議論できなければならないと思う。もちろん、科学の中味までは、大衆討議でどうこうするってわけにはゆかないけれども、少くとも、科学行政に大衆的ならみをきかせるぐらいのことは、大衆的なレベルで出来なければならない。人民は、その素養を持たなければならないのだ。そういう素養をつちかう作業として、国民教育というものが位置づけられるべきである。

いま、私は科学のことだけを言い、それも主として自然科学のことだけに問題をかきつた。しかし、社会科学系の学問でも、たとえば法学なんてのは、学者だけが勉強していればそれでいいものではなくなっていると思う。松川事件や八海事件にはじまって、さいきんの東大裁判とか、テレビ局のフィルム提出問題とか、肖像権の問題とか、国民的な注目をあつめる事件や、社会の変動にもなっている、人々の生活に関係の深いややこしい問題がたくさん起ってくる。国家権力は、エロの取り締り強化、というようなときには、PTA的世論を奨励してそれを支えに行動をおこし、新宿西口広場の集会のような青年たちの反体制運動のばいばいカメラの撮影を妨害したりして世論を小さくしようとする。人民は、これらの問題に対して、相当レベルの高い議論ができなければならないと思う。そして、そのためには、ある程度、法学上の素養もたなければならないと思う。

そうした素養を得る場、として国民教育というものを考えると、それは、これまでの国民教育の概念とはだいぶ違ったものになってくるはずである。これまでの教育の考え方は、国家の側からすれば、教育とは、国家権力にとって役に立つ少数のエリートと、国家権力に対して従順な大衆をつくる、ということであるし、それを受ける人民の側からすると、

出世のため、あるいは就職のため、ということになる。従って、国家の側からすれば、従順な大衆であるために必要な知識以外、批判精神などという余計なものを持たない人間をつくるために、教科書検定を徹底的にやったり、学習指導要領で教えることの枠をきっちりとしたりする。また、そういう教育を受けた若もたちのなかから、少数のエリートを選び出すために、いちばん能率的で公平な方法だということで、暗記本位・受験技術本位の教育内容になる。そして人民の側は、その教育競争で頑張る以外に出世の道はないというので、その教育を必死に追う。

■人間選別に都合がいい学問

しかし、じつさいのところ、その教育はなんの役に立つのだろうか？ たとえば数学や英語。高等学校でかなり高度な数学や英語を教えられるわけであるが、職業によっては一生高等数学などとは無縁にすこすし、英語も、それを生活に役立てる立場の人間はかぎられている。にもかかわらず、それを学ぶのか？ まず、そんなところから考えてみる必要がある。よく言われることに、高等数学なんか実生活とはなんの関係もなくても、ものごとを理づめに考える思考力を養ううえにはたいへん役に立つ、という説明がある。が、しかし、こんな説明が嘘っぱちであることは、一流の数学者だ

人民の管理下に！という要求に発展してゆくべき性質のものなのだと思う。
だいたい、学問の自由ということは、資本主義国であっても、大学でマルクスの思想を研究したり講義したりすることは、いっこう差支えないというようなことである。そして、その意味では、この自由は現在の大学では慎重に守られてきていると言えるし、なおいっそう、力をつけて守ってゆかなければならないものである。が、しかし、思想的研究、イデ

という岡潔という人のベストセラーになった社会批評的な本を何冊か読めばいいに分る。この人は数学者である以上、たぶん専門の数学では筋の通った理づめの考え方が出来るのだろう。しかし、日本文化論などというものになるとデタラメもいいところで、ただ思いつきを羅列しただけの空想的なものにすぎなくなる。その思いつきに、ときには気のきいたものもあるが、吹き出したくなるほどバカバカしい部分のほうが多く、とにかく、理づめ、なんてものではない。数学を学ぶと論理的な思考ができるようになる、などという思いつきの妄説を身をもってふきとばしてくれたことを、私は、岡潔に感謝しているくらいだ。おなじような意味で、英語などでも、たとえ一生英語を使う機会などなくとも、英語の文法を知ることが西洋人的なものの考え方を知らうえに役にたつ、などという効能論もある。しかし、こんなのもずいぶん無理した言いまわしである。理づめの考え方を学ぶためなら論理や哲学でもやればいいし、西洋人的なものの考え方を知らなければ西洋思想史を学べばいい。

のを教えても直接的には体制批判などにつながらる危険性がないということがひとつ、そしてもうひとつは、これなら試験でエリートを選抜するのが容易だ、ということであると思う。哲学だの思想史だのということになると、考え方が違えば点をつける基準も違ってきそうしようもないが、数学や英語は、その点、おなじ基準で万人をふるいにかけることができる。ところが、数学や英語が人間選別にもっとも都合のいい学問だということとが分ると、人間には他に学んだら有意義だと思われるものがたくさんあるにもかかわらず、そこにみんなが全精力をかたむけて勉強するので、自ずから、そのレベルもあがり、したがって試験もいっそう、重箱の隅をつつかせるような、受験生のアラさがし本位のものに堕してゆき、それに合わせてまた、教育の内容そのものが暗記本位になってゆく。悪循環である。

私は、数学や英語を非難しているのではない。若いうちに学んだらいいものは、他にいっぱいある、と言いたいだけである。そして、数学や英語だけでなく、他の興味おかい学問を、もっと自由にやれるように、教育の体系全体が組み変えられる必要がある、と言いたいだけである。これはコンピュータ時代だから数学を大事にしよう、などという考え方がもしあったとしたらバカバカしい。貿易自由化の時代だからもっと英語を、

家

などという考え方が、もしあったとしたら、むしろ、もっと中国語を、朝鮮語を、マレー語を、と言うべきである。

■我々に出来る教育とは

さいしょに書いたように、これから、人民が科学を管理しなければならぬ。そのためには、われわれは科学に強くなければならぬ。そのために数学が必要だというのであればそれもやろう。一般に科学教育振興といったことが言われるときには、国民に広く理科や数学を教えこめば、そのなかから何人か、優秀な学者や技術者が育つから、将来の産業の発展に有利である、という考え方があり、イギリスのウィルソン首相の言っている科学教育重要な政策や、アメリカなどが英才教育に熱を入れていることなどは、みんなそういう考え方にもとづいたものである。が、それではあんまりきもしい。それは優等生中心主義というものである。ひとにぎりの科学的秀才を発見するために、科学教育のレベルを上げるのではなく、ひとにぎりの科学的秀才が企業家や政治屋どもと結んで勝手なことをするのを監視するために科学教育のレベルを上げる必要があるのだ。ただし、そうなると、科学教育の内容そのものも、いくらか違っはくるだろう。

おなじような角度から、国語や社会科学の内容も再編成されてゆく必要があるだろう。文学教育もいいが、たとえば政治

これが教育だというけれど

「学校教育」は、人間を変え
ることはできない——そんなふ
ろに、わたしは考えたい。原理
的に、それは正しい、とわたし
は思う。わたしを教育するのは
わたしじしんにしかできない、
きわめて原則的に、こう考え
たい。

しかし、はたして、現実によ
うなっているだろうか？

各地の学校を訪ね歩いてい
るうちに、わたしの眼に映ったも
のは、「学校教育」は、確実に、
人間を変えているということだ
であった。さまざまな方法でさま
ざまな場所で、「教育」はわた
したちを変えつつあった。

そしてそれは、どのように、
わたしたちを変えつつあるのだ
ろう？

教師たちは、多くを語りが
らなかった。かれらにもまた、
どのように変えつつあるのか、
定かではないのかもしれない。
巨大なわく組みのなかで、その

機構の頂点に向けて収斂してい
くような、そんな現代の「教育
制度」のなかで、教師たちも頂
点を見上げながら、教え子たち
を「教育」している、というの
が実情のように見えた。

教師たちは、いちように、う
つむきかけんであった。日本の
教師たちの、この暗さの理由
を、たぶんわたしたちは、かれ
らの背後にある機構——それは
権力と呼んでもいいのかもしれ
ない——との関係のなかに見い
だせるのかもしれない。

教師たちはほとんど、この機
構のわく組みのなかから、抜け
出てはいなかった。そうして、
このわく組みをそのまま、自己
の学校や教室のなかに持ち込ん
でいるのも事実であった。

人間を変えるために、「教育」
は、ひとつの「制度」でなければ
ならない、「制度」は「力」
でなければならない、具体的に
も抽象的にも——権力は、そし

てそれに意識的にも無意識的に
も連なっている日本の教師たち
は、こんなふうな方程式を組み
たてたのにちがいない。

「力」としての「教育制度」
は、だから、あとかぎりのや
り方で、人間のかこい込みをし
てきたのだった。

「教育」は、人間を変えられ
る。「制度」が「力」を所有し
ていなければならない、それは可能
なのだ、わたしはそう思う。

全国、いや、全世界各地に起
きたさまざまなたたかいは、
「力」としての「制度」に対す
るものであると同時に、その
「制度」をつくり出している全
体に対するそれでもあること
を、わたしたちは知っている。

たたかいは、こうして始めら
れた。だが、「力」をもつ「制
度」が、あまりにも多いこと
を、わたしたちは忘れ去ること
はできない。日本の教師たちの
暗さもまた、この「力」として

の「教育制度」に、あるときは
あからさまに、あるときはひそ
かに、連なっている。

荒野ということばがある。奇
妙ないい方をするなら、日本の
「教育」の現状は豊かな荒野と
もいうべきものなのかもしれない。
その豊かさが、どこを向い
ているのかを、わたしたちはよ

うやくつかみ始めたばかりだ。
荒野をほりおこしはじめたの
は、まさに「紛争」をおこした
人間たちにほかならない。

「紛争」ということばをつか
うなら、紛争のおきない学校ほ
ど、救いがたい荒野なのだ。わ
たしはそう思う。

(編集部・吉岡)

小学生よ、 日の丸に注目せよ！

——宮市立神山小のばあい——

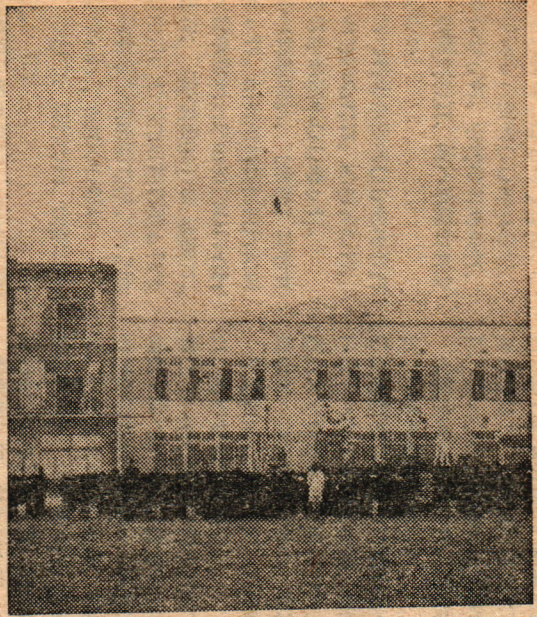
名古屋駅から名鉄電車で一五
分のところに尾張一宮駅があ
る。

二月一日、「紀元節」の日
に、駅前通りには日の丸がす
りとならんでいた。

家々ののき下にならんだ日の

丸のはるか向こうに、一宮市立
神山小学校がある。「紀元節」
の日には、生徒たちのいない校
庭の国旗掲揚塔に日の丸が高々
とひるがえっていた。

一宮市立神山小学校。校長小
川光夫氏。職員数約四五名。生



朝礼に日の丸を掲揚する神山小

徒は一六〇〇名。

八時四〇分、神山小学校の校庭の国旗掲揚塔に日の丸があがる。

小さな体で日の丸を上げているのは、児童会の副会長である。「注目！」

教師の号令がかかる。校庭に整列した一六〇〇名の小学生たちの目が日の丸に注がれる。

しばらくの後、「注目直れ！」の号令がかかると、小学生たちは一斉に深く頭を下げる。

こうした光景は、雨が降らないかぎり、毎朝、くり広げられ

ている。

雨の朝、この国旗掲揚式でできないとき、「放送朝礼」というのがある。教室にあるスピーカーから号令が聞こえる。

「注目！」

生徒たちは黒板の上に、額におさめられて、掲げられている日の丸に注目する。そして、「注目直れ！」の号令とともに、深々と敬礼する。

この他に、国旗降納式というのがある。月、木、土曜の三日の下校時に小学生たちは校庭にならぶ。一日中、小学生たちの頭

上にはためいていた日の丸を、児童会副会長が静かに降ろしていく。

一六〇〇名の生徒たちは、その間、直立不動でいなければならない。

こうした国旗掲揚式や国旗降納式が行なわれるようになったのは七年ほど前の花木蔦雄校長の時からである。

当時の池田内閣の高度成長経済を背景に、文部省は、国旗「日の丸」や国歌「君が代」を、各学校で敬うよう通達を出した。

それに呼応するかのようになり、一宮市にあってかなり積極的な活動をくり広げている元軍人たちの組織「郷友会」が一宮小学校と、それに隣接する中部中学校に、国旗掲揚塔と国旗を寄付した。

以前から自民党の強力な地盤であった愛知県では、こうした文部省や「郷友会」の動きに抵抗を感じたり反対したりする人たちは、ほとんど無かった。

国旗掲揚式や国旗降納式に、いく分でも異議を申し立てた新任の若い教師などがいたりすると、PTAや学校側から、白い眼で見られたり、目に見えない圧力がかかったりしたものであった。

子供会の式次第の中にも必ず、国歌の斉唱と国旗への注目

が入るようになった。

また、「紀元節」の前日には各生徒に、「紀元節」の「意義」を説いたプリントがくばられる。

日の丸は気持ちがいいか

「紀元節」の日、平和通りでバレーボールをしていた小学生に、質問してみた。

「きょう、国旗を上げた？」

「うん、上げた。だって、先生がまわってくるんだもん。上げてなかったら、明日、注意されるんだよ」

小学生たちに、教師たちは、国旗を上げるのは、小学生たちの仕事なのだ、と教えている。もし、家に国旗がなかったらどうするか？

「学校で、文化祭というのがあるの。そのときに、学校で、国旗のない家には売るんです。だから、ほとんどみんなの家に日の丸はありますよ」

日の丸を上げることに、小学生たちは何の抵抗も感じていないのだろうか。

「朝ね、校庭にすると目の丸があがるとね、とっても気持ちがいいじゃない」

他の小学生が、別のことをい出した。

「でもね、あんなのつまんないよ。日の丸が上がっていると、きき、となりの子と話したり、

姿勢が悪いと、先生はいつもどなるんだもの」

そして、その子は次のようなことを話してくれた。

兄弟のいるクラスで、先生が小学生たちに、朝の国旗掲揚に賛成するひとは、といって手を上げさせた。すると、クラスのほとんどの小学生が手を上げたという。その次に、生徒たちに眼をつぶらせて、同じ質問をした。と、クラスのほとんどが手を上げなかったのだという。

話してくれた小学生の兄弟は眼をそっとあけて、だれが手をあげるのかを見ていた。

「きみも、ほんとうはどうなの？」

朝、日の丸が上がっていくのを見ると気持ちがすっきりするといった小学生にきいてみた。

「なにも、日の丸が上がっていくのを見ているのだけが、気持ちいいっていうわけじゃないのね。他のことをやって、気持ちがいいんなら、そのほうがいいと思うんだけど……。でも、そんなこといっても、いまの学校じゃ、そんなのないもんね」

小学生たちは、ふたたび、バレーボールに熱中しはじめた。家々のきに掲げられた日の丸は、ボールとはほぼ同じ高さにあったのだが、小学生たちは、日の丸ではなく、バレーボー

ルに「注目」していた。自由な姿勢で、自由な動作をくり返し

コンピューターは国を守る

——千代田学園のばあい——

千代田学園という学校が、**+**を集めてくれた。五人いて、五人とも、この学校の中退者たちであった。

情報化時代、コンピューター時代というかけごとともに、この種の専門学校は最近とくに増えている。

それぞれの科目定員は、一番多い科で二五〇名、少ない科で五〇名であるが、実際は毎年、この倍以上の学生が入学しているという。

この種の学校では、どのような教育が行なわれているのだろうか。

都内のある予備校で、千代田テレビ技術学校を中退して、ある大学に入ろうとしている学生に会うことができた。

彼は、すぐに、千代田テレビ技術学校にいたころの友人たち

たりする「不平をもった者」が出てくるのを防ぐために、この学校は、かなり「意欲的」な試みを行なっている。

そこで、身分証明書をかねた「学生必携」を見てみよう。

「禁止事項」という項目がある。

「(1)本学学生は、政治団体への加入および政治活動を行なうことを堅く禁止する。(6)学校前の道路上において、交通妨害となる行為があつてはならない。(11)学校には、新聞、雑誌の持込みを禁ずる」

また「校友会規定」には、「学校新聞、校内放送等、全生徒を対象とする文書、原稿は事前に学生課の承認を要する」

去年の夏の初め、全国の大学は、「赤旗をふったり、デモをしたりする」学生であふれた。

そのとき、千代田学園には、ひとつの組織が生れた。その名も「防衛隊」。

いったい何から、何を守るのか。「外敵から、わが学園を守る」というのが、その設立の理由であったが、「外敵」というのは、抽象的には、政治的行動、具体的には、それを現実に行なっている、あるいは行なおうとしている人々のことであつた。

これら防衛隊員となつたのは、千代田学園の学生たちであつた。

た。もしこの「防衛隊」に入らない学生がいると、「教職員会議により選出され、任命された」「学生必携」全校委員によって、「防衛隊」に入隊しない理由を上げしく問われるのであつた。

したがって、「防衛隊」に入らない学生がいると、ただそれだけで、その学生は「防衛」の対象とされていく。だから、ほとんど全学生が、「防衛隊」に入隊せざるをえなかった。

隊員たち（といっても、もちろん学生なのだが）は、左腕に大きな黄色の腕章をまいて、校内外を巡回する。腕章には、大きく「防衛隊」。

さらに、この「防衛隊」のなかから、「機動隊」がつくられた。「機動隊」といっても、警察の機動隊ではないが、役割りはほとんど同じであつた。

ヘルメットをかぶり、体力に自信のある学生が、「機動隊」を名のり、校内外を巡視して歩く。とにかく、「交通妨害」という理由で、千代田学園の敷地の外にいらしてもピラをまくものがいたら、追いはらおう、という意気込みなのである。

「日本の歴史はいつも正しい」「土曜作文」というのがあ

る。毎週土曜日に、たとえば「団体生活はどうあるべきか」

というタイトルを与えられて、作文を提出しなければならぬ。

「学生生徒に学園内で厳重に規則を守らせ、学則、就学規定に反したものをびしびし処罰するのは、学園の秩序を守る」

（「本学園の教育方針」）ためであるとする方針に反する内容の作文を提出すれば、どうなるか。

あるいは、提出日が少しでも遅れると、どうなるか。全校委員のはげしい質問が待っている。それだけでなく、やがて、退学、ということにもなりかねない。

そして、優秀と認められた作文は、学校の主催による弁論大会で発表される。もちろん発表時の原稿も事前に検閲を受けるのである。

こうした環境のなかで教育される学生は、いったいどこへ行こうとしているのか？

「立派な日本人となれ」という項目が「本学園の教育方針」のなかにある。

「民族的な共通の感情が、民族精神とか同胞愛とか、あるいは民族魂とかであり、他民族に対しては排他的になり、同一民族は固く結束する精神となつて」

「献身的精神にまで高まってゆく」。「日本は大和民族という単一の民族によって構成さ

れ歴史も古く、ことに明治維新以来の目ざましい発展は、日本人のすぐれた国民性、とくにおう盛なる愛国心によるもの”である。それなのに、「戦勝国が日本を占領し」、「民族精神のどばしい」方向に仕向けてしまった。そこで本学園は「学生・生徒の民族意識の高揚をはかるうとしてゐる」。

考えているおろかな者がいる」「日本人がたぐさんの大罪惡を犯したように考えるのはすでに日本人の考え方ではない。日本人としての民族精神、国家意識がかけている」

こうした考え方の上に、未来のコンピュータ技術者は養成されていく。「本学園の建学の精神を信じ、教育方針に服し、自分の眼を開け。諸君の明日も開かれる」

さて、「開かれた明日」それはどんな明日なのだろう？

進学・オンライン

——日本進学教室のばあい——

日本進学教室は、本部が千駄谷にあって、教室は都内の数カ所に散らばっている。生徒は都内だけではなく、近県の多数の学校から集められている。

この進学教室は小学校六年生だけを対象にしたものである。

「小学校における学習が、国立や私立の有名中学の入学試験の上にも、いちばん基本になる

的」はこういつている。

「進学教室はエリートですよ」

授業は、男子組と女子組に分けられていて、それぞれ国公立組と慶応組にまたそれぞれ分けられている。

国公立組は、「国立大学附属中志望者」と、都立高専中または有名公立志望者」と、「特に競争のはげしい一流の私立中学志望者」のクラスである。

慶応組は、「慶応の普通部または中中部の志望者」と、「特に競争のはげしい有名私立中学志望者」のクラスである。

生徒数は、現在二六〇〇名である。各クラス五〇名から一二〇名。

二六〇〇名といってもピンとこないかもしれないが、次のようにいったらどのような数字かわかりいただけると思う。

中学校は義務教育であるために、ふつう入学試験は行なわれないが、なかには試験を受けなければ入学できないところがある。

その数は、生徒数にしておよそ三〇〇〇名である。二六〇〇名という数字は三〇〇〇名のはとんどに当たるわけである。

またちなみに、三〇〇〇名という数字は、都内の中学校へ進学する小学校六年生の二パーセントに当たる。

いわゆる進学塾、進学教室には二種類あるといわれている。

ひとつは、試験の必要な中学に入学するための「進学教育」であり、もうひとつは、「補導教育」と呼ばれているものである。

「補導教育」というのは、最近の交通のはげしさや、誘拐事件に子供をうばわれることをおそれたり、狭い部屋や家に子供たちが騒いでいるのをきくらう母親たちが、いわば「託児所」的に利用するものである。

したがって、「授業中、三分の二くらいの子供たちは、マンガを読んですよ」ということに、「進学教室」の先生によれば、なる。

ある日、日本進学教室の事務所を訪れてみた。

窓口には、選抜試験の申込みに子供といっしょにきた母親が「学校の成績は、オール4です……そうですね、まあなんとかついていけるでしょう。でも、すしががんばってくださいよ」

と事務員にいわれて、困惑した表情をしていた。

事務所の前には、「優良児童活意識調査——中学進学小学六年」という表がはってあった。

それによると、「優良児」の勉強時間は、多いもので一日六時間から七時間、平均で四時間

前後であった。このほかに、小学校での授業時間があるわけであるから、この数字は「ソール」である。

また父兄の職業をみてみると（会社員、実業家、社長、自由業など）もつとも多い、この進学教室にかよわせている家庭の経済状態はかなりいいことに気づく。

「スパルタ教育」の著者石原慎太郎氏、俳優小沢昭一氏、フランク・堺氏の子供や、社会党議員の子供なども、ここにかよっていたことがある。

「じゃあ、人の一生は……」最近、東京都では学校群制度が採用されてから、私立中学への進学率は急速に高まっている。また、この二、三年私立中学の学費の値上げが押さえられているので、どこでも進学塾や進学教室への志望者（母親である）が多いのだが）は急増しているという。そして、その大多数が日本進学教室に入ってくる。

「はっきりいってしまえばねえ……」日本進学教室の事務員は次のようなことを話していた。

「成績のよい生徒だけをまとめて教えているわけですから、こちらとしてはずいぶん楽なんです。全校で一〇番以内の生徒



千代田学園の建物正面にて

だけですよ、きているのは」
年八千百円也の受講料を毎日
曜日だけの授業に納める母親た
ち。たぶん、この金額は父兄た
ちにとってたいした金額ではな
いかもしれない。「中学入学の
当初に行なわれる各中学の組分
けテストにおいて、首席もしくは
それにすぐ上位を占めること
のできる実力を、日本進学教室
の優良児教育によって養ってお
くことが、その後の中学と高校
時代の成績に、さらに一流の大
学へストリートで入学する上
に、極めて必要にして、かつ効

果的である」という呼びかけ
に、あながい父兄たちは弱い
かもしれない。
「とにかく最近の小学校教育
はカンニングを奨励しています
からね。カンニングって、まあ
小学校じゃ、グループ学習など
と呼んでいきますけど。できない
生徒とうちの子供がいっしょに
やっていたんでは、ほんとうの
実力なんてつきませんもの」
母親のひとは何気なくいっ
てのけた。
中学校の教師のアルバイトで
授業が行なわれているこの進学

教室、意外と長続きするのもか
もしれない。少なくとも、学校教
育が選別的手段となっているあ
いだは。
「しよせん、人の一生は競争
でしかない。そうであるなら
ば子供は早いうちから現実のき
びしさに耐えうる精神の強靱さ

を身につけなければならぬの
である。しよせん、進学塾など
というものは、そのひとつの手
段にしかすぎない」
『スパルタ教育』の著者、石
原慎太郎氏ならば、こういうだ
ろうが。

女工哀史は

昔のことじゃない

――倉敷紡績のばあい――

岐阜県一宮市、名鉄新木曽川
駅から歩いて二〇分あまり、聖
徳学園短期大学の三部の、一ク
ラス九〇名の学生のうち、約半
数は、すぐ近くの倉敷紡績木曽
川工場の女子社員である。

「わたしと一緒に入った六〇
人のうち、二五人がやめまし
た、ウェイトレスや店員になっ
て」

倉敷の仕事は二交替制であ
る。彼女たちは、二部（夜間）
の授業には出席できない。そこ
で二年前、二交替制の間に授業
をはめこむような形の三部制が
作られた。保育科と家政科。
木曽川工場の総従業員一二〇
〇名あまり。そのうち、男子社

員が一〇〇名。毎年の新入社員
は二〇〇名弱。そのうち聖徳に
は、一学年で一二〇名通ってい
る。従業員はほとんどは四つあ
る寮に入っている。一部屋は十
畳で七、八人が一緒に生活する。
彼女たちは寮から学校に通う。
二交替制のそれぞれは、先輩、
後番と呼ばれていて、一週間ご
とに交替する。

社員を募集する時、二交替制
の変形の三部の短大ということ
を、倉敷は言っていない。
彼女たちの生活は後番の場
合、七時に起きると、八時二〇
分にスクール・バスが来て、寮
から学校へ行く。九時に授業が
始まり、十二時一〇分に終わ

る。またスクール・バスが来て
会社へ。そのまま、まっすぐ食
堂で食事をすると、一時半から
一〇時まで、六時一五分から
七時までの夕食をはさんで、仕
事。一二時消灯。

先番の場合は、朝四時に起き
て、五時から一時半まで、八時
から八時四十五分までの朝食を
はさんで、仕事。昼食のあと、二
時二〇分にバスが来て学校へ。
三時に授業が始まって、六時に
終わり、またバスで会社へ。食
堂で食事をして、九時まで自由
時間。九時に消灯。

自由時間は、ほとんど無い。
二時間ちょっと。

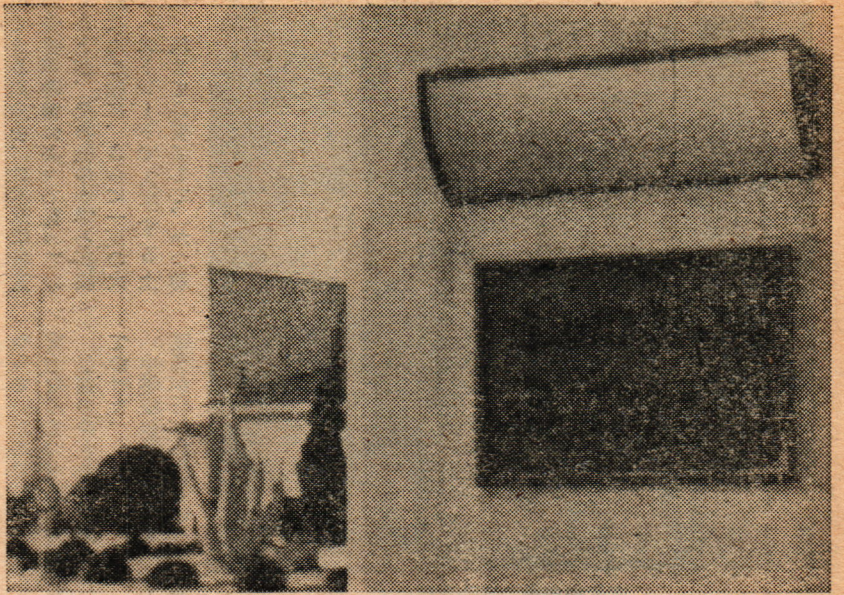
「自由時間は、へやをかたづ
けたり、洗たくしたりしていま
す。遊びに行く人もいるけれ
ど、そういう人は、バスから降
りないで、一宮駅まで連れてい
ってもらふの。学校さばる人も
います。上級生になると」

門限は一〇時。でも、頼め
ば、もう少しおそくなれる。特
別門限一一時半。

「短大を出るまでは」

高校を出て、就職した倉敷の
社員は、他の学校には行かれな
い。みんな聖徳学園に通う。

「会社のために、三部制」を
作ったんだから、倉敷から生徒
がいなくなると、学校の方で
も困るでしょ」



女工哀史は昔だけ？ 川曽木紡績数倉

月謝は五千円。サラリーからひかれる。入学金が五万。会社が払ったことに、つまり入学の時に会社に五万円、借用したことになる。月々、千円から二千円、サラリーからひかれる。ボーナスの時には、五千円から六千円ぐらい、ひかれる。「会社をやめる時には、この

入学金の残りを、全部返さないと、やめられない。それに、結婚とか病気じゃないと、簡単にやめられないの。「あなたたちには、一人一〇万円はかかっている。今やめられては困る」なんて言われて。だから、お盆やお正月や、それから農村から来る人が多いから、稲刈りや田

植えの時に帰って、そのまま戻ってこなかったりします」
彼女たちの出身地は、北海道、岩手、青森、九州、奄美大島など。一つの高校から二、三人。
「あとサラリーからひかれる。のは、会社の方でする強制的な積立貯金が、月に五千円。手もとに残るのは一万円ちょっと。月に七、八千円くらいで暮らしている人もいる。退職金は三年いて二万円、五年いて三万円くらい」
働きながら短大に行ける、そういうことで、遠く北海道や、九州から就職してきた彼女たちは、短大を出るまでは、と思っ、あるいは、会社に借りた入学金にしばらく、どうにか工場に残って、このほとんど自由のない質素な生活を続けている。
「有給休暇をとるのも、むずかしいんです。祭日でお休みなのは、メーデーと一〇月二三日の岐阜の地方祭の時だけ」
「朝は寮で行進曲をかけて、それでわたしたち、起こされるんです。先番の時なんか、朝はやいでしょう」
「ここでの生活、勉強になって、よかったと思っている人もいるかもしれない。でも、後輩には、こういう生活、させたく

ありませんね」
方向を変えられた不満
高卒で就職した彼女たちとは別に中卒で就職してくる人たちのためには木曽川工場の敷地内に、倉敷で作っている有隣高校がある。学費は無料。中卒で入社した人は強制的に入学させられる。生徒数、七、八〇〇名。授業といっても、会社のつごうのいい時間に一時間、二時間という風に授業をする。ここだけで高卒の資格はとれない。第一と第三日曜、岐阜高校で行なわれる九時から四時半までの授業に四年間出席してやっと、通信高校卒の資格がとれる。高校とは名ばかりである。
「仕事ははやく終わって、午後がすっかりあくでしょ。その時間に授業をやるの。そうすれば、ボーリングに行ったり、できないわけ」
ここでは、企業にとっては、教育は、若い従業員を確保するための手段にしかすぎなくなっている。従業員の年齢が若ければ若いほど、サラリーは安くなるので、短大の卒業と同時に、ほとんどの人がやめていくことは、企業にとってはつごうがいい。月謝その他は従業員自身に払わせているので、企業には別に損は無い。また働きながら、短大にあるいは、名だけでも高

校に通わせる会社に就職させるのは、中学校や高校の就職関係者の、「実績」のようなものにもなる。
「今ここでやめてしまってもなんにもならない。短大は卒業したい。ここでやめてはウェイトレスにしかねない。例えば保育科の学生なら保母さんになりたい」
この生活から脱け出したいのだけれど、よりよい方向に脱け出したい、という気持ちがある、今のところは企業の作り出した体制からはみ出さず、そのわく内におさまって、結局は、企業にとってつごうのいい、この自分たちをしめつけている状態を、さらにこの先続けていくことになる。抵抗するには、企業はあまりに大きく見えているのかもしれない。卒業したら、退職金が入ったら、脱け出せる時になったら、わたしたちは脱け出す。そしてただ、後輩には、わたしたちのような生活はさせたくない……。その後輩たちは、どうするだろうか。今のところは、企業におづけられずに、未来の自分の、今とはちがった生活を考えることで、方向を変えられているこの不満は、やはり、あしたも、あさっても、今と同じように方向を変えられ続けるだろうか。

日常性の 厚い壁をこえて

座談会・反戦派教師は語る

昨秋、佐藤訪米阻止に、教壇を離れて街頭に出た反戦教師たちへ世間の非難は集中した。しかし彼らが彼らをとりまく日常性を超えて投げかけたものは、「教育」への本来的な問いかけであったのだ。

(司会・久能 昭)

司会 ここ一・二年、日本のあちこちで、さまざまな矛盾が露出し、怒りも噴きだしているのはご承知のとおりです。

全国を一巡した大学闘争はいうまでもありませんが、最近では、高校生や中学生までも含めた運動が、大きなうねりとなって、日本の学校を底の方からゆさぶっている感じがします。

昨年の10・11月闘争での反戦派の教師の行動もさまざまな波紋を起こしたわけですから。そうした教師の投げかけた問題はいろいろあると思います。

そこで、今日は、いつも現場でいろいろな活動を積極的に行なっている先生方に集まっていただき忌憚らないディスカッションをしていただきたいと思います。

Eさん、いかがですか。

E 私は、逮捕されて、釈放になり、今、自宅研修という処分を受けているわけですね。

やはり、10月から、この間、教師というのとは何なのか、今の、教育機構と、教育行政といった大きなワクの中で教師がやれる最低のものは何なのかということ

です。私もよくわからないのですが、一体どこまでありうるのか、ありうるとしたらどこまでやれるのか。

もうひとつ、教師というのは、やはり子供に何かを教えるということ、つまり未来をになう子どもに対して文化の伝達をするということ、これが一面的に重要視される面がありますね。聖職者意識ですが……ほとんどの教師がそういうふうを意識しているだろうし、社会的にもだから教師は一定のワク以上のことはやるべきじゃない。教師に対する作られたイメージというのはすごく根深いですね。

だから、私自身には教師として参加するということよりもむしろ私個人として参加するという意識があったわけですね。

そうすることにより「作られた教師像」を破って行こうとしたわけですね。

今後、お互いの職場でも、地域の人たちにも、もっと広げれば、社会の人たちにも、どうしてそうした「教師像」を破るか、それをさまざまな運動と密着させながらやりたいのですけれど……。

B ばくが教師になつての悩みは、「い

<出席者>

相川 忠亮 (反戦教師救護会)
金山 美玖子 (大森四小)
副島 光恵 (大泉一小)
内藤 博 (大森二中)
武藤 啓司 (荻中小)

ったい自分のやっていることは何か」ということです。子どもに接してもその中でいろんなことをやるのだけど、全体状況の中で「教師」の位置を見究めたいと思いますね。そうするとでてくるのは、現在の教育の中では、国家政策の伝達者の存在ですよ。国家を背景としての子どもに対する加害者の存在といってもいいです。それはよくにはたえられないんですよ。だから、八教師Vからぬげだして生身の人間としても一度自分を捉えなおさねばならない。そこに10・11月闘争に参加せざるをえないばかりたちの原点があったと思うのです。

C いま、Bさんが「加害者意識」といったけど、あの10・11月闘争で、わたしたちはたしてそう考えていたか、どうか、そこは問題だと思ふのですよ。全身であの闘争にぶつかっていくという意識が、わたしの場合先行していたと思いますね。いろんな八教師像Vが問われるけれども、わたしはそういう状況だからこそ、八教師像Vをどううち破っていくか、そのためにはどういう闘争をしなければならぬか、6月決戦に戦うため



相川亮氏



金山美玖子氏



副島光恵氏

に、いま何をすべきか、そこに意識を集
めなければ、戦後の教育労働者が歩ま
された状況を打破することはできないと
思うんです。

一個の労働者として私はどう闘いをす
めるか……そこところが問題なので
す。でないと、またものもくあみにな
ってしまうのではないでしょう。わた
したちの闘いを通じてだけさまたま
八作られた教師像Vをケトバスことがで
きると思うんですけどね……。

D 獄中からでてきた人に聞きますと
ね、こんなことがあるのです。つまり、
自分を取調べている刑事なり、検事の顔
が、自分の顔と二重うつしになってし
やうがないというんですね。たとえば「支
配者の顔」としてね……(笑)また、若い
看守にいい年をした人が「先生、先生」
というんですね、そうすると「自
分も学校であいいわれている、それは看
守と全く同じ立場ではないか」と思えて
しょうがなかったというんです。支配者
としての立場を途端に感じちゃうわけ
ですね。

それとね、取調べをしている検事が、

先生のくせにこんなことをして……」と
いうでしょう。それは、わたしたちが職
員室で、子どもが喧嘩したときに「六年
生のくせに……」といって反省を迫るこ
とがありますよ。それとは全く同じ論理
ではないだろうか、つまり権力者の論理
とね。そうして「教師とはいったい何な
のか」ということを問い直した。獄中の
人も、でてきた人もみんなそういって自
分の立場をもう一度ほり起こうとしてお
ります。

司会 神奈川の事後逮捕では、取り調べ
がほとんどなく、ただ「説教ばかりだ
った」と聞いているのですけど、Eさ
ん、取り調べは実際はどうだったんでき
か。

E わたしの場合にはね、いろんな取調べ
を受けましたね。例えば刑事がね、「な
んだお前は官費で教育されたじゃない
か、そういう立場におるくせに……」と
か、「教師のくせに……」とか、いやみ
ったらしい取調べをしました。そのとき
のこれらの意識で自分たちと教師を同
じようにみているのではないでしょ
うか。たとえば「同じ財源から月給をもら

っているくせに……」というようですね。

C いままでいろいろ聞くんだけれど、教
師の特別視ね。自分たちがそう感じるこ
とと自分が問題だと、わたしは思います
ね。けっきょく階級意識だわよ。かんた
んに言えばブルジョワ道徳観にとらえら
れているということじゃないかしら……

F ぼくはちょっと違うんだけどね……
いつだったか、地方に行ったときタクシ
ーに乗ったことがあります、そのとき
運転手さんから「職業は何か」と問われ
たのですよ。「教師だ」と答えたらとた
んに運転手が荒くなってね、その運転手さ
ん「教師が大嫌いだ」というんです。

ぼく自身そう思っているものだから、そ
れは全くそうなんでも引き下がらざるをえ
ないわけですよ。
△教師像Vについていえば、ぼく自身
いつも実像と虚像に悩んでいますね。つ
まり一人の人間としてのぼくと、職業人
としてのぼくという関係ね。この二つの
像のあいだにはものすごく距離があるん
ですよ。これを埋めなくちゃならない。
けれど、その間にいるんなものがあって
距離を縮めることと自体生やさしいこと

ではないんです。それを埋める努力がいま
のぼくの課題なんだけれど……。
D その前の話ね。実際問題としてね、
教師の社会的地位は低いんじゃないです
か。月給の面でもね。
ところが、逆にどんな社会的地位のあ
る人でも、自分の子どもをあずけるべく
たちに「先生」とよぶでしょう。それを
素直に受けとめるほうが、教師としては
安全なんですよ。そういった二つの間
の接点に教師はいるんじゃないだろう
か。そこから問題がおこると思います
ね。

C Fさんのいう虚像と実像ってこと
ね。そういうふうには考えられない。実
像が問題なのだと思います。父兄は、教
師を尊敬なんかしていない——私が、東
京でも、最も下層地帯にいるせいかもしれ
ませんが、絶対に教師を尊敬なんてし
ていない。また、教師は社会的になんの
かと言っているようじゃ駄目なのじゃ
ないかと思うのです。教師だって一個の
労働者にすぎないし、いかに自分たちを
解放するかが問題ですよ。

D 教師には極端に言うところ、真理を教え
る任務がある。そういうふうにあること
により、子供たちが未来を築いていつて
くれる。未来への肥料であり、それに徹
することと良い、それ以上のことをする
なんてとんでもない。それは権力もい
うカッコつき革新もいいうし、そうだけれど
自分が教育ゲリラとして何かやることは

ある意味では可能だと思ってる。

極論すれば戦争肯定をいかに能率よく教えるかということに、ある意味では相対としてきちゃっている。その中で一般としては駄目だと、自分としてどうしたら良いか、ということにならなければいけない。教育実践にだけかかわってのじゃだめだと思っんですね。いわば職業としてね、世の中の為意識でやっていくことを自分自身に言いかけることだ。

広島の人たちがいろいろ書いていることのなかで多少コトバ足らずであっても一人の人間としてやったことが、もういっぺん教師という構造の中でそれとの関係を見いださざるをえない。

今まで教師の自己否定とかということがさかんに言われているわけだけれども、にもかかわらず、日常、口では革命的なことを言う、例えば、ぼくなんか、なんとなく教師の位置にはとっぷりつかっているわけですよ。極端に言えば、社会の表向きの姿は成りたっているわけです。象徴的には10・11月闘争に参加した、ないしは逮捕されたというものをくぐって一斉に、とっぷりつかっていた職場の日常性というか教育の日常性が、自分にはわかってくる。群馬の人からTELがかかってきたのですけれど、10月に参加した人に、警察から任意出頭がかかっている。それがたまたま新聞に出た、と

たんに翌日から、職務命令で本人に休ませるのではなくて、本人の授業を召しあげ、授業をさせない、という形でできているのです。昨日までは授業していたんですね、学校っていうのは、まさに自分にとっての教育する日常性としてあったわけでしょ。それが、自分のやったことが公けになったとたんに、反日常に転化するわけです。今までの日常性であった職場がはむかってくるわけです。そこで、今まで、どちらかといえばあたたかくつつんでくれていた日常のいろいろなものが反権力という落印をおされたことによっていやおうなく、反戦派教師の眼で摘出されてくると思うんですね、これからいろいろなことが――。

幸か不幸かはまだそういうことになっていないからね、ぼくには見えてないことがEさんには見えているかもしれない、という問題としてあるんじゃないかと思うんですね。

E さっきCさんが言ったのですけどね、父兄が先生を尊敬していない、ということ私もそうだと思うんです。だけれども、何か起ると、先生が……という



内藤 博氏

眼で見るでしょ。先生だったらこうしてもらわなきゃいけないという、いわゆるそこには何ていうのかな、そこには戦前の教師という、独特の地位におかれたものがあったのだし、それを父兄なり、教師なり、他の労働者なりが、どう、自分自身がどう感じていたかということとは全く別にして、とにかく、独特な位置があったわけでしょ。それがピョンとでくるわけなんですけれどもね。

司会 とところで今すぐは教師の側から、A作られた教師像VとかA自ら作った教師像Vをうちやぶる、その原点をどこにおくかという話だったので、今度は外からみたA教師像Vというところで、Aさん、どうでしょう。

A たえば、日本文学にあらわれたA教師像Vを例にとりましょうか。それはいくつかに類型化できると思う。

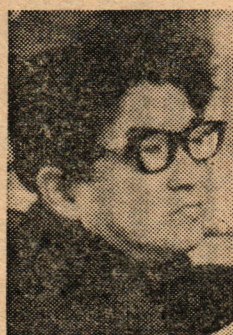
まず、権力の鎖につながれた存在として教師、これは言うまでもないでしょう。

次に社会にいろんな形で疎外された存在としての教師たとえば、いなかなどでは、地主の次男とか三男とか、とに



武藤啓司氏

かく、長男と、従属的關係にある者が教師になるんですね。そうした疎外の具体的な象徴として、胸の病いを持つ教師が描かれています。これは、いろんな意味があるでしょう。社会的な地位の低さ、というのそのひとつの例です。にもかかわらず常に教師は人の子を、全人格的に教化する(倫理化する)宿命を持った存在。そうしたものが家父長的な共同体の中での存在、という像が描かれているわけです。こうした教師像がとても暗い感じを与えているし、このような文学にあらわれた教師像がつまりは一般社会人がイメージするA教師像Vだと思えます。これは、基本的には戦前も戦後も変わっていないですね。それに日本の社会構造の特徴から言って、よく言われるように、学歴尊重という意識は、まだ根強いでしょう。だからA未定の子宝Vを完成してもらうものとして教師を見るのですね。つまり教師を道具化する。利用するという意識しかないんです。教師に親に親のエゴイズムをおしつけるわけです。こういうことから教師はただ「教えること」に一生懸命になればいい教師、という



久能 昭氏

ことになる。だから教師が作られたワク組みからはみ出るとやはりエゴイズムから、得手勝手に、倫理性という日本人の一番弱いところを突くのではないでし

うか。A倫理Vを武器にして教師をだまらせるのですよ。ところが10・11月闘争での教師の街頭行動がショックキングなニュースとして流されたわけです。非難の声は日本の父兄の通念から言えば、ごく自然なんです。よく言われる日常性なんです。これを打ち破るのは、やはり教師の日常性をいかにして打ち破るかという教師自身の生き方に通ずるでしょう。

それが、そうした教師集団内にある日常性を打ち破る闘いを通じてのみ、親たちのA教師像Vを変えていく唯一の方法ではないでしょうか。その意味でEさん、Cさん、Dさんなどの意見に賛成です。事実いろんな支援運動をやっていると、たとえばEさんの学区の父兄の意識は少しずつ変わっていったことがわかります。

最初、Eさんの行動を批判してた人たちがEさんの気持ちもわかるといいうに変わってきた人が多いですからね。

E ええ、それとまた別の父兄に会ったのですけれどもね。その人は、たしかに私が個人的に街頭闘争にでるのは全く正しいと言ってますね。正しいという論理があるわけですね。そうとう覚悟して出たんですが、どうしても教師という職業にある以上ね、子どものことが残るんです。それに対して、子どものことなんか

一切考える必要はないというんです、その父兄がね。子どものことなんか今の時代でね、考えてたら何もできないじゃないか、と言ったのですけれどもね。

A たしかにそうですね、たとえば、鳥取の国本さんの闘いは、今は国本さんとその周辺だけではないでしょう。点の闘いから線の闘いへ、線の闘いから面の闘いへと拡がっていますね。それは今、Eさんが言ったような父兄との闘いの共有があるからでしょう。簡単ではない、特に鳥取などではね、そういう所で闘いを拡げていった点をばくは学びたいと思うんです。

司会 ところで、日本の教師像から、それをどこで、どのようにして打ち破るものとしての話がちょっとでたのですがこの辺でもう少しいろいろな闘いを紹介していただきたいですね。教壇に帰ってどうするか、ということも含めてですな。

F 私の場合は教壇に帰った場合、どうしても自分が教育を受けた原点が何だったか、から始まるのです。たとえば、わたしの旧制中学時代、戦後の一時期にあった自由がそのまま教室の中にもありましたね。拘束とか管理とか、そんなものは一切なかったですね。外には闇市という自由の場がありましたしね。結局そこに戻るんですよ。

そうした原点を持ちながらわたしはずっと職場にへばりついて組合からおろさ

れてくる方針や情勢を徹底的に討論する。そのためにはさまざまな運動がでてきますね。毎週出しつづける職場通信もそのひとつですよ。教特法(教育公務員特例法)などを討論していくと反戦派教師への弾圧が自分たち教師全体への攻撃だとスッとわかる——そうした討論にさせられて、反戦派教師全体の救援を分會としてやろうということが可能になっていったと思います。

B わたしは教育労働者の運動を新左翼のそれとのかかわり合うものとして考えたいですね。いわゆる既成の労働運動の指導では駄目だ、新しい教育労働者自身の自己解放をも可能とするような運動をつくりださねばならないと思う、それがさきに言ったような新左翼の運動とのかかわり合いで六〇年以降も営々としてあった、しかし、そうした一〇年にわたる運動そのものを試練にかけ、同時に質的に転換させたものが、一〇・一ヶ月闘争だったのではないのでしょうか。したがって、やはり、直接一〇・一ヶ月闘争と、その後の権力による弾圧、処分、という事態そのものを中軸にして運動が全国的に起こっていることにまず注目していくことが大切だと思うのです。自民党が一昨年教育三法のひとつとして提出した、教特法の改悪の延長線上に考えだした「教職特別調整額」を、先取りした形で

都の教師のみに毎月千円手当をだすというもののなのですが、この考え方などは

教育委員会による反戦派教師バージの論理とピッタリなんです。神奈川の場合は、不起訴でありながら、教壇に立つ教師の場合は懲戒免、事務職員の場合は、停職という分断的処分が出された、これなども毎日千円手当をだす思想を固定化し、エスカレートするものだと思います。こうした権力側の全力をあげた攻撃と、ぼくたちの側の闘いが真正面からぶつかったところに、さまざまな闘いが起こってきています。たとえば五人の広島教師が逮捕・免職されることによって「五人の教師を守る会」が多く妨害、弾圧の中からつくりだされ、やがて全県にまたがる、大きな組織となり組合の中に浸透してひとつの勢力となっている。静岡では富士地区コンビナート建設反対運動をやっている人たちが「山口教諭を守る会」に積極的に参加しているのがひとつの特色です。ともに国家権力と直接に対決しているわけです。その他神奈川での、ユニークな文書活動と職場闘争がさまざまな市民と、ともに立ちあがる例、Aさんがちょっとふれた鳥取での闘い、それに大泉での市民の会のエネルギー的な校区を中心にしたピラ入れ、対話活動など、さきほどAさんがふれた点・線・面という一本のきずなができつつあると思います。

A まあ、その闘いだってそう口で言うほど簡単ではないと思いますが……。ぼくたちが知りたいのは教室でどう闘う

か、教員室でどう活動するかそのへんのところを知りたいのですが、何かないのでしょうか。

E 教室で何かやる、たしかに私自身も、私自身でありたいわけなんだけれども、教室での管理の問題がすぐでできますね。私自身、教室にいた時には、反戦行動について疑惑を感じるわけですよ、それと教育内容についてどういう内容を教えるかという問題にぶつかる時、今の教育体系そのものをね、全面的に考え直す必要があるんじゃないかと思うのです。たとえば、教科別にわけられているということもやはりもう一度、検討する必要があるでしょう。また教室の中で私が教育をするということが、社会的総体を考えてどういう位置にあるのかも少しゲンミツにはっきりさせる必要があるんじゃないかと思います。教師は、教育をとおして何かができるという意見が総体としてあるわけですね。ほとんど大半の教師がそう思っているのです。だから教師は教育というものを絶対めきにしてはならないではないか、そういう大前提のもとに、さまざまな制約がでてくるでしょう。わたしはそれ自身をつきやぶる中でしか、まずそこをつきやぶらなきや、という感じが強くするのですがね。ただ、教師がおかれしている状態の中でどこまでできるのかちょっと自信がないんですけれど。

司会 わたしが小学校のころを思いだ

して一番楽しかったのは、ある教科書、郷土史の教科書を習ったことでした。それは教師集団が自ら作った教科書だったので、考古学の考えを科学的に入れて、古墳を学ぶという作業だったと思うのです。今、考えてみると唯物史観がその教科書には完徹していたのではないかとにかくすごく科学的だったんですよ。そういったものを天皇制教育のはなやかなりしころに教わったのですね、それは、その教師集団が小なりといえども日本帝国の対抗物としてあったのじゃないでしょうか。それはひとつの大きな教師集団の実力がそうさせたのだと考えるんで、私はそういう何かを反戦派の教師に期待したいと思うんですが――。

C 私のそれはそれほどではないんですけれども……。

たとえば小学二年生の教科書に、「おまわりさん」の話がでてくるわけですね。それも昼、夜を問わず、私たち市民の安全を守っているのはおまわりさんだ、というだし方で、でてくるのです。私、しかもくだから、一応は読むけれども、一七年前のメーデー事件をとりあげて子どもにはなしてきかせるのです。たとえば国民の命を守る人が、逆に国民を殺しているでしょ、というようにね。そうすると私の場合など毎日のように親たちから、はねかえってくるわけです。先生は立ち入ってはならないところに立ち入っている」とね。けれどね、子どもの方はこういう

んです。「そりゃ十七年前は、十七年前のことですよ、だけど先生そんなこと教えるよりも、今、何百人もつかまってるじゃないか。それをいわなきやだめだよ。」とね。

A・E ほう、小学校二年生の生徒でそういう反応示すんだな――。

C だけど、職員室に帰ってくると、もうガタガタになるんですよ。今は、教える内容ですら学年会で大体統制したり調整したりするでしょ、だから私のようなことを教えてたら、学年会でもめるんですよ。そこで私は考えたんです。つまり、現実の問題として学年会を構成するのに、私たちには人事権がないわけですね。勝手に学年を構成できないんです。だから、私が教室で今、いったようなことを組織的に体系的に教えていくためには学年会を構成するメンバーを自分たちで組織していく運動をしなければならいんですね。

事実、一年間、それをやったんですけれどね、結果は、サンタンたるものでした。今年になったら、私に全く関係ない、いろんな事に無関心な教師を全部配属して私を孤立させたつもりでいるんですよ(笑)だけど、やっぱりそれでヘタバってはいけない、どう私の運動を組織化していくか、それが問題です。それから始めなければいくら教科書が良くなったって――そんな教科書、今、ありませんけれどね――何も教えられない、Eさんが

言っていた「私自身」に帰ることすらできないですよ。

それに私がいくら体系的に、組織的に、ある事実の正確な認識を教えようとしても、地域を組織化しないかぎり、私の闘いは敗れるわけです。

いくら、教育の帝国主義的再編とか何とか言われても、まず私は、私の日常性を破る闘いとして、私の職場と地域のラディカルな闘いをやらなければ……と思うのですけれど。

A そこでCさんは徹底的に階級闘争までもっていくという言葉を続けたんですよね……(笑)

C いや、そういうわけじゃないんだけど……。わりと合法って言ったらかおかしけど、Aさんの思っているようにワタシ、ワルイコトばかりしてるんじゃないですよ(笑)たとえばね、私、沖繩に行ってきたんです、なんとか沖繩を教えようとして学年主任にかけあうわけです。それを沖繩観光旅行という名目でやっちゃうんです(笑)。事実、五・六〇人の父兄の前で沖繩でとってきたスライドを見せながら、現実の沖繩を話していくわけですよ。みなさん笑うけど、こういう闘いを通して、どう全体の闘いへ止揚していくか、そういうことが、私たちの解放とどこかで結びつくと思うのだけど……。

司会 いやはや、話はつきないけれどもまずはこのへんで一応終わりたいと思います。

造反中学生との対話

去年の秋ごろから、さまざまな形で中学生の運動への参加がめだたてきています。ベ平連の定例デモにも、毎回三十人から五十人の中学生の参加があります。彼らは、いったい何を感じ、何を考えているのか。「週刊アンボ」編集部は、その中のもっとも戦闘的だと思われる中学生たちに数回にわたってインタビューをおこない、まとめてみました。ここにあらわれている彼らの感じ方、考え方が、運動に積極的に加わっている中学生全体の、最大公約数的なものとは思っていません。またもちろん、運動にまったく関係していない一般的中学生からも、飛びはなれているかもしれません。しかし、彼らの発言のいくつかの部分が、現在の体制、教育を鋭くついていることもまた事実だと思っています。

—そうすると、安保の年は、何をしていたのだろうか。

A 何をするにも、まだ小学校へ行っていなかった。安保反対と自分で言ったのをおぼえている。

C ぼくの家は、特殊だと思う。親父がいわる新左翼関係なんだ。映画の仕事をしていて。もう六十歳近いんだ。

B ぼくは、何もわからなかった。六十七年十月というのは、何年生だったの。

A 中一だった。テレビ見て、新聞見ていた。

C テレビを見ていて、全学連って悪いことするんだねって言ったら、そうかなって言われたのを、おぼえている。それで、うちの家はほかの家と少しちがうのじゃないかと初めて意識した。

B あまり、ぼくには記憶ない。

A なにも知らされていなかったから。そのあと、イントレピッドの四人の脱走とか、佐世保へのエンタープライズ入港なんていうのがあったけど。

B ぼくせんと、学生の方が正しいのじゃないかな、とは思っていたけど、学校へ行ったら、忘れちゃう。

—先生は、何か言ったかな、そういう事件について。家では、話題になったの

A 何にもなかった。

C ぼくは、家では、その話ばかり。

A おとしの十・二一の時は。

A ぼくは中学校で写真をうつしに行こうと思ったのだけれど、親にとめられた。あぶないからと言って。

B 本なんか、読む。小説なんか。

A あまり読まない。

A なんととっても、ぼくは、安田シロクダと思う。ぼくは、バリの中へ写真を取りに行こうと思ったけど、読売の事件があったでしょ、だから写真機もってうつしていたら、リンチ受けるんじゃないか、だからやめてくれて。それで行けなくて、一月の十八・十九日とテレビにかじりついて見ていた。あれを見て、いろいろ考えるようになった。学校へ行っても話すようになったし。

—反響はあった。

A なかったな。みんなおもしろ半分で見えていた感じで。

B あの時うちの兄が高三だったからおふくろなんか、こんな闘争なんか起してもいいくない、とかなんとかな。

普通の生活って何ですか

—どうして運動をするようになったんだい？

A どうしてといっても。

—そうだなあ、最初はホームルームで先生と口論したのがキッカかな。

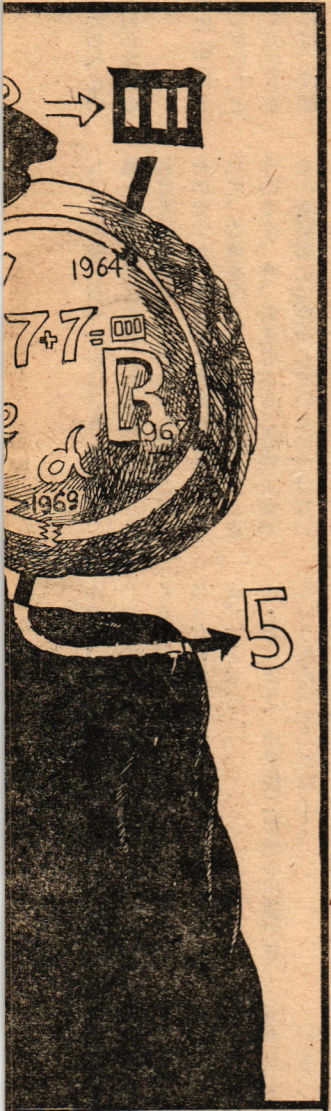
—ホームルームというの

—何年生ですか。

A 昭和二十九年生れ。

B 昭和二十九年生れです。

C 昭和三十一年。



は、みんなで話し合いをする時間でしょう。それなのに教師が勝手に自分たちに都合のいいように使うので、そのことに抗議した。映画なんかやるので、途中で電灯をつけて、話し合いを始めた。でも教師に外へつれ出された。そういうことがたびたびあった。

いろんな問題について、前から疑問に思っていたから、ホーム・ルームだけがキッカケじゃないみたいなきんじ。

——いろんな問題って具体的にどんな問題なの？

そうだな。おれんこの学校なんかじゃ、文化祭の発表なんかで、沖縄問題なんかを取りあげると、先公があらだこうだと干渉するんだ。おれんかが、本を読んで調べたことが、ちょっと政治的だとつぶされちゃうんだ。もし発表できたとしても、帝国主義、なんていう、単語がでてくると、スッ飛んできて、撤回を要求するんだ。

F 同じようなこと、ぼくらの学校でもあったんだ。それで、先生に「どうしてですか？」って聞くと、「君たちは、まだ勉強がたりない」なんていう。一生懸命調べたのに……。だけど、海外旅行のことや、理科の実験発

表みたいなのは、なんにも文句をつけないどころか、逆に「彼らを、みならえ」なんていう。

E わたしのところは、みんなの逆なの。「学生運動」のことをやるって、先生のところに言いに行ったら、「おもしろいからやらないさい。先生も協力するから。」っていうの。なんていったらいいのかしら……先生となれあいになってしまっていて、今のなんとなくフワフワしたブルブルの生活をかえりみないで、バカみたいな人間になってしまったみたい。

——Eさんは、女子中学なんですよ。運動をはじめた動機はなんなの。

E 運動をやっているとは言えないわ。でも、なんかしなければいけないと思っただのは、ベ平連に刺激されてからね。わたし、どうしたらいいのかわからないのよ。なんとなく中学校生活に不満なの。ボーイとしていて、みんな大人——先生や親に吸いとられていく感じなんだなあ。だから、反発でやっている感じもあるわ。

B ぼくは、沖縄だな、最初すぐ「かわいそうだな」と思ったんだ。同じ民族

として、返還の必要を感じたんだ、中学の頃だった。それから、去年の四月頃から新宿西口のフォーク集会にもいっていったんだ。五月十七日だったかな。機動隊が来た時、なんか割りきれないものを感じたんだ。それから七月二〇日の週刊アンポのデモに行ったんだけど、すごく「無駄だな」という気がして、ベ平連の集会には行かなくなった。ベ平連というよりデモや集会にかもしれないな。その後十一月の末までデモに行かなかったんだけど、十一月闘争をみててやっぱりシックリこなかったんだ。学校では今までも何もしないし、おとなしくしているけれどね。

今年の一月に入ってから反戦高協の人達と一緒に読書会をやったんだけど、そこでも、セクトだけで、運動はできないという気がしてきたんだ。

——一体、君たちは、どんな中学校教育を受けているの。

A 質問の意味がよくわからないけど、ベ平連のバッヂなんかをつけていると、担任にとりあげられちゃうんだ。

D ポスターや集会については、校長の

「話し合おう」とか「まじめにやれ」とまるでトンチンカンな返事がもどってくる。まじめにやれとかなんとかいいうので、「まじめにやる」ということはどうすることなのか」と聞くと、「普通の生活をしろ、君のために言っているんだ。」じゃあ、「普通の生活ってどんなんですか」と返すと、「変なバッヂをつけたり、歌を唱わないことだ。」という。「おれたちは、まじめにバッヂをつけているし唱っているんだ」というと、「なまじきだ」ということになる。

親も話せば変わるか？

——親とか、家族との関係はどうなのですか。

B うちの親父は無口だから、しゃべらない。

A 今は、もうあまり言わない。いろいろ派手にやったら。おふくろは、家の中をあまりごちゃごちゃにしないでくれとか。

——いろいろ派手にやったら何をやったの。

A ごはん食べるのを拒否したり。うち



検閲許可が必要なんだ。

A 西口のフォーク集会の、ソノ・シートを持ってきたて歌を唱ったり、ギターを弾いていると「やめろ」という。「なんでやめる必要があるのか」と言うところ

の親父はアメ帝だから、良心のかしゅくを感じて、やだつて。単純だけれど。そしたら体に悪いから食ってくれて。

B いいな、うちなんかすぐ出ていけつて言う。

——会社をやめろと言うつもりなのか。

A やめろとはいわないけど。アメリカ系の大会社だから。抗議行動なんだ。親父と話し合ったのだけれど、親父は学歴もないし、やめたら食っていけない、それに自分の会社は、戦争目的のための製品を作っているだけじゃないと言ふんだ。バリもやった。ぼくの部屋の戸につくえとかイスをたてかけて、針金でしばって。

——なぜ。

A ぼくの部屋に勝手に入って手紙とかいろんなものを調べるから。夜中にまどから出入りした。秋ごろだったけど。そのころから、学校へ行っていないんだ。

——何をやっていたの、部屋の中で、

A 本を読んでいた。アナーキズムの本とか、マルクスの本とか、それに、少年サンデー。

——それで今、お金をどうしているの。

A やるなら徹底的にやれつて親父が言うから。

——少し甘くないのかな。働くということは考えていないの。

A ぼくも労働戦線に入ろうと思つて考えてみたんだけど、それだけの力量はないし。

——あなたの方は、どうですか。

B 一応いろんなことやっているの知つていらしいけれど、ようするに学校へ行つて勉強して家にまじめに帰れば、文句は言われない。

——家では、そういう話そんなにしないわけ。

B するけども。母親が私立高校の教師だから、やっぱり学生は勉強しろとか。運動するのは、なまけ心があるからだとか言う。たまに、親も話せば変わるかと思つて話しても、あまり反響はないな。でも一応、かんしょうはないから。

革命について語る……

——君たちの運動は、最終的に何を目ざしているのか。

A 人間解放だな。一番最後の目的は。

——それは、どういうことなんだ。具体的に言葉にしてみれば。

A 利害なしの教育。労働に対してそれにひつてきずるお金がもらえる。

——革命をめざしているのだと思うのだけれど、それは起るのだろうか。

C 起きなくちゃいけない。

B どうやってやるのかい。

D 今まで以上にきびしい規律——「革命の鉄槌」みたいなもので、労働者階級の再編成をして……。

——矛盾しているんじゃないの。さっきまでいってたことと。

G だから、そのぼくらは、いろんな不自由のなかで生きているから、自分をたもてないわけですよ。自分のなかで欲しいと思う規則のなかでこそ、本当に自由にやっていけるんじゃないですか。今、ぼくらのまわりにある規律は、与えられたものとしてあるし、それを無批判にとらえることにこそ問題があるんだと思います。

——もっと一般的に聞くと、どんな人が好き？

H 誠実、な人間——自己に忠実であるといった意味での、誠実、な人が好きです。でも、いわゆる、まじめ、人間っ

てイヤ〜ネ。自己に忠実である人って、すぐく革命のニオイがして素適だと思ひます。どういふ風にいふならいいのかわかんないんだけど、エゴを、全体のエゴとして高めることが革命運動だつていう気がするの。エゴって汚い感じじゃない。

自分のためについていう意識ね。でも、汚いからこそ美しいんだと思う——。

——どうして、革命を起きなくちゃならないのか。

C 今 世界には、支配と被支配があるわけでしょう。そういう階級的対立があるつては、いけない。

——他人事として言っているように感じられるけれど、自分自身にとって、革命というのは、どういう意味か。少し公式的な感じがするな。

あなたたちは、やはり労働者の武装ということを考えているのか。

A 彼らが力を持って弾圧してくるのなら力でもって押し返さなくてはならないと思う。

——あなたたちも銃を持つのか。

A 銃なら女子供でも打てる。

——なるほどね。ところでどんなことを、クラス一般の生徒は話しているの。

A だいたい、ふつうの中学生の男が話していることと、いったら、ロックのこととか、女の子のこと、ファッションのことクルマのこ



とぐらいだな。

親と子の最低限の関係

中学生は、肉体的にも精神的にもまだ子供だ。政治運動するのは、まだ早すぎる。今は、もっと勉強せよ。と言われたら、何と答えるのか。

B 一人の人間としてやっているのだから、大人も子供もない、と思う。

A ようするに、そういう人の言う勉強とは、何なんだろうか。高校へ入るための、大学へ入るための勉強なんだ。

運動を始めてから、成績はどうなっている。

B いく分、落ち気味だな。

C うちの親父によれば、中学生の時は、一応学校の勉強をやっておけば、基本的な学力は身につくと言った。

A それなら、学校へ行かなくても出来る。

高校へ入るのは、高校で運動するためか。

日大全共闘へ再び右翼のテロ

二月二日十時半ごろ、日大商学部三年生の中村克巳君ら約三〇名は、京王線武蔵野台駅前でピラマキの最中、右翼のテロに襲われ、彼は頭に傷を負い踏切りの側に倒れた。日大全共闘は、この事件について、二月二六日午後、



子の最低限の関係を自分から放棄したものだと思う。

親があなたにお金をくれたり、世話をしてくれるのに、当然だと思うの。

B ぼくは当然だとは思わない。自分自身つまり親を食っているんだと思う。一面では、親を食っているのだけれど、やっぱり自分が真に人間らしく生きたいと思っているから、しかたがないと思う。

親は本当に心から心配しているんだと思うけれど、そのことに関して、どう思う。すまない、悪いと思うか。

A 悪いことをしているとは思わないけれど、そういう考え方でいくとぼくたちは、今ある体制の中に生きているのだから、こういう運動をしていけばすべてに「すまない」ということになって、川に身を投げて死ななくてはならなくな

としては働く。

——だけど、親としては、金ださないと君が働かなくちゃならないというし、それは、かわいそうだから。

A それは、矛盾でナンセンスだ。

B 当然、ぼくらは、それを利用して闘争を有利にしたい。

——利用するだけか。それだけか。自分が親の立場に身を置いてみたことなんかは、ないの。

B 当然ある。自分としては、もしぼくが親になったら、闘争している者の足はひっぱりたくない。

——しかし、今のところ本当は足をひっぱりしていると同時に、ずい分、君たちは、それを利用すると言っているけれど、それは、単なる甘えかもしれないよ。

い。糟谷君の場合と同じように、警察側の発表は、故意に事実を曲げているように思われる。

テロをかけた右翼学生らからは逮捕者が出ておらず、このことは警察権力との結びつきを一層明らかにした。



教育なんて どうでもいい

高校生のひろば

企画 TKA

構成並びに効果 編集部(A+K)

とき 一九七〇年二月のなかば

ところ 都内の喫茶店

(A、C、M、Oその他)

取材 編集部(涼、田村)

協力 各校全共闘、ベ平連

O 26年7月18日に、世田谷で生まれ

て、区立の小学校、中学校へ通って高校に入ってから町田市へ越してきたんだけどさ、ずっとうちから学校へ通っていて、修学旅行より他に長いこと家を離れたこともないんだ。小学校のとき書道をやって、そのあとそろばんの塾に行っていたのは、たぶん家で強制されただろうけど別に反発も感じなかった。

野間 27年2月28日、府中で生まれまして。府中刑務所の中の幼稚園に通ってたんです。真赤なレンガの道を歩くのが好きで、それから、毎日へいの所で立ち止まって中のことや、脱走して来ないかな、なんていろいろ想像するのが好きで、遅刻ばかりしているウソついて言いわけしてたわ。言いわけが種切れにならしたし、幼稚園はおもしろくなかったので半年でやめたんです。

俊平太 僕は27年2月27日神戸に生まれてまして、小学校のとき、練馬へ越して来まして、中学にはいったあと、福岡へ移ったわけです。

都立桜町高 O

〃 立川高 野間

福岡県立修猷館高 俊平太

都立青山高 田村

キャスト

〃 上野高 ダンボ

〃 日比谷高 日野、由比、谷山
学芸大附属高 陽子

田村 26年4月26日大分生まれ、みんな

東京生まれの東京育ちだけど、僕と俊平ただけ違うんです。

ダンボ 27年1月22日に生まれて、小中

学校とも足立区立でした。中学の初めまでは、気が小さくておどおどしていたん

はじめにそしてけっこう楽しく

谷山 26年5月13日港区に生まれてから

麻布、世田谷、目黒と引っ越したけれど

一度も転校はしなかった。小学校の頃から、小テストを生徒同士交換して採点さ

せられたり、成績を公表されたりしてた

けど素直に勉強してた。中学なんか六本

木にあったんだ。それでまじめに勉強し

ながらも、けっこう楽しくやっていた。

クラス委員に指名されたりすると、成績

がいいからだ、というエリート意識とそ

れに反発する気持と、両方あったと思

う。委員になって、はじめは「指導す

る」といった気持でいわゆる悪いやつと

つき合い初めたけど、そのうち、別に悪

です。

日野 26年10月22日に目黒で生まれた。

今も目黒だけど小学校のときから大田区

に越境入学。そうだな、わりと行動的だ

ったな。たとえば、パイオリンのうまい

子がいんだけど、教師がその子にへつ

らうのを皮肉ったり、つかかったりし

ては教師に呼び出されてたな。

由比 ボクは、26年8月24日神田で生ま

れてさ、小学校からずっと、千代田区立

のいわゆる名門コースののっかってきた

んだ。個人的な人間関係なんかまるでな

いんだ。カバンの持ち方まで指導されて

飼いやられたんだけどさ、その頃は何

とも感じなかったな。

くないじゃないかという気がしてきた。

陽子 26年12月24日に練馬に生まれて、

幼稚園から今までずっと、学芸大附属の

エスカレーター。なんとなくはいったん

だけどさ、小学校のときから区立に對し

て特殊な意識があったし、中学校になる

と、附属の生徒はお互いに甘い、とい

う感じがして都立高校に行きたかった

の。

田村 小学校のときは一般的優等生で進

学教室でも上位だったんですが、私立中

学の入試に落ちて、そのときはショック

でした。

野間 小学校の3年のとき、道徳の時間

で先生が「左側通行の駅の階段で、もし急いでいて、それに右側が空いていたら右側を通っていいか」と聞いてたんです。私は「かまわない」という方に手をあげたんですが、先生は「いけない」と言ってるんですね。そのとき、私は「規則と人間とどちらが先なんですか」と言ったのを覚えてます。その頃は家庭環境のためか、上ばきで外に出たり、割と無節操だったんです。先生や同級生からHRなんかで非難されて、中学にはいる頃から秩序派になるように努めたんですけど、それもいろいろ言われるのがめんどくさかったからだと思います。

陽子 附中のみんななれ合いの校風がいやだったの。職員室で教師と話したりする人も多かったけど、私は意識的にそれを避けてたし「青春の墓標」なんか読んで社会的意識はなかったけど奥浩平個人をステキだな、と思ってたの。それから、今も活動しているけど、はっきり学校批判をやる人がいてさ、私も環境に反感を感じてたので、個性的でいいなと思っていたの。学校群に対しては何とも感じなかったわ。都立に行きたかったけど、親や教師が勧めるので、なんとなく高校も附属に行ったの。「なんとなく」そんな感じね。

ダンボ 中学2年のころまでは、まじめに勉強していたけど、生徒会などで教師の生徒に対する態度に反発したり、3年になってから、授業中に個人的攻撃をや

る教師がいたりして、考えはじめたんです。PTAが校内で宴会をやるのを妨害しようとして担任の教師から「立場がまずくなるからやめろ」と言われたのが決定的だったんですね。僕たちの中学では中卒で働く人も多かったから「なぜ高

生徒の自由を規制するな

野間 中学校の自治委員会っていうのは自主規制委員会みたいなもので、あるときやっぱり教師の指図だったと思うんですが、えりまきをやめよう、ということを決められたんです。そのとき先生に「生徒の自由を規制するな」と言いにいったら「自治委員会は生徒のためにあるのではない」と言われました。

親戚に日共の人がいてマルクスとか共産主義についていろいろ教えてもらいました。その後自分でも興味をもった「国家と革命」や新書なども読んで、作文に、人間がお金に使われているのだからお金をなくせばいい、って書いたこともありました。その頃はやっぱり知識の段階にとどまっていたんだけど、それでも「戦争はいけないけど革命はいいんだ」って漠然と考えていました。それに、思想というものは乗り越えられて行くものであって、資本主義と社会主義を並列するのはおかしい、とか。

ただ、抽象的に考えるだけで、新聞も読まなかったし、新聞記者に「受験は苦

校に行くのか」についても考えてみたけど、わからないままなんとなく行くことになりました。学校群制度の方は別に意識的にはみなかったですね。

田村 学校群については、むしろ受験科目が三科目になったのがうれしかった。

しいけれど一生に一度ぐらいこんなに苦しいことがあっていいんじゃないかしら」なんて答えたんです。模擬テストではずっと一番、学校群制度についてもそれほど考えなかったし。結局、レーニンなんかを読んだのも、まじめない生徒でありたい、しっかりした思想を知りたいというところからきたのでしょうか。

俊平太 小学校のころは内省的で小心でおとなしい子供でしたし、どういうことからも発言したり、行動したりはしませんでした。6年になりまして東京に転校しました。高田馬場の進学塾に通いました。いろいろからですね、このままではいけないと考えまして、中学にはいったからは、わざとたくさんクラブにはいりました。級長に立候補しました。とにかく意識的に行動し始めました。福岡の中学へ転校してもそうでした。ただ、人見知する性格は変わらず、政治的手腕や感覚がないことは、ますますはっきりと意識してました。生徒会の仕事をしましても統率力がありま

せんで、自分だけか、小人数のグループで動いてました。それから、ショーペンハウエルをかじりましてニヒリストにあこがれましたね。生徒会の役員として、遅刻を取り締まったり、一方で、学校が名札をつけさせようとするのを反対したりしたのは、まじめで自主規制をするのがいいと考えていましたからでしょう。

0 僕らの年から学校群になったでしょう。いやだったな。姉さんの通っていた深沢高校に行けないかも知れない、という単純な理由だったんだけどさ。

日野 学校群制度は失敗が目に見えていると思ったし、当時の教育長はバカなやつだと考えていたよ。

「旅へ出よ」

涼 俊平太を除いては、みんな大きな環境の変化を経験していないことに注目したい。また、附属へ行った人のほかに、中学校までは、学校の存在あるいは学校の中の自分の存在がどういう意味を持つか、といったことはほとんど考えなかったといえる。むしろ、教科書の内容とか、教育制度とかよりも、環境や人間関係によって、人は「教育される」のではない。そうだとすれば、現在のいわゆる「教育問題」は「問題」の所在から考え直さなければいけない。もちろん、出席した人がほとんど、東京に住んでいるということも、考えにいれなければいけ

ない。地方の狭い地域社会では、小学校から一貫して教科書の知識よりほかに刺激がない、ということも考えられる。この場合も、教科書の内容よりむしろ、環境の問題だ。

それから、僕個人にとって意外だったのは、ほとんどの人が、遠い所へ引っ越したり、転校したり、長い旅行へ出たりあるいは一人で旅行したり、そんな経験が、現在に至るまで持っていないという

知識を行動に移して

陽子 自分も附属へはいったくせに、こんな高校へ来る生徒はダメだ、なんて思っただけ、最初っからおもしろくなかったし友達もできなかったの。それに、サボることも覚えて、一年の三学期なんて、20日くらい休んじゃった。だけど、二年になってから要領が良くなったというか、適当にやっていたの。

だけど附属って意外とひどいのよ。君が代を歌わせる教師がいたり、倫社の教師なんて、生長の家、だし、それから、学級日誌ってのがあって、それに和歌を書かせて採点するのよ。私は日誌をつけるのは好きだったけど。

それから、二週間に一回、学校が集会をやるの、ちょうど中学校の朝礼みたいな。生徒は交代で週番になって、風紀とか礼儀とかみてまわって、集会のとき、週番が号令かけたり、成績の悪いクラス

を発表したりするの。

教師に対する反発はすごくあったわ、反発というか、教師の存在が邪魔になるって感じね。自分の生活や情性をひきずって私の目の前に現われるものがいやだったのかな。だから、意識的に礼なんてしなかったし、できるだけ、目を合わせないようにしてた、ほんとに「顔なんか見たくもない」ってわけ。

自分で何かやろうとしたのは、3年になって新宿のフォーク集会に行ってみたところから。教師に土曜日の帰宅時間を調べられて、個人面接に呼び出されたりしたけど……。6・15なんか、個人的に集会に行ったりして、反戦高協にあこがれたり、とにかく、卒業するまでに何かやらなければ、という気がしてきたし。

野間 高校に入学して、すぐ社会部に入ったのは、やっぱり中学のときに、そん

なことを考えていたからです。社会部で現実のいろんな問題を知って、とても感動しました。砂川闘争で実力闘争を実感として感じたし、交換学生やビラ、ボスター闘争なんかで、はじめて、知識を行動に移して人に働きかけることを知ったんです。

0 中学まではわりと友達もいたんだけどさ、高校にはいって環境が変わっちゃって三年間とうとう友達はできなかった。2年になると、クラスがえがあったんで、意識的に友達をつくらうとした

んだけど、表面的なつき合いに終わっちゃった。

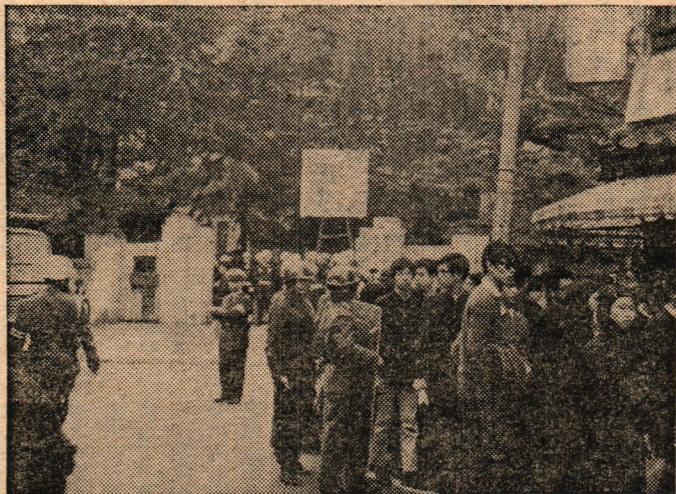
何でもいから

田村 高校に入ってから二年のころまではクラブだけといった感じでした。城南大会で優勝してそこで剣道部をやめたんですが、運動部だったせいか文化部には反感みたいなものがありました。特に杜研、新聞部、演劇部などにものすごい嫌悪感みたいなものを感じていて、佐世保だ、エンブラだ、羽田だなんていっても

感覚的な反発が先にきてとにかくきらいでした。かっこよがりみたいな気がしてだから反戦会議ができて「またあいつらやってるな」といった感じでした。

クラブをやめたあとといういろあって、それから急に勉強するようになりまして。二年の冬の学研の模試で全国で19番になってそのあと闘争をはじめたんですが、その時は、なんでもいい、とにかくなにかに夢中になりたい」といった感じでした。4・28の街頭闘争の時、僕は高連や地方の学友と一緒に闘っていたんですが一人ガス弾を腕に受けたんです。そのあとで僕

昨年秋、学芸大附属高正門前の一コマ



も直撃を受けてしばらく失明状態が続けたんですがその時も地方から来た学友のことが心配でそのことばかり考えていました。学内で教師や、両親、それに級友まで敵にして孤立した闘いを続けてきた僕にとって地方から来た名前も知らぬ友を本当に同志として感じました。

感覚的なもの

俊平太 中学のとき、九大生から家庭教師をやってもらいまして、若干の唯物史観を聞かされたりのですけど、なるほどそうですね、というだけで自分とどういう関係があるのかわからなかったのです。高校にあがるときから下宿しました、その下宿したということ、入学と同時に新聞部にはいりましたことが、だいたい自分を変えたという気がします。

一年の冬、新聞部の先輩に誘われましてエンブラ闘争を見に佐世保へ行きましたが、結局、そのときは単なるヤジウマに終わってしまったのです。その後、同じ先輩の誘いで、高校反戦なる運動をなるとなく始めまして、その「なんとなく」というのは、反体制運動を始める契機が自分にとって何なのか、もう一つはつきりなくて、それは今でもそうなのです。社会がおかしいということにはわかりますが、自分自身、ほんとに矛盾を感じていますかどうか、疑問なのです。

日野 高校にはいって一年のときからだな、HR闘争が始まったのは。そのあと

の経過はもう何度もしゃべって、いやになった。

ダンボ 高校に入りいろんなことを知りたくて社会部に入ったんです。一年の秋に10・8羽田闘争があって、山崎君追悼集会に初めていったんです。その後の闘争には反戦高協の一員としてほとんど参加し、校内に反戦会議もつくったりしたが、三年の初めに「科学」というものに対する疑問からセクトからは離れたんです。二年の時、教育問題に関しては義務として政治的に理論化してみたが実感としてはピンとこなかった。階級闘争の中の位置づけは困難ではないでしょう。か。理由づけはいくらでもできるかも知れませんが、それは理由づけにすぎない

教育問題なんかしらじらしい

野間 教育とは何か、なんていうのは全く現実から遊離した発想だと思えます。現実には校門突撃闘争をやっている者にとって、教育問題云々など、とてもしらじらしく感じられます。武装しているところではじめて解放高校のイメージなんか出てくるし……

陽子 大学を否定するっていても、なんとなくピンとこない感じ。深刻に考えて「あえて行く」なんてタイプはいやだし将来のことなんかさ、あらたまって考えるのは好きじゃないの。大学になぜ行くかなんて、問題にすること自体ナンセンス。

でしよう。僕達のはなにかモヤモヤした、感覚的な反発のような気がするんです。大学にはいかないで家の手伝いをするつもりです。大学にいても何も無いような気がするんです。何か新しいものがあれば別ですが。ただ、いかないということに関しても積極的な理由はありません。そのことに限らず理論的支柱なりバックなりはいまのところみつかりません。いまインド思想や民族学、特に柳田国男等に興味があるんです。体系的にはないが断片的にその中からなにかみつけるのではないかというような気がするんです。

谷山 大学へ行くのは将来ラクにやれるだろうとか、遊べるとか、僕の場合はラグビーをやりたいんだけど、たいした理由はないし、行かないやつにしてもかったるいからとかとたいした理由はないんじゃないか。

日野 教育の空間を作り出すだけではないけないんであって、教育そのものを疑うことから始めなければいけない。僕自身は大学へ行くつもりですよ。とにかく、血のにおいの欠落した論議は無意味だし、僕は血のにおいの復権のために闘った。それは教育問題のようなワクでは語れない。

0 高校で裏切られたから、大学には何も期待していないけどさ、絵の技術を身につけるために行こうと思う。それから、高校で何もできなかったから、大学でこそ何かやってやろうという気持は、あるかもしれない。

ダンボ 人を個別にみる場合と、普遍性に基いて行動する個人の行動は一致しないし、運動や集団が個人を越えた権力を握るのが恐いんです。これからやりたいことは、個別の一切を認識して、一つ一つの対象に自分をぶつけていくこと。対象は闘争に限らずどこにでもあると思います。

田村 闘争を経て歴史にしても、重要であることを確認したけど、これまで受けた教育はあまり役に立たないでしょう。大学に行くことを言いわけしようとするけど、何とも言えるけど、左翼の公式見解を言ってみたところで、自分にとって、ほんとに言いわけに過ぎない感じがします。青山高校には、教育者になりたい、という人が多かったけど、どういう教育者になっただけか、ということになると、誰にもわかっていないんです。

此れは高校生の政治活動に関する静岡県教育委員会の見解である。

この資料は、静岡県のある高校で発見されたものである。静岡県では、有名な(?)掛西高アスパック処分をはじめ、藤枝東高、富士宮東高など、悪らつかつ巧妙な処分による闘争圧殺が、昨年より相ついで起こり、そのすべてが、この見解によるものであることは明らかだ。

第二節 生徒の個人指導の方法

1 政治集会参加の許可願を申し出てきたらどうするか。政治集会などに無断で参加したらどうするか。

政治集会参加の申し出があった場合、高校生としてはまず基本的なことを学ぶこと、教育の政治的中立性の立場から指導することがたいせつで、選挙権のない未成年のうちから政治行動にでることは教育上望ましくない点を納得させた上でこのような集会に参加させないようホームルーム担任、生徒課職員等何人かの係員をもって、くりかえし根気よく指導することが望ましい。

2 政治的「よびかけ」のピラをもちた生徒の指導をどうするか。

まず、ピラをもちた生徒を集めて、それをどうするかをきく。無関心であったり、そのような「よびかけ」に批判的な生徒はそのままよいが、それに応じようとする生徒には、未成年のうちにはまず学ぶことが先決で、その前に行動にでることは慎まなければならない旨を説いて、教育的に指導をする。

3 校内に政治団体ができたという、うわさがある時の処置はどうするか。

その無許可団体を校則違反で解散させる。さらに重要なことは、該当の生徒の言動については注意深く観察し、事後指導を怠らないことである。

4 先輩や社会人がクラブなどの啓蒙をはじめたらどうするか。

出入りの際玄関の受付簿に氏名を記入させたり、クラブ日誌を提出させるなどして、誰が来たか明瞭にすることも一つの予防になると思われる。顧問教師はクラブ活動日誌等により察知したときは、直ちに生徒会役員なりクラブ員とその話された内容をただし、感想を聞いて事後の指導をすることがたいせつである。

5 特定の政治的色彩をもった(例えば反戦バッジをつけた)生徒がいたらどうするか。

一般的には、規定のもの以外は身につけないよう、違装(校則違反)として指導することが考えられる。さらに、場合によっては特定の政治団体を支持し、他によびかけることになるので、教育の政治的中立をおかす危険性がある。

6 政治的な募金などをはじめたらどうするか。

生徒からこのような願いがでたり行動にでたときには、その生徒に対し教育的立場から説得すべきである。なお、このような募金をした生徒には、無許可でこのような行動にでたことは、軽率であり、教育的に指導することが大切である。

7 政治的にかたよった記事(例えば反戦記事)を校内に掲示したらどうするか。

無許可掲示はいかなる内容のものでも直にはぎとる一般原則を適用すればよい。もし掲示承認を求めてきたり、掲示をはぎとった理由を追求してきた場合に

は、その生徒との対話による指導が絶対に必要である。まだ考えのかたまっていない高校生にこのような記事を見せることは、平和・反戦という美しい言葉のかけに、この活動が政治闘争の道具として利用されていることを知らせ、教育的に指導することが望ましい。

8 政治的色彩のつよい団体の主催する音楽会、スポーツの会、ハイキングなどへの参加の許可願の申し出があったらどうするか。

参加の許可願の申し出があれば、高校生のまだ考えのかたまらない者がそのような催しに参加するのは好ましくない旨を説得して、教育的に指導することが望ましい。このような会を察知したとき何らかの方法で参加者を確認し、事後に個別指導するしか手がないと思われる。

9 政治問題について生徒が報道機関に投書などをしたらどうするか。

投書した生徒が判明してきたときは、その生徒からどんな考えで投書したかを

聞き、未成年でまだかたまっていない、これから基本的なものを学ぶ立場にある生徒がこのような行動にできることは、厳に慎まなければならないことを説得する必要がある。また投書した生徒が判明しないときは、朝礼もしくはホームルームの際に一般的な発言のしかたで軽率な行動にでないよう注意を促すべきである。

10 指導に対して、生徒が憲法上保障されている「表現の自由」(集会・結社・言論・出版の自由)を主張してきたらどうするか。

学校の校則の規制をきかないで、デモをしたり紙をしたり、集会をする表現の自由は一般国民より制限されるのであって、その点は明確に指導する必要がある。

高校生はまず基本的なことを学ぶことに専念すべきであり、生徒の本分を逸脱した行動に出ることは早すぎるという論拠で教育指導する。

高校生は義務教育ではないのだから学問を志す者だけが入学するところである。そのため、親に多額な学費を払わせ、働いて家計を助ける義務を免除されて勉強をさせてもらえろがあるがたい身分であることを知らせ、このような勉学中の身で政治的行動にはしることを慎むよう説得する。

11 なぜ生徒の政治活動を学校が制限し

たり、指導することができなのか。

学校の管理権にもとづいて行なう生徒の政治活動の制限がある。学校の管理権は、学校の秩序を維持し教育の自由を達成するために学校の規則を定め、生徒にそれを守るように求め、その限りにおいて生徒の自由を制限できる権限である。

これは、生徒が自由意志によって入学した際に結ぶ契約(入学誓約書)の結果生じた身分関係の秩序を保つために、一般国民より強い制限をうけるものである。

政治に対する基本的事項の理解がないまま、ただその時の時事的な問題に生徒の関心がふりまわされ、直接的な政治行動にはしったりするような場合は、教育上の立場から教師が学業に専念するように話すことは教育者として当然である。

12 卒業式の送・答辞の原稿に教育上望ましくない内容がありこまれていたときの指導をどうするか。

卒業式当日そのような事態になれば、直ちに朗読を中止させるという強行措置も考えられる。この場合、式終了後全校生徒に対して適切な教育的指導をほどこすことが必要である。本人に対しては、それが個人の意志で書かれたものか、他に影響されたものであるかなどを確かめて適切な指導を講ずべきである。

第三節 生徒の集団指導の方法

生徒会

2 学校祭の自主的運営を申し出たらどうするか

高校生は未成年者が大部分なので、謙虚に教師の指導に従い、学校の指導の枠の中で自発的な活動をのぼすが本筋であり、生徒だけで完全な自治活動をするのは間違ひであると説得して、このような申し出を事前に解消するのが大切である。

3 生徒総会(生徒集会)において緊急動議で意図的に政治問題がでたときはどうするか。

生徒総会(生徒集会)に臨む場合にはまず何よりも顧問教師は議長・生徒会役員との間に事前の充分な「協議」をしておく必要がある。その協議で議事運営の仕方、予想される質問に対する対策を話し合っておけば、その場で混乱を招くことは少なくなるであろう。

クラブ

1 演劇部が政治的テーマをとり入れたらどうするか。

まず予防措置として、(1)クラブの活動内容を学習指導要項に示された目標・活動内容に限定されていることを熟知させる。(2)顧問教師の承認。(3)演劇としてふさわしいテーマを選ぶように指導する。顧問教師は、考えのまだかたまっていない高校生が、政治的テーマを演劇で上演するのは政治活動をしたことになり、教

育の中立性をおかすことにもなるので好ましくない旨、教育的に指導する。それでも聞きいれないときは生徒課職員が説得し、最終的には上演禁止の措置にすることもありうる。

ホームルーム

1 ホームルーム全員または大多数が学校の方針に納得しないで反対の行動にでたらどうするか。

事前の予防措置として学年当初のホーム・ルーム編成の段階で先鋭な生徒がいずれかのホームルームに集中しないように注意する。

ホーム・ルーム担任は学校の指導に従わないで、勝手な行動をとった気持を聞きその行動が学校の規則を破った重大さを知らせ、父兄とも連絡をとって事後指導にあたる。

主謀者とそれに追従したもの、傍観者に分けて、その動機や行動を確かめ、個々にわたって適切な指導をする。

第四節 処分

従来政治的問題にからんだ校則違反の生徒の取扱いは、他の一般の非行生徒の扱いに比較して、何か統一的な指導方針に欠け、軽んじられている傾向があるが違反事実を重くみて、差別することなく厳重な指導を施し、社会のルールに従わしむべきである。

アルカトラス島の インディアン 部族三

一
昨年の晩秋に、アメリカ・インディアンの青年が数十人でサンフランシスコ湾のアルカトラス島を占拠し、「インディアン」の領土にしたいと声明を発したニュースを聞いた。

その島はアメリカ政府が、凶悪犯の刑務所として使っていたが、建物の老朽化のために使用を廃止したいわば無人島だった。古くからアメリカ大陸に住んでいた原住民として、インディアンたちはヨーロッパの移住者たちに力で奪われた領土を回復するために、謙虚にもこの小島を割譲せよと要求したのである。

その後、続報もないままに、ぼくは忘れるともなしに忘れていた。今日の強大をなしたアメリカ政府が、このささやかきわまる要求にどう反応するか、と強い関心はいだきつつ……。久しぶりに今日（二月二十日）、朝日新聞夕刊でその続報に接して、改めて深く心を動かされて

いる。
もちろんこのニュース（特派員による現地取材記事）をもってしてもよくわか

らないことがかなり残る。例えばいまは百五十人にふえたアルカトラス島「占拠」のインディアンたちが、現存する二百五十部族のうち、七十三の部族を代表する人々だそうだが、そもそもかれらは、アメリカ政府の支配を脱して、この小島にインディアン」の独立国をつくらうとしているのか。たぶんそうなのだろう、と推測はできるのだが、だとすればかれらはこの不毛の小島でどうやって、部族の他の人々までおしにかけてきたときの多数人口を養おうとしているのか。

いや、その前に、インディアン」の歴史はじまっていらいという七十三部族も多数意志を、ともかくもどのようにして結集したのであろうか。このように知りたいことはたくさん残るとしても、これは二十世紀の注目すべき一つの壮挙だとぼくは直観する。

二
物理力としてかれらがつものものは、現在アメリカ政府がもつ力にくらべて、まるで無にひとしい。であればこそ、ここでネーションとしてのアメリカの思想が

試されるのである。事柄は小さくとも、原則問題としてもつ意義は無限に大きく、黒人運動の要求ともからんで、アメリカ政府としては、放置・自然消滅を待つ手に出つつけるかも知れない。

だがこのように、他人事のように評するだけでは間違っている。たとえ百数十名であれ、かれらが自己の生命を賭して、より多数の同胞のほんらい的な権利——そして踏みにじられてきた権利——と信じるものを、回復しようとしている姿に、ぼくはわれわれ自身につながる人類史の苦闘の象徴を見るのである。

アルカトラス島の対岸で、島を見ようと望遠鏡にむらがる白人たちに、朝日の記者が質問したら、異口同音にかれらは答えたという。「インディアン」の要求は時代錯誤さ。この文明の時代に……」

と。「文明」の時代なればこそ、このような要求が重大に考えられねばならない——非文明の時代なら、むき出しの力こそがまかり通るのであって、ひとにきりの無力なインディアンなどひとたまりもなく一蹴されるのだから——のに、何という反応だろう。そしてわれわれ日本人もまた、朝鮮人や台湾人に対して、同様の反応をつづけているのではないのか。

さて以上のような話も、いったいインディアンがアメリカで一般にどのような扱いをうけてきたのか、という点に関して具体的に知ることの少ない人びとにはピンとこない話であるかも知れない。そ

の扱いが概して黒人以下であった、ということ以上にここで説明することはやめよう。ぼくの真の意図は、インディアン」のこの種の壮挙を機として、ぼくたち日本人が考えるべきいま一つのことを、指摘したいからである。

三

それはこうだ。ぼくが初めてこのニュースを聞いたときに、第一にぼくが連想したのは、われわれの祖先たちが、かつて現実の政治権力者をうち負かして、局地的ながら共和的自治体をつくった歴史であった。日本の中世で、山城の国に農民が八年間うち立てた共和制や、加賀の国で一向宗の人々が何十年にわたってうち立てた共和制のことである。

こころざしの高さにあって、現代のアルカトラス島のインディアンたちと、中世期日本の山城農民や加賀門徒たちとは人間の心情の深いところでつながっている。だが現代の日本人は、中世期のその祖先たちをこえているか。凌駕しているか。いや、ゲームの勝ち負けの意味ではない。人間として、現代のわれわれはどのような中世期の祖先を想って、恥ずかしくない進歩を示しているか、と問いたいのである。現実的考慮や計算のうえで、あの島のインディアンに、ヒッピー」的無責任を指摘することはやさしい。だが、われわれは何のために生きるのか、という問いをかれらは根源的にわれわれに投げかける。

コチラハRGMG 岸根反戦放送局デ.....



撮影した人は岸根のRさん、Mさんです。



ス。ワタシタチハ、アナタガタノ……”

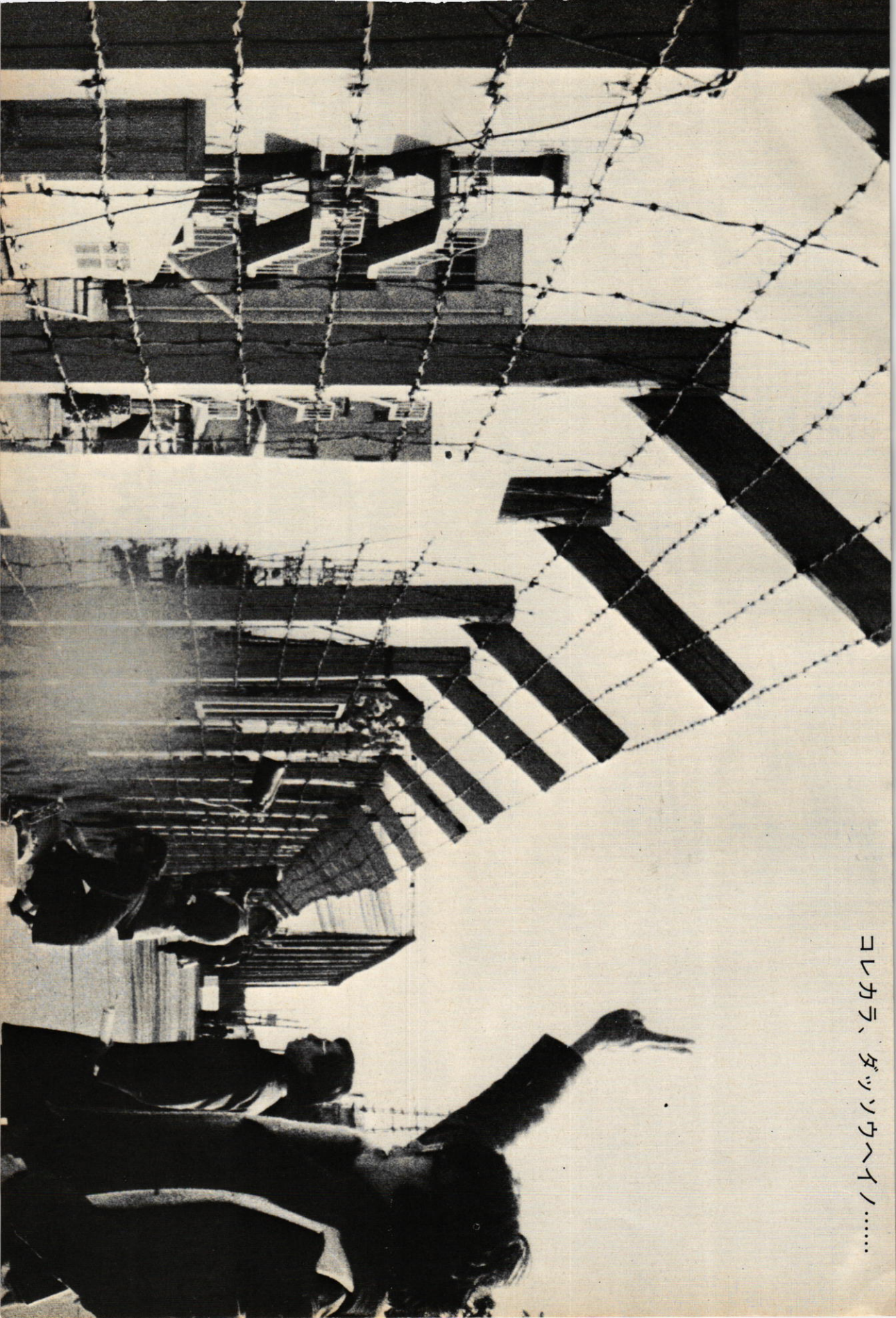
トモダチデス。イマ、シンケンニ...





ミミヲカタムケ、カンガエテホシイ……

コレカラ、ダツソウヘイノ……



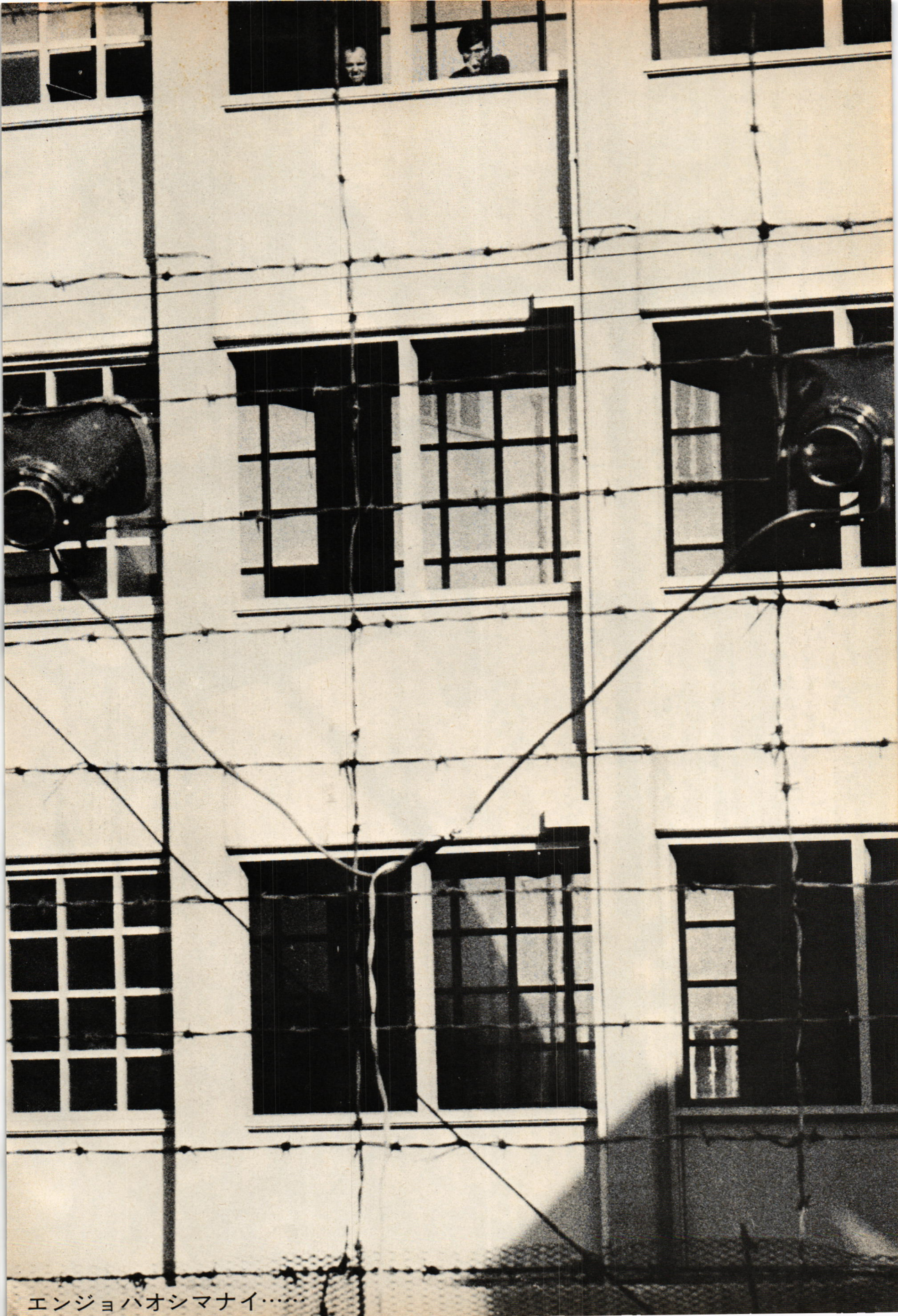


OFF LIMITS

メッセイジヲ、ツタエマス。……



ワタシタチハ、ワタシタチハ、.....



エンジョハオシマナイ……

石原慎太郎

「スパルタ教育」批判

タテの教育よりもヨコの教育を

本誌編集部

石原慎太郎の「スパルタ教育」という本が本屋にでている。一種のハウ・トゥーもので、家庭教育、とくに父親教育はどうあるべきかを、じつに熱心に書いており、その熱心さは同時に、彼の核武装論にまでつながっていく。慎太郎の精神構造をみせてくれる好見本でもある。そこで今週は、「スパルタ教育」をめぐる慎太郎論を、評論家の丸山邦男、鈴木均氏などの意見を中心にとめてみた。構成は本誌編集部である。

■「スパルタ教育」の精神

A この本には、とにかく泣かせる言葉はずいぶん入っているよね。一応。

B 精神としては、戦後の教育はいったいなんだ、チンタラチンタラしやがって、といってる。まあ、教育的政見放送みたいなものですね。

C この本の表紙裏に、父親復活論の会田雄二が推せん文を書いているわけですよ。これをみると「戦後日本の精神的荒

廃は、自由と民主を合い言葉にしながらその基盤となる個人が、一片の独立性を持ちえぬ精神的虚弱児だということに原因する。主体性の回復を叫ぶ若者の反体制運動がバックボーンの固まらぬ幼児の駄々を思わせるゆえんもそこにある。」と書いている。これは明らかに学生のことをさしており、この本の意味をみずから教えてくれている。

A それと同時に、「暴力の尊厳を教えよ」という項の中で「最終的に自分を守るものは肉体でしかなくみずからの肉体的存在を主張するすべは個人の暴力だ」というようなことも書いている。

B 半分くらいはいいことを書いているわけだ(笑)

C 半分はいいんだよ。いいんだけど、そのあいまに、チラリとみせているものが何か、ということだな。それはとても危険だと思う。あぶない線なわけだ。

A それにしても、いまの時点で、こん

な本をだしたんだろうかという背景も問題ですね。

B それはどうも、三島由紀夫あたりの考え方と関係があるんじゃないかな。たとえば葉隠なんかと考え方としては一脈通じるところがあるんじゃないかと思うんだ。モラルやなんかをふくめて……。

■親は早く死ななきゃいけない

理想の父親像

C 全体を通じて、慎太郎の親父さんと子供がよくでてる。それがまた慎太郎の論理にうまくはまり込んでいるんですよ。はめこんだ末が「父親は夭折することが理想である」ということになる。

慎太郎の親父は早く死んだんだな。そこで彼はこう書く。「子どもに、みずから自身の手による人間としての完成の余地を与えて残し、みずからの完成によって、彼が父親をしのいで強い人間となるために、父親はやはり、夭折しなければならない

ぬ」というのだけど、言葉の問題としてどうなんだろう。夭折というのは、幼少の頃死ぬことをさすと思っていただけで、慎太郎の感覚でいくと、だいぶオトナになってからも夭折ということになるらしい。

A 彼は、芥川賞をもらったとき、たしか二十五歳ちかくだったと思うけど「オトナはオトナは」といっていた。二十五くらいで自分はオトナの感覚をもっていないというのは、どういうことだろ。いますでに四十歳ちかくなるのに「青年」と自分のことを呼んでいる。いってみれば、トッチャン坊や、みたいなところがあるって、この本にもそれがでている。

B ババコンプレックスじゃないかな。

A それと、「スパルタ教育」というけれどもこの本はスパルタ教育ではないですよ。スパルタ教育というのは、もっとドライで、つきはなしているところがあるはずですね。この本は父親センチメンタ

Kappa Homes スパルタ教育

石原慎太郎



リズムみたいなものだ。その辺が三島由紀夫に影響されているようでもある。

C 慎太郎は、父親が早くなくなった。

それで父親のイメージをいろいろ描く。

ところが実際はいないわけだから、まったくひとりごとをいっていられる。そのうち、彼の父親像というのは肥大して

いってしまう。ところが実際に父親がいれば、たいしたことではない。だからそこにコンプレックスが生まれるわけではないわけだ。

A そのコンプレックスを子供の教育に反映させるとどういうことになるかという

ことですね。要するにネガミたいなものです。そうすると自分の父親に対する

甘ったれの意識を、その心理を子供に投影させると、慎太郎式、雄々しき父親像、みたいなものができあがるんじゃないかと思うんですよ。

C これを読んでいて、たいへん興味をもったのは、まったく正反対の父親像をもっている人を見つけたからで、たとえば永六輔は「私はオトツツアンとか

永さんとか、六輔さんとか呼ばれたい。娘がオトツツアンと呼んでくれるのが最高だ」という。そして「オトツツアンは

お人好しだけど、だらしないからダメだ、と娘にいわれるのが最高だ」ともい

っている。つまり、立派な父親ではなくて、だらしないけどきわめて人間くさい

父親像で同じように野坂昭如は娘に一言も文句をいえないし、娘がほしいものは

何でもみたくしてあげたくなるという。永は疎開学童として苦労しているし、野坂は、みずから焼跡、闇市派としてすごしたところから、ある父親のイメージをもち、娘たちに接している。慎太郎の父親のイメージと、それはほとんど正反対だと思ふ。図式的でないいかたをすれば、永・野坂は、本来の意味で民主的な父親イメージをもっているのに対し、慎太郎はその反対のイメージをもつ。

A 正反対のものを、あわせて一本という型で現実的にはあるわけだね。どんなもののわがりのいい父親でもおればなくるし。逆にいえばこの本の中で、慎太郎はものわがりのいいところももちあわせている。

B うちに息子がいたり、娘がいたりすると、慎太郎みたいに立派なことは書けないということはあるよ。人間だれでも

ダメなところあるもの。彼には書けるところがある。ちょっとおかしいんじゃないか、慎太郎は。

C 正確に言えば、慎太郎はこの本の

で、男らしさの教育、みたいなことをいって、男らしさの教育、みたいなことをい

って、男らしさ、というの、彼が参議院に立候補したり、若い日本の会をつ

くったりしていることとつながって、るんだらうと思う。そこで彼がいたい

のは「オレを見てみる、こんなにも立派だ」ということなんだらうと思う。

だ」ということなんだらうと思う。

A 石原慎太郎の修身教育のようなものだ。それにしても、慎太郎は男の子ばかり四人もっている経験にもとづいて、男の子のことばかり書いているけれども女の子の場合はひとつも書いていないね。女の子も雄々しく育てるつもりかね。ただ、女の子は弱者であることは最初から前提としているよね。

C いずれにしても、彼の教育論によれば、親は早く死ななければいけないわけだ。この辺で三島とつながるんだらうけど。

B 三島は、うら表紙で慎太郎の紹介をやっている。「石原氏には、強き美しき父に自らを同一化する特権がそなわっている」と三島はいう。

A 全体を通して、慎太郎は、男性的家庭における、自分は理想像ということ

にかなり強烈な自信をもっているね。B もっているというよりも、はじめから演出してきたということだね。ただ、

その演出のしかたが、三島なんかとはちがうね。三島の場合はかなり人工的だけ

どさ。

■教育と自主防衛論

A 慎太郎は最近とみに、日本は核をも

つべきだということを、明治維新の志士

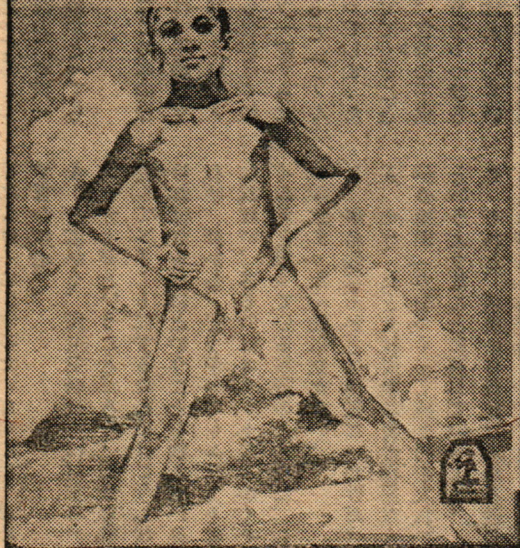
きどりでいっているけど、そういう体質

みたいなものがこの本にはにじみでているんじゃないの。

B 核武装に関していえば、慎太郎は一

Kappa Homes スパルタ教育

石原慎太郎



時期ほとんど、というより、永井陽之助のいつていることをほとんどマネしていつたことがある。あのあたりから、おかしくなってきたんじゃないかな。

C 中曽根康弘との接近なんかも関係あるんじゃないだろうか。

B それが武装均衡論になり、当然自主防衛とつながっていく。いまや核アレルギーなんかをもっていったんでは世界の潮流に乗りおくれるという大義みたいなものをふりまわす。

A 彼は、体制内反体制という。あれはインチキだよ。それは、どうってことない、現状がいちばんいいということになっちゃう。

B しかし、現在のように、すべての政

党がなんとなく体制内反体制みたいなことになっている時点に、こういう本を出すというのはうまいんじゃないかなあ。それは当然ナシヨナリズムというものと結びつくわけだから。

C そのナシヨナリズムに結びつくための男を育てる教育の本が、「スパルタ教育」ということになりますか。

B 全体がぐにゃぐにゃしているとときに倫理的なことを一本通そう、というわけだ。

A だから彼は単なる反体制ではなく、体制内反体制である必要があるわけだ。やがて首相になると明言している慎太郎としては、体制内反体制から、体制に指向しようとする。てめえの家もちゃんと

しっかりしてないと、あるいは、しっかりしている見本をみせないと体制にはならないんで、こんな本をだしてオレは、子供の教育に関しても、これだけ立派にやってるってことをみせたかったんじゃないのかな。

C ひとは、太陽族といわれていることを大衆的な次元でうちけそうという目的もあったんじゃないかな。

B それは三島もいってる。「太陽族の先祖のようにいわれながら氏が実はよき家庭人であることはきこえている……」というわけだ。

●狼生きる豚は死ぬ！

A この本の中で、注目すべきなのは、「偉人と成功者はちがうことを教える」というところだな。彼はこういうことをいう。「わたくしの同級生に、ある大会社で、若年ながらめきんで出世した男がいる。しかし皮肉な同僚からいわせると、その男の出世成功の秘訣は、なにをいわれても、いや社長、まったくおっしゃるとおりです」という相づちのずばぬけたうまさだけだそう。それを没個性というならば、そこまで徹底して自分を没個性にすること自体がひとつの個性といえるかもしれない……」このへんのレトリックはどこかで聞いたようなことだが、要するに、世の中というのは、自我をつらぬき通すか、それとも妥協すべきのところは妥協して社会的成功をするかの

二本の道しかないといっているわけだ。偉人は自我をつらぬき通し、もし、それがうけ入れられないときは自我を通したことに満足して死んで行くだろう。それではなくては妥協しなければならぬというわけだ。そこで慎太郎は、二つの道のうち、どちらかを選べということはいってないわけだ。ただそこで、現代の子供のように、将来の希望はときかれて「平凡なサラリーマン」と答えるような子供にするな、といっている。平凡さを美德とするような家庭をつくるな、というわけだ。しかしこれは、白と黒とははっきりしているわりにはあいまいで、じゃあ慎太郎自身はどうかというと、成功者、つまり妥協すべきところは妥協して、体制内反体制になっていくのか、そのへんがはっきりしない。

B 「ごむりごむり」とも、という生きかたも決して悪くないという逃げはうっているわけですけどね。

C 慎太郎のダメなところは、偉人か成功者か、という二者択一きりないわけでしょう。その二者択一でくると「平凡」というのはダメになるわけですよ。もうちょっとちがった生き方があることを彼は考えられないんだ。また、「平凡」という生き方があることを想像しなければ現状にはあわない。

B しかし、彼は政治というのは、四捨五入だと思っているわけだから、そのあいだにある部分は切りとってしまおう。そ

んなものはどうでもいいと思ってるんじゃないかな。ほんとうは、彼の二者択一のあいだにある大部分のものがとても大切なんだけど。

A そういう二者択一方式はこの本の全体に流れているね。たとえば、子供がケソカをしていたら親はでるな、というよね。もし、子供が悪かったら親がなぐれまた、相手が悪かったらもう一度やらせろ、親がでていってもいいっていうんだ。すべての人間が強くなくてしまったら、かならず敗けるヤツがでてくることは、彼には予想がつかない。自分の子供さえ正義の味方なら、相手をやっつけるという。その正義というのはあいまいで、たとえば太平洋戦争の日本だって正義だといっていた。それでアジアの弱者をやっつける。慎太郎の自主防衛、核武装論につながるのはこのへんだね。

B 要するに、この本は、成功者でもない偉人でもない、たとえば平連のような連中のことのはのぞいているわけだ。

C だからこの人の場合には、成功者と偉人という権威者になるための教育という発想が生まれてこない。弱者はアカンといっているわけだ。彼の戯曲に「狼生きろ、豚は死ぬ」というのがあるけど、彼は自分の子供を狼、つまり、他の豚をたべる側に育てるために苦心しているわけだ。すくなくとも自分たち家族だけはエリート中のエリート・コースを選ばなければならぬ。いってみれば慎太郎

家における帝王学みたいなものだ。ほめすぎかなあ。

A とにかく、民主主義教育に対するアンチテーゼということだろう。だから徹底してエリートにするためにはこうしなければならぬということをおっしゃっているわけ。だから、どうやってもエリートになれない、あるいはエリートなんかくそくらえと思っている家庭のためには、この本はまったく役に立たない。

B 無名性なんかとは関係ないわけだ。A そう、たとえば受験教育の難高なんかの論理「力をつくして狭き門を入れ」というようなことに通じているよね。

C それと、戦後の日教組なんかと通じるものがあるんだろうけど、教育の過剰期待のようなものがひとつの前提になっていると思うんだよね。たとえば日本が戦争賛美に行っちゃったのは教育が悪くて、戦後は民主教育に徹しなければならぬというようない。しかし教育によってすべてが決まるわけではない。早くいえば、放任教育をやっても、この本みたいにむきになってスパルタ教育をやっても、どうってことないんじゃないか。スパルタ教育をやらなきゃいかなと肩をはってヤツこそ危険なんじゃないかな。また、その発言に感動して、くっついていくようなヤツはバカみたいなものだ。

■忙しいヤツの教育論

A つまり、教育というものは存在しな

いという立場の教育があってもいいんだよね。たとえば家の中の教育なんてものは、なにものでもない。忙しくて、そんなことできるかよ、というのがあつうだ。この本は、忙しいヤツの教育論なわけだ。

B 昔はありがたいことに、ガキ大将と乾分という遊び仲間がいて、そいつからいろんなことを教わったわけよ。その遊び仲間、いいかえれば横教育集団というのがあったよね。この本みたいなタテの教育ではなくてさ。いまそれがなくなっちゃったけど、いま、その横教育集団をつくったら、交通事故にあっちゃうとかあるわけだ。しかし、理想的にはそういう集団の中でゴチ・ゴチとやっていたら、へんな教育をする必要はまったくないと思う。もっといい教育ができるんじゃないか。それをやらないうから、この本みたいに「わが子教育」になっちゃう。

C 七〇年代というのは、街頭社会というのが成立しはじめちゃってさ。街頭と家がまざりあっちゃってさ。だから、幼児のときには横教育集団というのはできないけれど、若者になったとたんにはパーッと街頭とか広場がでてくる。そうなるとう家庭教育もへちまもないわけだ。そういうふうになっちゃった家があるもんだから、それを何とかせきとめて、家訓みたいなものをつくらうというのがこの本のもうひとつのねらいなんじゃないの。

B そういうこと、つまり、子供が何やっているのかよくわかんないということと不安になっている人にはうけるでしょうね。平連なんているのは、その、何やっているのかよくわかんない連中があつまっているわけだ。街頭デモなんかそうですよ。

C 反慎太郎教育論でいえば、現代における横教育のもっともよい例はデモに行くとさ、ということはいえるかもしれないね。そこでは、タテの関係による教育じゃなくてベタッとした広がりがある。親がいくらもがいたってできない教育の要素がちらばっているし、教育される側、つまり子供の側でいえば、親に教育されるより、そこで自分をきたえていったほうが、はるかに教育的成果をあげられる。

■もしもあなたが、

自衛隊員なら、聞かせてください。

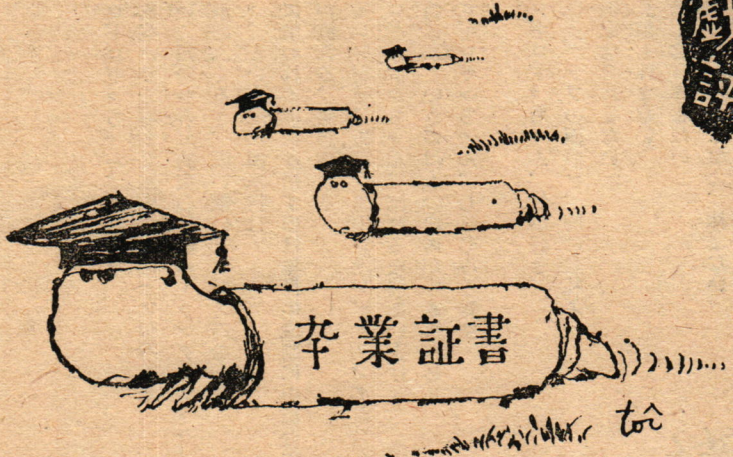
「週刊アンボ」の感想を、自衛隊の生活を、それからあなたのことを。

小西誠元三曹を知っているでしょ。彼が隊内でまいたピラ、「アンチ安保」には「誰が自衛隊の敵で誰が味方なのか」という根本的な問題についての訴えがありました。

あなたはどうか考えていますか？
手紙を書いて下さい。秘密は守ります。

「週刊アンボ」編集部投稿係

春です



●海外雄飛ハ大ハヤリ
※海外雄飛トイウ古イ言葉ガ
ゴザイマス。ナルホド、昔ノ
人ハウマイコトヲ言ッタモノ
デ、海ノ外ヘ雄ガ飛ンデ行ク
流行ハ、当分ハビコル一方
ノヨウデアリマス。文字通
リ、雄ガ、台湾、香港、韓
国、東南あじあへ、団体旅行

デ飛ビ立ツワケデ、女性ノ海外
旅行熱ガうなぎノボリデ四十度
ダトカイッテモ、雄飛ノ数ニハ
トモカナワナイノデゴザイマ
ス。ソナニ大勢サマ、何シニ
オ出カケカト申シマスニ、雄ノ
雄タル欲望ヲ満タシニ參ル、今
フウニウナラバ、お×××旅
行ナノデス。カッテ大東亞共榮
圈ノ旗印ノモト、植民地トシタ

あじあノ国へ、フタタビ親交ヲ
アタタメニ出カケルワケ。
※悲シクハナイカイ、おとつ
あんヨ。韓国ノ女性ハ、靴下マ
デハカセテクレテ、齒モミガイ
テクレル、帰国スル時ハ、ひこ
う場マデ送ッテクレテ、よよト
泣キクズレルンダト、団体旅行
ノ、中小企業主ノオッサン、眼
エカガヤカセ、舌ナメズリシテ
話シテイタケド、すれてないオ
ンナトなにスルタメニ、視察団
トカ、觀光団ヲ組ンデ繰リ出ス
トハ、アマリニモナサケナイ。
姦行団ト名称ヲ変エタラド
ウヤロカ。
※お×××旅行(おーチンチン
ハ活字ニシテモ、トクニドウッ
テコトナイガ、女性ノソレノ標
準語ハ、ココニ書イチャウト、
ギョットナル人ガイルソウナノ
デ、おバツバツデ代用)ノ一ツ
デアル、アル旅行団ノ旅行社ノ
社員ガ、出発ノ前夜ニ、五十人
様分ノ旅券ヲ紛失スルトイウ事
件ガアリマシタ。香港、台湾ニ
行クハズノ地方ノおんじいタチ
ガ多クッタ。旅券ガナキヤ出発
デキナイヨ、オ立チ台イ。旅行
社ハ、アワテタネ、都内ノほて
るニ泊メ、「ホンコンだめダカ
ラ、鬼怒川温泉アタリデヒトマ
ズ」ト代案ヲ出シタナ。

※オ客ハ農家ノじいさまや商店
主ダッタガ、困リカタガ泣カシ
タネ。自分ガホンコンヤ台湾ニ
行ケナクナッテつまらないトイ
ウンジャナイ。「近所や親類か
ら旅費を上まわるほどのせん別
では帰ってからどう説明するん
だ」ワカルヨ、ワカルヨ鎮守ノ
森ノおんじいヨウ。
※ワカルケンドモヨウ、コレジ
ヤ、ああ、あの顔であの声
で、手柄たのむと妻や子が「ノ
歌デ見送ラレタミタイデ、ナン
テタッタッテカンテッタッテ、決
死ノ覚悟デ、香港、台湾ヲ侵略
シテコナキヤ帰レナイミタイデ
アルヨ。
※東北カラ東京ニ出テキテ、海
外雄飛スル前夜旅券ヲ失クサレ
タ雄タチノ当惑ブリモワカルケ
ド、モット困ッテイタ奴モイル
ンダゼ。

●うなぎチャンノ変死
※日本一ノうなぎノ産地、静岡
県ノ吉田町トイウトコロ、養殖
池ノうなぎチャンたち、マルデ
ゴーゴー踊ルミタイニ立チ泳ギ
シ、苦シソウニノタウチマワッ
テ死ンジャウ。ソノ数ニ百万匹
ッテンダカラオッソロシイ。人
間サマノ方ガ、ヤレすもん病ダ、
ばーちえっと氏病ダト、奇病
ニオビエテイタラ、うなぎチ
ンタチカば焼ニナル前ニ悶絶
死シテシマルウンダカラ、コト
ハ複雑デアル。みなまた病発
生当時ハ、猫ガサカ立チシテ
歩キ出シ、海ニ飛ビコンジャ
ウト騒ガレタ。うなぎノ奇病
ダカラトテ、オノオノ方、安
心シテイテイイッテモンジャ
ゴザンセン。アキラカニ公害
ダトワカッテイテモ、病人ガ
刻々ト誰ニモ相手ニサレズ死
ンデイッチャウ、ゴ時勢ナノ
ダカラ、タトエ、美シキまど
もわぜるニ足フマレテモ、ぎ
ゃあぎゃあサワギ立テテ、モ
シカスルト脱セニナルカモシ
レナイクライ、オビエ悲鳴ヲ
アゲツツケ、知ラヌフリスル
人タチニ、知ラヌフリサセナ
イヨウニシヨウデハナイカ。
※デモ、うなぎ君ノ変死ハ、
コトニヨルト、うなぎノ値
段ヲ高メルタメニ、心ヤサシ
キうなぎ達ガ、自殺シテ人口
増加ヲクイ止メタノカモシレ
ナイ。コノ夏ハ、うなぎ高ウ
オマッセ、世界ノ人口ガ一
九八五年ニハ、四十九億ニナ
ルカラ、各国十分注意セヨッ
テ、国連カラ警戒警報ガ出タ
トコロデモアル。(鹿追)

ギロギロギッちゃんの生活真情

鈴木志郎康

ギロギロギッちゃん、遊び好き

残業稼いで二時まで違法マージャン200円浮き

続いて四時からお約束の早朝ボーリングはストライクを狙え

真昼のふくろう、眠い眠いとプレス踏む

アッ、という間に四本指は

鉄に喰われる、駆け出すのは早役の職制に小組合大幹部

血が流れる、血が流れる

サイレン鳴せ、ああ、マージャンボーリングおさらばか

ギロギロギッちゃん、流れる血液掬い上げ

本当に鉄というのは人の血肉が好きだなあ

ギロギロギッちゃん、しみじみと青空

ギロギロギッちゃん、仕事好き

伸びるグラフの面白さ、胸の名札よ

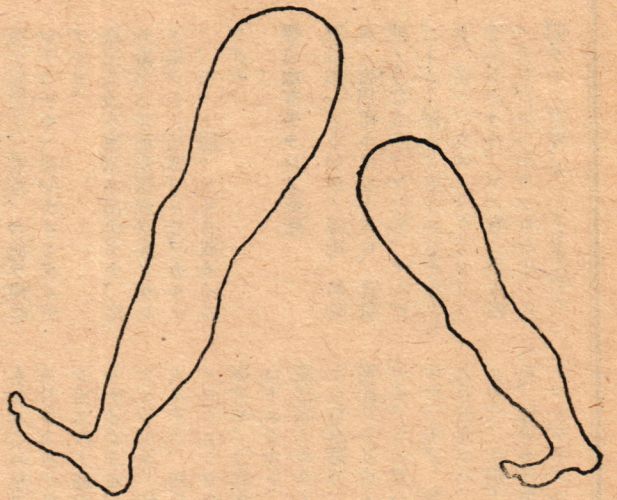
建国記念日休まない

天長節も休まない

憲法記念日休まない

文化の日、あたぼおよ、休まない

(ひゃあ、反国家的、恰好いい)



ギロギロギッちゃん

秋の日に残されたるは親指一本
男の親指

巨大な親指、パチンコ指

ギロギロギッちゃん、たちまち覚えた得意の手鼻
小顔の富士山ちよい撫でチーン

ギロギロギッちゃん、女好き

かみさん愛して十五年

グラビア女体に二十年

小学校ではスカートまくりの優等生でした

夢中で見たいあばれる太股

まるで高屏の中の庭の中のルームライトに照らされた部屋の中の見ただけの

家族相愛の清潔洋食白い血／

ギロギロギッちゃん、胸に浸み入る女房の乳房

子供と競うオッパイちゃん／

ギロギロギッちゃん、数え好き

一つ、何ごととも自分の手で確かめよ

今日もまだまだ日本の空の下には

帰る家庭はあるのか

残された親指はあるのか

おまえの心臓からはトックトックと赤血が流れているか

両手は後ろに針金で縛られていないか

頭蓋骨には穴はあいていないか

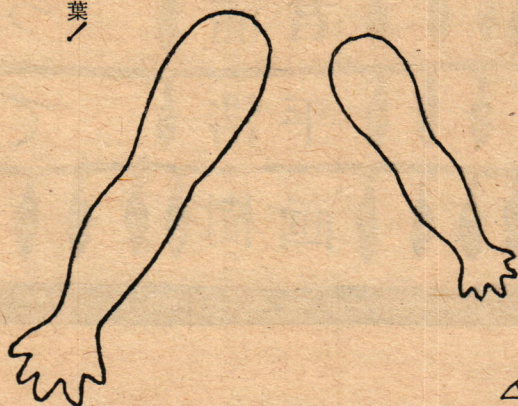
無残の胴体は村道に捨てられていないか

ギロギロギッちゃん、盗られたら大変だぞ

かみさんの好きな真黒な太い男根／

その日の目標はその日に果して、日々新たななり。とは社長のお言葉／

日々は毎日旧かった／ギロギロギッちゃん



蓑

生虫

きは

る何

かに

よ

つ

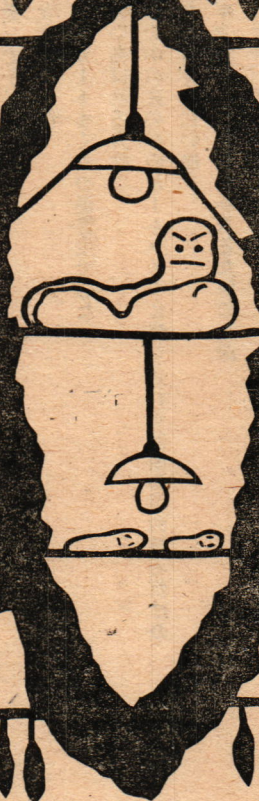
て

東三

君浦

平浩

画樹



東京もずっと西のはずれ、まだランプ暮しをしているような山里に、醜男^{みにくおとこ}もったくなしの、こ穢^{けが}ない、こきたない蓑虫の一家が棲んでいた。

あるじのお父ちゃんみの虫は、あき暗い色の、どこからみても見映えのしない羽根をもって、そここの茶の葉やミカンの葉など、ひどく貧しいものをかっぱらってきては生計を立てていた。女房のお母ちゃんみの虫は、このろくでなしと結婚したために、ろくな羽根も買えなかったので、うじ虫状のぬらりとした裸のまま、みの袋にくるまって外に出ることも出来なかった。彼らは、みの袋の中で交尾を行なった。卵を生み、育てた。子供は二人いた。雄と雌であった。

みの虫を知らない読者のために注釈を入れるならばみの虫とは、鬼が生んだ子であると、ずっと昔のこざかしい女の物書きがいつている。秋に「ちちよ、ちちよと鳴く」そうである。衆知の事実である。

我がみの虫お父ちゃんも、はたして「ちちよ、ちちよ」と泣く。秋といわず、冬も春ものべつまくなしに、泣くのである。何故、このように、奇妙な泣き方をするかといえ、ことのおこりは我がみの虫の父親の生涯とその死にさかのぼる。

みの虫お父ちゃんの父親は、その昔、このあたりに青虫女王が君臨していて、世の中じゅう、いともとうとい光が満ちていた頃、選ばれて青虫女王の親衛隊のラッパ手になった。いったいに、その頃の虫の国では、青虫女王の親衛隊に選出されることは、もってのほかに名譽なことであった。そのうえ、ラッパ手に抜擢されたとあれば、これはどうしてどうして、友人知己、一族眷族、みな鼻高々であったのだ。

きみ、虫の兵隊というものを思っても見よ。うじ虫や、いも虫や、こめつきばったや、きりぎりすや、は

たおり、といった連中が、りりしく軍服をつけて整列する。青虫の女王と、ごま虫の宰相閣下が、デコルテを旭日にきらめかしながら、胸をはってお出ましにされる。みの虫のラッパ手は、朗々とラッパを吹く。ラッパの金メッキ真鍮のきらめきを見よ。朱房のたおやかにふるえるさまを見よ。

早合点されては困る。わたしは、この光景を活劇絵本のような深甚なユーモアでもって描いているのではない。この光景を思うとき、わたしは心の中で、紙でこさえた小旗をうち振っているのだ。我がみの虫お父ちゃんも同様の心情なのである。

みの虫お父ちゃんの父親であるところのラッパ吹きは、幾多の戦場で高らかにラッパを吹き続けた。彼のラッパは、まことにみごとであった。

女王さまの前で吹くときは、このように聞こえた――

ミギムケミギムケミギラムケー
ミギムイテジョーオサマニレイオシロー

すると、虫けらどもみな、女王さまの尊さに打たれて涙ぐむのであった。

彼が、北の国の戦場のあつからんとした木造の兵舎で、暁のラッパを吹くときは、

オキロヤオキロヤミナオキロー
オキナイトハンチョサンニシカラルー

すると、虫けらどもみな、戦いの庭に飛び出してゆくのであった。その目は、

勝利の予感で妖麗なまでに美しかった。そしてまた、彼は、砲声の間をぬってラッパを吹きつづけた。

ススメヤススメヤミナススメー

トモノシカバネコエテユケコエテユケー
すると、虫けらどもは、ただいっしんに、敵を深く深くつきぬけるまでに深く殺そうとしたのであった。このとき、殺意は、寸断された垂水のように透明で、鋭く、冷たく、まことに美麗であった。

この虫ども、なんのために、なに者を敵として戦ったかと、君はきくか。そんなことは瑣末な問題だ。いったい、虫けらどもがなんで殺しあうかなんて誰が知るものか。たいしたことではない。虫に悲劇があるものか。

さて、虫けらのいくさが終ると、青虫女王はさっさとデコルテをぬぎすて、ごま虫と一緒に馳けおち、逐電してしまった。可哀想なのはラッパ吹きのお父ちゃんだった。それというのも、ひそかに青虫のかてか輝やく肌になわね思慕を寄せ、ひたすら忠誠を誓って生死の境を越えてきたのである。へたりこみ、幾日もしないうちにあっさり往生してしまつた。ラッパ吹きのお父ちゃんよりもっとあわれなのは、我がみの虫ちゃんであった。頼りになるおやじに先立たれ、路頭に迷うはめになった。みの虫は「ちちよ、ちちよ」と泣く泣く、自分の父親のかわいた死骸をカリカリと食べた。

東京の西の山里で、みの虫がくだらな

いかわらぬなどをしてくすぶっているというの、ざっとこのような背景があったのだ。みの虫のような、ちびた、こきたない生き物でさえ、こうした重い運命を首木としている。

ときに、みの虫の暮しぶりを観察してみても、わたしどもの人生の道に何ほどの益やあると考えれば、まったくなんのことはない。ただ、昔の女の物書きが筆の走るままに「糞虫のちちと鳴く」といったのを、ほんとに、みの虫が泣くか泣かないかと、純粹に文献学的に生物学的に問題を解き明すにとどまる。

みの虫の家。夕餉ときである。家族みな渴えている。お母ちゃんみの虫は、食うものがなくてぶりぶりしている。お父ちゃんの方はだれと寝ころがってテレヴィジョンをみている。二人の子供達は物を食うかわりに自分達の指をしゃぶっている。指は、ふやけて、中ほどに歯でほじくりかえした、このようなものができてしまっている。「これ坊や指を食べるのをよしなさい」とお母ちゃんがいう。「指がゲバゲバになってしまいますよ」すると息子「ゲバゲバなっちゃう。ゲバゲバへんなの」といってニヤッと笑う。けれども指を食いつづける。娘の方がよくまわらない舌で叫ぶ。「びいーばん、びいーばん」「おい、この娘は何といっているのかね」「みかん、みかん、といっているのよ」「なんだって、

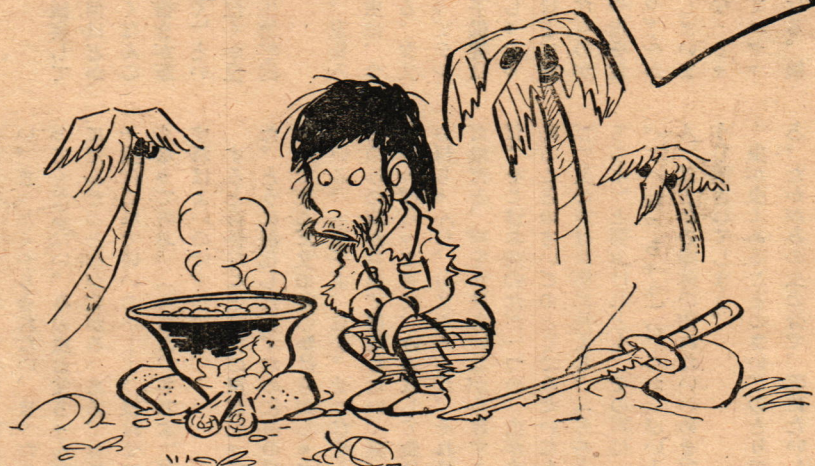
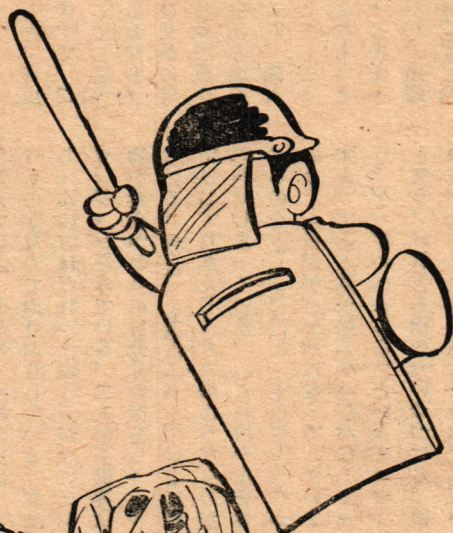
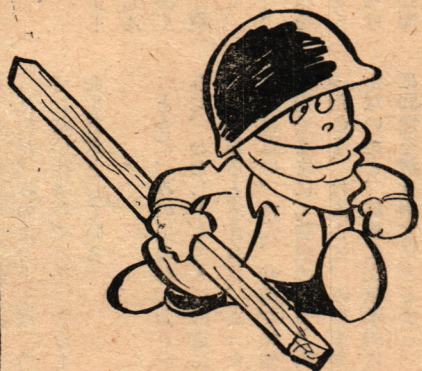
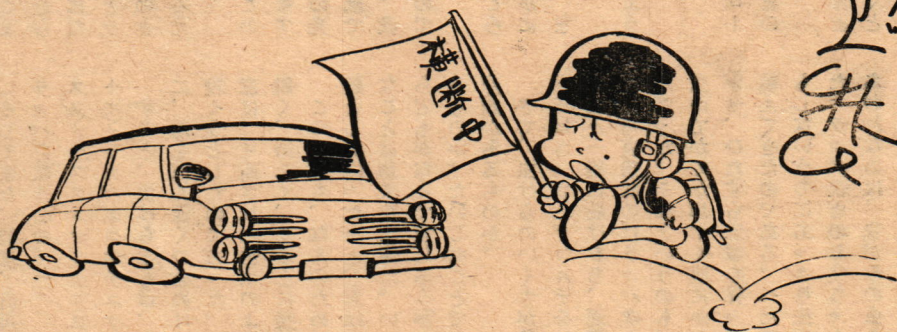
みかんの葉っぱさえ家にはないのか」みの虫お父ちゃんは面白くなくなっている。おれはこれまでくだらないかわらばかりにかかずらわってきた。実に悲しい。まったくやりきれない、まったくもってくだらない。みの虫お父ちゃんの心にだんだんと影が広がる。ああ、おれの一生はこれでいいのか――彼はせつなくなつて叫ぶ。「ちちよ、ちちよ」どうすればよいのですか。

すると奇怪なことに父の声が返ってきた。とうに消化したはずなのに彼の胃袋の中で死んだ父の殻のかけらがしゃべっている。「息子よ、息子。せつなくともそのみの袋から出てはならない。葉っぱをさらってきて、みんなして食い、お母ちゃんだ、お父ちゃんだ、それ息子だ娘だ、声をかけあいながら暮すことだ。そこはお前のただ一つの、虫が虫であることのさいごのとりでみたいものだ」父の声は次第に消える。「ちちよ、ちちよ」と呼ぶけれども、その声は「ゲバゲバなっちゃう」だとか「びいーばん」だとかの得体の知れないわめき声にうち消されてしまう。

虫が虫であることのさいごのとりでだと。たかがみの虫の分、実にたいしたものだ。風のひとふき、猛禽の嘴のひとつきで飛ぶようなこたない果を咥とは。虫というのは、あさはかで、あさましいものだ。
(おわり)

ヘルメット

11/2/21
CH





の声

北爆開始五周年デモの反響

■ことばのモンタージュ
グループ海 制作

「デモに行こうかって、友だちと話し合ったこともあるんですけど、高校生の場合は学校も許してくれないし、なかなかまとまらないんです。戦争は誰だって反対じゃないですか」(一六歳・女高生)

「先生だって戦争は反対なのに、生徒が反戦のデモへ行くのは考えものだなんていうの、何かおかしいわよね。このデモは、私たちも入りやすいデモだと思っています。ヘルメットもいらさないし。でも制服じゃやっぱり……、学校もバレルでしょう」(一六歳・女高生)

「私は、日本では絶対に戦争なんか起こらないと思います。ベトナム戦争は、週刊誌で虐殺の写真を見たことがあるけどいやだなって思います。べつにデモに行こうかなって自分から思ったことはないわ」(一六歳・女高生)

二月七日、北爆開始五周年のベ平連のデモを立ち止まって見ていた学校帰りの

三人の女高生のことばです。

私たちはこの日、ベ平連のデモコースに沿って、歩道から、あるいは店先から、少しでもデモに関心を示した人たちに徹底的にインタビュを試みた。質問はつとめて短かくし、「デモを見てどう思いますか。」のひとつにしほり、積極的にかたえてくれた人には「反戦運動についてご意見がありますか?」ときくことにした。ただでさえむずかしい技術がいるといわれているインタビュを、まるで未経験で、豊かな笑顔の持ち合わせもない私たちが行なったせいか、相手は一樣にけげんな表情をうかべ、一瞬、とまどったようだったが、デモ隊が横を通過しているという臨場感の支援を得て、私たちの質問がまるで無視されたというケースは、思っていたほどにはなかった。

以下、私たちのメモ帳に採録された、いろいろな人たちの、いろいろなことばを列記してみたいと思います。私たちが意識してした修正は、本人の意図した以上に多くなった助詞と接続詞をはぶいたことと、あまりにもサイケデリックな文法に出くわしたときに、それをいくぶん、大衆的な文法に還元したこと、そのふたつです。

「べつに大したこと感じないな。やる人もいて、やらない人もいる。こういう政治のことはそれでいいんじゃないです

か。」(二五歳・会社員)「学生時代にはくもデモに行きました。今?……気持ちそうならないときは、行きませぬね。」(二五歳・会社員)「戦争反対っていうけど、機動隊にだってひとりひとりきいてごらん。戦争に賛成です、戦争やりましようよなんていうバカはいませんよ。天皇陛下だって戦争反対っていうよ。……とりたてて戦争反対のデモをする意味は、悪いっていつてるんじゃないよ、意味がないような気がするね。」(二三歳・商店主)「偉いなって思います。でも自分のことになると、こうやってデモをしても、しなくても同じことのような気がしてくるんです。戦争はいやなことだと思わう。」(二十歳・女書店員)「今年はいへんなんじゃないですか? 安保ですものね。政治の本がけっこう売れるんです。」(女・書店員)「政府の大臣連中が見ていないデモなんて意味ないよ。これだってブラカードが少ないね、何のデモか、見たとたんにはわかるようなやつでないんだめだね。サトウさんもだね、いばってふんぞり返ってないで、日を決めてだね、国会議員もズラリと並んで、デモを見る日を作りゃいいんだ。オリンピックのマラソンのようにね。交通もストップしてデモ・デーにするんだ。」(四四歳・商店主)「ベ平連のこととは全部、理解します。よくわかるんです。……だからってどうすりゃいいんですか。そのところが……。」(三八

「声なき声」



歳・公務員)「寒いのに皆さん大変だと思ひます。……反戦? そりゃ気持ちのうえではみんなそうなんじゃございません?」(女・無職)「べ平連っていいわね。『週刊アンボ』も読んだことあります。男の子たち、みんな髪の毛が長い理由があるのかしら。」(女・無職)「このデモはどうかわからないけど、暴力を使うデモは反対です。方法が悪いと思ひます。弟は、やむをえないなんていいますけどそうは思ひません。選挙だつてあるし……なにも火焰ビンまで投げなくつたつて。弟? 中学生です。」(一八歳・女社員)「オレだつてね、新宿の西口で百円カンパしたことあるんだ。……いいんじやないですか、賛成だね。」(四〇歳・会社員)「昔だつたらたいへんだよ、こんな連中は全部、牢屋行きだよ。世の中が甘くなつたね。」(六二歳・無職)「いいデモですよ。拍手したいね。機動隊は三億円の犯人でもつかまへりゃいいんだ。なんでギアアギアとデモにくつてかか

るんだ。黙つてれば黙つて通り過ぎるじゃないか。」(一八歳・浪人)「最近、安保とか、いろいろ政治のことも考えたり、きいたりするようになったわ。デモに興味をもつてからです。」(二一歳・女・会社員)「ベトナム戦争は絶対に反対です。アメリカでも市民がたくさんデモに行つて反対したので、アメリカの政府も考え直したつて新聞なかで読んだけど、立派なことだと思ひます。日本も、そういう傾向があつたら、戦争は起こらなかつたんじゃないかと思ふときがあります。デモは賛成ですけど、まだ参加したことはありません。日本のデモは、市民より全学連のほうが熱心なので、正直いっておっかないと思ふんです。」(二一歳・女・会社員)「ベトナム戦争について、きみ、税金でも減らしてほしいと思ふのが先に立つのが、人間についてものじゃないですか。」(四三歳・会社員)「よくわかりません。戦争はいけないけど……よくわかりません。」(一〇歳・女の子)「暴力がなければデモは大賛成です。戦争はだれだつていやですものね。私は自衛隊もいやなんです。」(三一歳・主婦)「今年はアンボですけどね。十年前と同じような気がして、やりきれんですね。」(三六歳・会社員)「私はそのうち参加するよう気がします。……少数だから誤解されているわデモは。」(女・会社員)「私はデモには興味がありません。いっぽう的な考えのような気が

がします。冷静な考えかたが好きです。ベトナム戦争だつて、アメリカがいっぽう的に悪いように思っているのは、かたよつていて、正確なような気がしません。」(二一歳・女・会社員)「日大なんか、どうしようもない学校だからね。全部で行つてたきこせばいいんだ。戦争よりだいいですね、そちのほうか。……あんな学校のために大学立法なんて作つたつてナンセンスですね。」(二八歳・会社員・日大卒)「大いにやつてくれと思ひます。戦争反対? あたりまえですよ。今の政府はいいこと考えてないね。大いにデモをやつてくれといひたいです。ほく? やはりいそがしくてね、その辺が無責任なんです。あきらめてます。」(二三歳・商社員)「暇がなくてね。デモにでもぶつかったときくらいです。戦争とか政治とか考えるのは、でも最近、代々木とか反代々木とか、そちのほうか新聞を読んでもめんどくさくてね。……じつは選挙も、どの党に入れていいか、わからなくなりましてね。けっきょくやめたんです。みんなです。」(二八歳・会社員)「べつにデモを見ても、なにも感じません。だいたい、なにを見てもあまり感じないんです。」(若い男)「このべ平連は関係ないだけだね。デモの人たちは、どこまで本気であるのか、わからないところがあつてね。……本気だつたら、佐藤さんがアメリカへ行くときだつて、みんな蒲田

でウロウロしないで、ひとりくらいは
なんとか羽田に入れたと思うね。終った
ことだね。まあ、そうはいっても牢
屋はいやだと思ふし、こういう運動はむ
ずかしいですね。僕も、ときどき、その
気になるときもあるけど……勉強してな
いしね。」(二五歳・商店員)「ベ平連の
運動は正しいけど、けっきょく、民主勢
力を混乱させている部分もある。戦争反
対は、日本人の常識みたいなものです。
そうしたものは、やはりきちんと選挙に
反映させないと、けっきょくは花火を打
ちあげたようなむなしなものになります
よ。」(二二歳・学生)「僕は自民党を支
持してますからね、反政府デモには行っ
たことはありません。デモを見ても、あ
あ、それもひとつの意見だなあと思うて
いんです。ただ、自民党イコール戦争と
つなげてしまう論法は、せっかちで時代
おくれだと思ってます。」(二二歳・学生)
「新宿のほうがたくさんの人が見るんじ
ゃないかしら。」(一六歳・女高生)「だ
れかが戦争に反対してなければ、ズルズ
ル戦争をするような国になるような気が
しますね。ぼくはだれもやらなくなっ
たらやります。そういうことでもいいんだ
と思ってますから。」(二〇歳・大学生)
「べつにデモをしている人たちが、どう
のこうのと思いません。少しくらい、交
通妨害してもいいんじゃないですか。交
通のじゃまにならないデモがあったら、
そりゃデモじゃないですよ。」(二四歳・

公務員)「いつも考えるんですけどね。
戦争のせも知らない連中が、見てごらん
なさい。みんな若いでしょう。それが反
戦ってデモをしても本物じゃないです
よ。わかりっこないんだから、戦争って
どんなものだか。おれですか。おれは、
戦争でも始めますなんていったら、その
ときは議事堂でもなんでも、ブッこわし
に行きますよ。」(二三歳・セールスマ
ン)「はづかしいですね。デモをポカン
と見てるのも。でも、こんどデモに入っ
て道を歩くと、それとはずかしいね、き
っと。」(二七歳・会社員)「この辺はデ
モが多いんで慣れっこですね。でも、最
近は、デモもつまんなくなったね。警察
が強くてダメだ……戦争? しょうがなく
始まるときもあるんじゃないかね。」(男・
パーテン)「ベ平連っていうのは、全学
連とは、どういう関係なのかね。どうも
それがわからんと、はっきりした感想が

ないね。共産主義っていうのはいやだ
ね。」(男・三十くらい)「アンポのおか
げで、日本は経済的に豊かになったっ
て、よく聞くんですけど、アンポのため
に、どうしても戦争が始まって、日本も
まきこまれると、困るなあと思うんで
す。どっちもわかるので、けっきょくわ
からなくなるんです。」(女・無職)「ベ
トナム戦争は反対ですけど、安保条約は
賛成してるんです。なぜって日本だっ
て、ほかの国が攻めてきたら、守るべき
ですし……。」(女・無職)「ムシヤクシヤし
てくると、ああ、デモにでも行きたいと
思いますね。行ったことはないんです。
だってこんな考えじゃ、悪いでしょう。」
(一九歳・商店員)「もっと、なんのデ
モで、なにを訴えるか、一目瞭然でやっ
てほしいと思います。デモはしていけな
いなんて思ったことはありません。」(二
五歳・女店員)「ベ平連を含めて、新左翼

といわれている人たちの運動は、有形無
形の貢献をしていると思います。とくに
若い人たちにね。ひっくり返そうと思え
ば、ひっくり返るという思想を与えたとい
う意味です。造反という特殊な言葉
は、いまはたいいてい場所でも通用しま
すしね。つぶれて欲しくない運動ですよ。

ぼくは反戦イコール反体制、もしくは非
体制にとらえています。デモも、行くべ
きだと思ふ衝動が、もう少し強まれば行
くでしょうね。」(三二歳・デザイナー)
「どう考えても、いまの状態で戦争は起
こりっこありませんね。こういういいか
たはよくないけど、デモは、退屈な人た
ちがむりやりに騒いでいるっていう気が
するんです。」(十七歳・高校生)「僕は
デモに賛成します。大学へ行ったら、
ベ平連か全共闘に入ります。そう思っ
ている友だちはたくさんいます。世の中を
少しでも変えなければ、まるで希望がな
いですからね。」(十七歳・高校生)「も
う少し、警察に迷惑のかからないデモっ
て、できませんものじゃないかね。そり
ゃ気持はわかりますけどねえ。」(五三歳
・主婦)「デモを見るとホッとするんで
す。なぜだかわかりません。」(二二歳・
女・無職)「よくデモで逮捕されて、長
い間、警察にとじ込められている学生が
いるんですけど、ちょっと、かわいそ
うな気がします。デモに行かない人たち
より私ははじめに生きている人だと思
いますから……。」(二六歳・女・飲食業)「目

分自身が見当つかないのです。選挙のときもね。初めてなんで、投票場へは行ったものの、さいごまで自民党か社会党か、いろいろ考えましてね。めんどくさくなって、いちばん先に名前の書いてある人に投票しました。当選しちゃってね。そのとき、後味が悪くていやでしたね。」(二二歳・大学生)「デモを見てると、ちょっと興奮しますね。だからといって、ベ平連のすべてに賛成するわけじゃないけど……ベトナムは反対なら、ピアラやイスラエルは、いったいどうなんだ。チェコはどうなんだと思っちゃってね。まあ、そこまで考えると、たしかにラチがあかないんですけどね。」(二二歳・大学生)

質問が唐突なせいか、しばしば、インタビュアーと相手の間が白けるときがある。十秒も相手が黙っていろいろなものなら、こちらが、えたいのしれない不安に襲われて、逆に謝まって退散してしまいたくなるのが本音だった。とっても、相手にとってはばかた質問を発したような気になってしまうのだ。「声なき声」の卒直な声を採録して、壮大なことばのモンタージュをなしとげ、いかなる論説や論文をも凌駕する迫力を出そうなどという意気は、しばしば線香花火のような状態へ転落しつつあった。そんなとき、ふたり連れや、三人連れの人たちの受け答えが、私たちを救ってくれる。彼らは、

おしなべて応接でリラックスしてくれました。だれかといっしょにいるということ、つまり連帯の価値を、私たちは奇妙なときに思い知ったのだ。

「アメリカの青年でなくてよかったとつくづく思うのは、ベトナム戦争のことを考えるときですね。やりきれないでしょうね。アメリカの兵隊は。ぼくはベ平連のデモを、そうしたばくの気持を理由に、支持しているんです。」(二六歳・商社員)「他人の身になって考えるっていうのは、いろいろな事情でむずかしいですよ。ベトナムはベトナムの事情で……とにかく、戦争しなければならなかったんだろいうしね。日本だって、自分たちが戦っていたときは、夢中というか、必死だったしね。しかし、これからは、戦争に反対しつつけることは、大切なことかもしれないですね。たしかに。」(四〇歳・農業)



「われわれは、戦中派というわけですがね……戦争ということはだけで、アレレギー起こして、めんどうになるときが多いんですよ……ベトナム戦争もやってるやつは、やってるやつで、こっちはなんとかやらないように……そんな気持だといえ、正直なような気がしますね。」(四二歳・会社員)「ベトナム戦争が下火になったのも、世界中のこういうデモの効果だと思えます。立派なことだと思えます。」(二〇歳・看護婦)「デモにはだれも反対しませんよ。ただ、もっときちんと指導されたデモをしてないと、弾圧されてしまうんじゃないですか。」(男?)「私たちも、デモに入って歩けばいいんだって思うときもあるんですけど、なんとなく知ってる人もいないし、それに、こういう格好じゃ……。」(二三歳・女・無職)「反戦とか反体制とか、そういうのでデモって、くだらないと思う

よ。わざわざデモする必要はないと思う。ひとりですべて思えば、それでいいんですよ。戦争が始まっても行かなければいい。日本に原爆がおちたときは、これで世界もオシマイさ。だめなもんだ人間は、と死ぬとき思えばいい。」(一九歳・学生)「若い人の気持もわかりますよ。でもデモだけじゃね。まじめに勉強をし、そのうえに立って、デモに来るようになってほしいですね。戦争については、ふだんあんまり考えませんね。」(四八歳・主婦)「いつもデモを支持しているんですよ。理由は簡単です。警察が大きらいなんです。」(三六歳・男)「よく学校でもきかれるんだけどね。デモに行かないから、ベトナム戦争に賛成だなんて、思っではしくないですね。デモには行かなくても、戦争反対と思っている人は、たくさんいますよ。ぼくの場合は、そうしたことが、あまり心の中を占めていないんです。だれでも、そうした時期はあるんじゃないですか。」(十九歳・大学生)「私も同じ考えです。歌をうたっても、反戦フォークだってあるでしょう。デモには行かないけれど、西口のフォーク集会は行ったという人だっています。ベトナム戦争反対だって、いろいろな型でできると思うんです。デモに行かないのは、人によって理由がいろいろあります。私の場合は、なんとなく悲劇っぽくて抵抗があるのです。」(十九歳・女子学生)「デモにはべつに意見はありません

な。暴力学生はいけないけど、警察もずいぶん、いきすぎがあるそうですね。昔のようにならんと思いますよ。」(四八歳・公務員)「労働組合のデモより、こちらのほうが本気ですね。デモって感じがでます。」(女・会社員)「このデモはよくわかるけど、全学連のデモは、つぎの日に新聞で読むまで、なんのデモなのか、わからないというのがありますね。ああいうのは、全学連が損していると思います。」(十九歳・女・会社員)「年をとっちゃったなァーと思っていやになる。それだけです。」(二九歳・会社員)「いいかげんにしてくれていいいたくなる。遊び半分にやられちゃかなわない。」(中年の男)「週刊アンボという本、お茶の水の駅のところで買って読んだんです。ずいぶんためになるところもあつたけど、なにかピシッとはっきりしてないところもあります。こうやってデモを見ていると、ベトナム戦争はいけないんだと思うけど、デモがないときは、あまり関係ないなあって、はっきりいって忘れてしまいます。」(二五歳・女・公務員)「美しいって思います。ほんとうにそうです。」(三十くらい・男)「デモができるのも、戦争がないうちですよ。私は実際に戦争へ行ってきましたがね。戦っている身になってみれば、早い話、戦争もへったくれもないですね。生きるか死ぬかですからね。」(五五歳・無職)「まじめなデモだと思います。政治だって、

けっきょくは世論ですからね。がんばってほしいですね。いまの日本は、反戦っていてもピンときませんがね。油断できませんからね。自衛隊だって、まだ軍隊じゃないっていつているでしょう。ものすごいイカサマですよ。あの武器や装備を見てですよ、まだ憲法第九条があるっていうのは、イカサマですよ。純真な若い人がおこるのは、あたりまえだと思うね。それをつかまえて警察におち込んだり、自衛隊にデモ鎮圧の訓練させたり、冗談じゃないですよ。政府がイカサマをやめないかぎり、デモもやめるべきじゃないです。」(二三歳・テレビ局員)「こうして、四方八方見回すとね、なにやっても始まらないという気がしますよ。それも自然な感情です……。ぼくは、自分の感情にはむりさせません。デモはデモ、ぼくはデモを見ていてもぼくです。」(二七歳・会社員)「このデモは感じがいいけど、わざと警官につかるデモは、ふまじめな人がたくさんまざっていると思います。」(女店員)「日本がこうして一流になったのも、安保のおかげでもあるわけですよ。日本でメシを食

えている人たちが、ただ安保反対っていても、それだけじゃだれも相手にしないんじゃないですか。もっと現実を見きわめて、デモならデモに加わるべきですね。ぼくは佐藤政府の現実的な政策に、ほぼ満足しています。」(三一歳・男・会社員)「よく気持がムシクシクするだけで、全共闘に入って石を投げてくる学生がいるってきくんだけれど、だから、くだらないとは思いませんね。その辺がむしろよくわかってるんです。日本は戦争しないっていうけれど、実際に戦争している国と仲よくしたり条約むすんだりしているんですからね、ナットクできないのがあたりまえだと思います。」(二二歳・会社員)「最近ではデモを見てもおもしろくない、東大闘争、テレビで中継したあれ、最高だったな。結果は負けただけどスカークとした。おれ？ 賛成することとか反対することとか、こまかくはあるけど、考えてみると、デモへ行っただけ足するほどにはないんだ。」(十九歳・家業)「なんでもかんでも反対、反対っていうのもどうかと思いますね。そういうところが賛成できません。」(四十歳くらい・主婦)「考えていることを実行するのが正しいことですよ。ベ平連は、そういう点がすきです。ほかのデモはまったく見世物みたいだけど、ベ平連のデモはヒョッと入ってみたくなる。いまでも……用事もあるしね。」(若い男)「どうしてデモっていうと、学生が多いのかし

ら？ 昔からそうだったらしいけど卒業してから、どうなっちゃったのかしら？ 私は友だちから誘われても、デモには行かないわ。理由はべつにない。」(若い女)「もっとミニスカートのかわいい子ちゃんを先頭に並べてさ、かっこよくやらなくちゃ。これからはデモだって派手にやらないと……そう思うね。」(若い男)「こういうデモをしながら、反戦運動以外に、いろいろな悪い習慣や、つまらない制度を改めていこうとする態度が、いいと思います。私はデモは見るだけでですけど、ほかの面ではとても勉強になりました。」(二四歳・女・無職)「日本では革命はもうわりですよ、機動隊ひとつ見ても体制は強いですよ。デモも、ちゃんと合法的にやって、むしろ安心して参加する人をふやしたらどうですか。私は戦争は反対ですっていうけど、いっぽう、自民党も支持してますからね。なにしろ、夢みたくに革命を叫ぶ連中は、熱しやすく冷めやすいみたいなのところがあって、現実には信用できません。」(四六歳・教師)「ベ平連は、テレビで番組をもてないんですかね。そうか。金がないですね。金を握ってるところがなにやっても強いすな。テレビでだれかが演説するほうがデモを何百回やるより効果があるように思うんですがね。」(三七歳・教師)「戦争反対デモは、文句ないでしょう、だれだって。でも最近では、うかつに反戦っていいなくなったムードもありま



疎外の構造

◆討論
羽仁五郎

登場人物
小田 実／吉川勇一／小長井良浩
山根二郎／松本健男／瀬戸内晴美
竹中 芳／正木ひろし／和田英夫



【録音内容】

LPソノシート両面盤8枚

- 新しい市民運動像
- 戦後民主主義の亀裂
- 日本の裁判
- 状況からの脱皮

【本文記事】本文24ページ
●激動の中の知性-羽仁五郎
針生一郎著

●用語解説

好評発売中！ 価850円

株式会社 朝日ソノタマ
〒104 東京都中央区銀座4-2-6
☎(563)6021~9 振替東京40311

すね。うちの会社なんかまずいですよ。変ですね、やっぱり。昔は戦争反対っていわないほうが、ばかみただったんですけどね。」(三三歳・会社員)「どちらが悪いっていうことではなしに、機動隊とデモ隊の衝突は、やめてもらいたいね。世の中がすすんでくる。大げんかは映画だけでたくさんですよ。けんかしてゐるかぎり、警察もデモ隊もいやになってきますからね。」(二六歳・会社員)「現実にはなんでもできないけど、ベ平連や全学連のいっさいを支持しているんです。ゲバルトも賛成です。ねわっている大衆に対するショック療法です。」(二六歳・会社員)「デモで交通が止まった。っておこる人たちは、個人主義者だと思えます。西口のフォーク集会だって、歩く時間が一分や二分おくれたからって、文句をいう人は、心の貧弱な人だと思えます。そんなに時間がないほどに忙しいのなら、忙しくした自分の状況に腹を立て

るべきで、歌をうたっている若い人たちに、やつあたりすべきではないと思うんです。最近の新宿はつまらなくなってます、みんないってます。そういう私は、まだデモに入ったことはないのですが、少なくとも、デモや反戦運動に迷惑顔をするような人間にだけは、なりたくないような気持ちでいるんです。」(二三歳・洋裁店店員)「ぼくは、このデモに、心から拍手を送っている、なんていうところになるけど、まだ一度もデモに行こうとも思ったことのない、自分の性格とか、人間性とかが、ちょっと気になってきたんです。いまの自分が、どうも気に入らないからなんです。なにをしても、ひとつふっきれないものがあるんです。」(二二歳・大学生)

デモは、いつの場合も、いかなるデモであろうとも、参加者の意志の確認と連帯の強化という側面とともに、見る人への効果的な反響を期待するという、もうひとつの重要な側面をもっている。したがって、熱い連帯のデモが、熱い連帯の拍手に迎えられるのが、もっとも効果的でしあわせなデモだと、私たちは考えます。そうした意味で、デモを見送る人たちの卒直な感想は、いつも気になるもののひとつでした。なぜなら安保フンサイを、人間の渦巻きにするためには、少なくとも、こうしたデモ隊の一員として加えなければならぬからです。そのためには、彼らの気持を、少しでも謙虚に知る必要があると私たちは考えました。その結果はこらんとおりました。このことばの多くは、けっしてスラスラと語られたものではないし、もしかしたら、語った本人にとっていいたりなかったり、ちょっとした気分、日常思っても

いなかったことが、口をついて出たのもあると思われれます。ふざけていったことも明らかにあります。インタビュアーが多少興がのって、よいいなことはじりをつかまえてしゃべらせてしまった部分もあります。しかし、すべてがデモを目撃した人たちの、そのときの真実のことばです。たとえ、心に思ってもいいことばをしゃべったとしても、そうしゃべってしまったその人の感情は真実です。

私たちは今回、このことばを再検討して、結論めいたものを出す作業をあえてやめました。このさまざまなことばの群はとらえかたによっては、ひじょうにアナキーな不協和音かもしれませんが、逆にその不協和音をきいてもらって、読者の皆さんに、それぞれ十人十色の結論を出していただいたほうが、いくぶん、このことばに対して誠実であるような気がしたからにはかなりません。(投稿)



日米反戦共同行動は

なぜ必要か

フランス・チャーマン

反戦キャラバンで来日した筆者が透徹した東洋研究家の目を通して70年アジアの現状と、アメリカにおける反戦行動の展望を語る

一、ベトナム戦争はどうなっているか

今日、二月七日はアメリカが北ベトナムの爆撃、つまり北爆を開始して五周年にあたる。今から約二年前の一九六八年三月三十一日、私はハノイにいた。その時、当時のアメリカの大統領、ジョンソンは北爆停止を発表した。そしてベトナム人も他の国々の人びともベトナム戦争はまもなく終ると考えた、北ベトナムの高官は私にこういった。「今や戦争を終らせる機械が動き出した。」と。ベトナムへ平和を（ ）もたらす車輪がころがり出したのである。しかし、今日、ベトナムに平和はきていない。その

反対に戦争は拡大してきている。

さらにラオスに対する爆撃は南ベトナムに、匹敵するほど、強化されてきている。米空軍は、シアヌーク殿下の抗議にもかかわらず、カンボジア領内で戦闘をつづけている。さらに偶発的だといってタイ北部を爆撃している。一方、ベトナム化の結果、アメリカの南ベトナムにおける戦闘部隊の損害は、実際上へっつきている。反面、サイゴン政権の軍隊の損害は増大してきている。つまり、ベトナム兵士たちが余計殺されれば殺されるほど、彼らが自由を守るといふ戦闘精神を示しているとうけとっているのだ。だが、サイゴンにいるアメリカの軍人たちは、解放戦線および北ベトナムが、サイゴン政権の軍隊を壊滅させる戦闘能力を

もっていることをしている。

そのことは、アメリカ軍の撤退を遅らせるし、サイゴン政権の軍隊が単独では、戦えないことを意味し、もっと多くの新しい血が流れることをしている。

二、ベトナムミゼーションの意味

アメリカの支配者は、南ベトナムにおける戦いに勝利するという彼らの望みを決してあきらめてはいないのだ。彼らは、南ベトナムにおける敗戦が東南アジア、さらには、世界におけるアメリカの力とその影響を減じて革命勢力を勇気づけると考えている。彼らは、熱烈にドミノ理論を信じてきたし、信じつづけているのだ。しかしベトナムにおける陸上戦闘の

敗戦は、その戦術転換を余儀なくされた。また、この戦術転換の理由の一つには、戦争の高価さがある。アメリカの支配者たちは、この事実からアメリカがすべてを力をもっていないことをさとおり、いまや他の力をたのみとすることに気づいた。

彼らは、南ベトナムにおけるアメリカの陸上部隊の十パーセントだけが実際上戦闘にくわわっていることをしているし、脱走兵や戦闘拒否者の数がアメリカの歴史にかつてない数に達していることをしている。また、アメリカ国内では徴兵反対の勢力が強く、ニクソン政権は、徴兵制度よりも志願兵制度を拡大しようと考えているようになっている。しかし、陸上部隊への信頼を失うにしがたい、空

軍部隊の徹底的破壊力をますます頼りにしてきている。たとえば、あるアメリカの將軍は、敵に与えた損害の八十パーセントまでが空軍力によるものだとはこらしげに語っている。そこでアメリカは、

新しい戦術を考えたのだ。アメリカが空軍力をうけもって敵の攻撃力をおおはばにへらせば、これに対抗できる。陸上は現地軍、空はアメリカ軍という分担こそベトナムゼーションベトナム化政策である。これは、一見すばらしいやり方に見える。つまりアメリカの損害はへり、本国にいるアメリカ人たちは、喜ぶ。また、経済も今よりは、らくになる。サイゴン、バンコック、ソウルのカライ政権は、すでに喜んでこの政策に加担している。彼らの権力は、アメリカのドルと武器に依存しており、このドルと武器をもらうかぎり、その加担をやめないであろう。

しかしアメリカは、他の援助も必要としている。もっと金持ちの国からの援助をさがしとめている。たとえば、アジアにおいてはもっとも金持ちの国、日本である。ワシントンの目は、東京に釘付けにされている。昨秋、佐藤首相がワシントンでニクソン大統領と会談したとき彼らがこのことを話したにちがいない。佐藤氏はオキナワの本土返還を要求し、ニクソン氏はお金持ちの佐藤氏にオキナワ返還の代価を払うように要求した。この代価が何であったかは、最近の

日本の国家予算が答えている。アメリカが国防費を減額したのに対し、佐藤氏は今度の予算で防衛費をおおはばに増大させている。

朝日新聞は、予算の軍事化が懸念される、自衛隊の役割が陽をあびるであろう、と警告している。事実、産軍複合体が日本にも復活し、日本の東南アジアに対する進出が拡大し、対外援助費もおおはばにふえてきている。これもまた、ベトナム化政策の一端にはかならない。アメリカの新しい考え方によれば、南ベトナムをはじめ韓国、タイ、フィリピン等は、兵隊の位でいえば二等兵の役割をはたし、アメリカは指揮者として將軍の位を維持する。そして日本は、尉官および佐官の位をはたすように期待している。佐藤氏がこれに合意しこの政策に加担しようとしていることは、火を見るよりあきらかである。

三、アメリカの反戦運動はどうなっているか

さて、ここでアメリカにおける反戦運動についてふれてみよう。一九六九年一月一日、百万にちかいといわれる大集団がワシントンの反戦デモに参加した。三カ月後の今、反戦運動は下火になったように見える。これは、ニクソン氏のいう、声なき多数派、が勝利をしめたということなのだろうか？ しかしい

たい、声なき多数派、とは、誰たちなのか誰も知らない。世論調査のときだけ数のうえで勘定されているだけだ。ワシントンの反戦デモに参加した人々をはじめ、声ある少数派、は、反戦の運動をやめてしまったわけではない。彼らは小集会を開き、小さいデモを行ない、小さな共同社会で労働者に、教師に、家庭の主婦たちに話しかけている。科学者や技術者、軍拡競争に反対する運動を組織しており、高校や大学の学生たちは、アングラの反戦紙を発行している。黒人たちも差別撤廃に力をそいでいる。ニクソン氏およびその仲間たちが、声なき多数派、とよぶ連中がテレビを見ている一方、声ある少数派、つまり、私たちは少なくとも行動している。そしてその行動は私たちの日常生活に深くくいこんでいる。

その理由はかんたんだ。ミリタリズムとファシズムは日まじしに育成され、右翼の軍国主義者たちは、ワシントンを牛耳っている。アメリカの多くの都市では、警察力が政治力となり、貧民区域はまるで警察の占領下同様である。アメリカの右翼はじっさいには、声なき少数派、であるが、声なき多数派、とはちがってきわめて行動的であり、権力を握るための努力をつづけている。あたかも一九三〇年代初期のドイツにおけるヒトラーのやり方に類似しているといえるだろう。一方、ニクソン氏およびその仲間の

支配者は、ファシストでもなければミリタリストでもないかもしれない。彼らは、自動機械の操縦者であり政治や戦争のチェスの盤面で冷静にその駒を動かしている。彼らは、アメリカにある平衡状態をうみだせるものと考え、軟らかいタッチのPR作戦でアメリカ人の恐れをなくすようにつとめている。したがってファシストやミリタリストは、ニクソン氏一派が失敗することを望んでおり、ベトナム戦争の終結など信じてはいない。

数年前よりも今日の状況は、平和よりとっさかっているし、危機がせまっている。数年前の最大の危機はベトナムだけであり他の世界は、基本的に安定していた。しかし、今日世界の多くの地域で危機は増大している。ベトナム戦争が拡大する一方、軍拡競争が再開され、資本主義諸国のインフレは高進し、経済破綻がせまってきた。私たちは、まずこれらのファシストやミリタリストたちが権力を握らないようにしなければならぬし、同時にニクソン氏や佐藤氏が自分勝手にチェスの盤上で生命ある駒を動かさないよう努力しなければならない。

四、ベトナム戦争はアメリカと同様日本の問題なのだ

アメリカ人にしても日本人にしても、私たちの敵は共通しているはずだ。たとえばオキナワと安保の問題は、日本の問

題であると同時にアメリカの問題である。またベトナム戦争は、アメリカの問題であると同時に日本の問題である。ファシストとミリタリストは、私たちにあって共通の敵であるにちがいない。日本のある人びとは独立した日本の軍事力を夢みているかもしれない。しかし実際は、アメリカの帝国主義の手先でしかありえない。もし、アメリカがファシストの手におれば日本もその中におちいるより他に道はないだろう。ということ

は、もし日本におけるファシズムやミリタリズムの勢力が増大すれば、アメリカのファシストやミリタリストは力づけられ、帝国主義は国をこえてひろがるだろう。しかし、もしペンタゴン（アメリカ国防省）がベトナム人との戦いに絶対に勝てないことを認識し、外国からのいっさいの援助が得られないと認識し、また、アメリカの国民が外国での戦争に加担することを拒否していることを認識すれば、ベトナム戦争は、終結せざるを得ないだろう。

一九六〇年、アイゼンハワー大統領は、日本の「声ある多数派」の怒りの声によって訪日を断念した。もしあの時、アイク訪日反対、安保反対の大デモがなければ、池田氏や佐藤氏は日本の「声なき多数派」が支持しているといつて、もっとベトナム戦争に深入りしていたといえるだろう。

反戦運動は、アメリカと日本において

健在だが一九七〇年のこんにち、困難な時期にさしかかっている。ベトナム戦争は拡大し、核武装や軍備は拡大し、軍事予算は増進している。ニクソン氏という生活の質の向上どころか、へたをすれば韓国のように警察と軍隊によって支配される独裁国になる恐れは十分にある。私たちの戦いの目標は共通しているし、行動も共同しなければならぬ。

五、日米両国反戦の連帯を

前にものべたようにアメリカでも日本でも反戦運動はきわめて積極的であり、たとえば日本においては「ベ平連」が行動し、その他の市民や労働者のいろいろな団体が行動している。その戦術や目標はマチマチであるが、最終的な目的は多分に共通している。アメリカでは日本よりも、もっと分散しているが、同時にもっとローカル化している。もし、時期がくればこの間のモラトリウムやモビライゼーションの時のように何十万という多くの人びとを動員できる力をもっている。したがってローカル化し、分散化した反戦運動は弱化したとはいえないし、むしろ強くなっているといえるかもしれない。

ローカル化したことは、イデオロギーのちがいをこえ、さらに多くの人びとに階級の相違や環境のちがいをのりこえるような運動にかえていくことを可能にしているといえる。少なくともアメリカに

おける反戦運動は、成長してきている。徴兵拒否の運動をはじめ、軍内部の反戦活動、軍拡阻止への科学者たちの戦いなど、アメリカ国民への直接のよびかけが行われている。その反面、アメリカ国民の直接の関心事でない場合、反響は必ずしも大きくない。たとえば、オキナワ問題や安保問題はそれほど大きくとりあげられてはいない。

しかし、今や一九七〇年は、アメリカにとって日本を再認識する意味で重要な年である。たとえばこの三月から開かれる大阪の万博には何十万というアメリカ人が訪れるであろう。すでにアメリカ各地で日本の大企業は大規模なプロパガンダを行なっている。また、それらの企業の商品はアメリカのいたるところで売られている。そうでなくても多くのアメリカ人は仕事で、あるいは休暇に日本にやってくる。なぜ、私たちはこうした機会をつかんでアメリカ人に日本の反戦運動の存在をしらせることができないのだろうか。日本の基地にいるアメリカ人に直接によびかけて反戦グループの存在を知らすことができないだろうか？ また、アメリカにおける反戦グループによびかけて安保やオキナワ問題に対する特別委員会の設置をすすめるのだろうか？ あるいは、アメリカの反戦活動をしているリーダーたちを夏休みに日本によぶべないのだろうか？ もっと直接的に大阪の万博会場付近に反戦運動の存在をしらす

ような基地をつくれなのだろうか？ 万博の奇妙な展示では語れない事実をしらせることができないのだろうか？ 大阪にやって来る外国人に外国語でベトナム問題、オキナワ問題、安保問題は語れないものだろうか？ そしてアメリカと日本で反戦運動の連帯をはかるように努力できないのだろうか？

現在ほど、アメリカの日本への関心が増しているときはない。時さえまちがえなければこうした行動は可能はずだ。私たち、アメリカ人の日本をみる目はかわってきている。昔、東条と憲兵の国と思われた日本は、ソニーとトヨタの国となり低賃金は金持ちの国とかわった。私たちは日本人の勤勉さと努力を高く評価するようになった。もしアメリカ人が日本の反戦運動の強さに気がつければアメリカにおける反戦運動も強くなるだろう。極東におけるパートナー日本があるだけでなく、日本の反戦運動というパートナーがあることをアメリカ人がしるであろう。今やアメリカの反戦運動と日本の反戦運動は、共通した目的に展開している。アンボ、フンサイ、という言葉は世界のいずれにおいても、ファシズムとミリタリズム反対、という叫びにむすびついているのだ。ニッポンと米国の反戦運動を共同させなければならぬという理由は正にここにある。（七〇・二・七福岡にて訳・編集部）

出入国管理法の本質はなにか

小野誠之

法案提出の背景

昨年の国会で審議未了のまま廃案となった出入国管理法が今年の国会でふたたび審議されることになったと新聞が報じている。その立法趣旨は「1、現行出入国管理令は昭和二十六年十月まだ占領下にある時、いわゆるポツダム政令として制定され、平和条約発効後も法律としての効力を有しているが、このような措置を長期間続けていることは、国際的にも国内的にも好ましいことではない。そこで、ここに装いを新たにして出入国管理の立法化を国会に求めることとされた。2、現行令制定後十七年を経過する間に、出入国者が飛躍的に増加し、またこれに伴い時には好ましからざる外国人の入国する事例の存することもある。そこで、現行制度を全面的に改善して、出入国手続を簡素化するとともに在留管理の合理化を図り、現行の国際的要請及び我国情に応じた出入国管理制度を確立する必要があるとされた。」

（法務省入国管理局参事官長已恒夫 出入国管理法案について）

というのが政府の説明である。法律の真の狙いを一番よく知っているのはいつの時代にも支配者である。法律による支配を受

ける国民はその真の狙いを知らされず欺されてしまうものだ。この法案が国会における多数決により正当化され、法として具体的に私たちを拘束する前に、真の狙いを知り、叩きつぶすことが、私たち憲法を実現擁護し平和を築くものの義務である。

出入国管理令はいうまでもなく外国人および日本人の出入国を管理する行政の基本法である。しかしながら私たちはこの法律を見るとき、たんに出入国という手続を管理するものではなく、じつは外国人および日本人を、人間を管理するものであるということに気づくであろう。「外国人の出入国管理の本質は、自国領域内に外国人を入国又は在留させることから受ける利害得失を勘案し、国家社会に不利益となる外国人はこれを排斥するとともに、利益をもたらす外国人の入国はこれを助長する目的とともに、外国人個々につき自国に対する価値を検討して、その入国又は在留の可否を決定する行政処分である。」（外国人の出入国管理に関する各国の法制について）

簡単に言えば法律を作るもの、それを執行するものにとつて、その外国人が有害であるか否かによって外国人の入国の可否を決定し、あるいはその在留

を制限するというのがこの法律の本来の趣旨なのである。けっして外国人の人権を認め、国家に対して人権侵害をさせないために国家を制約する方向での法律ではないのである。「外国人は煮て食おうと焼いて食おうと自由である。」と法務省出入国管理局参事官池上努が言ったのはあまりに正直である。

政府の恣意が人権侵害へ

法律はすべて憲法に基づくといわれる。しかし同じ法律の中にもいろいろのものがあろう。道路交通法は交通秩序の安全と円滑を目的とし、車両どうし、あるいは車と人との相互のルールを定めるものである。この法律は運転者が歩行者が誰であるかによって区別はしない。金持ちも貧乏人も、公務員も民間人を等しく互いに共通のルールによって縛られる。ところで刑法にある公務執行妨害罪はどうか。ここには公務という国家的立場にある人とそうでない立場とに明瞭に差別がある。一般国民に対して暴力を加えれば暴行罪は成立するが公務執行妨害罪は成立しない。公務員に対して暴力を加えれば暴行罪のほかに公務執行妨害罪が成立する。そこには国家と個人との対立があり、道路交通法と同じようには考え

られない。国家的利益と個人とはその立場を相互に交換できないからである。

しかし公務執行妨害罪は、その成立要件を明瞭に示すことによりかつまた裁判所という立法・行政機関とは対立した司法機関の認定手続を経るということで、国家の刑罰権行使に対し人民が制約を課しているということとは出来るだろう。出入国管理令は国家と外国という交換しがたい国の法律であり、しかも国家の自由専断が許されている法律である。ここにつねに政府の恣意が法の名のもとにまかり通り、人権侵害が行なわれ、いわば私たちの憲法の基本権条項に抵触する本質を内蔵している。日米安保体制の強化、海外への経済進出という政府の基本的流れの中に外国人の管理がなされ、数多くの人権侵害が法律とその運用の中に現に見られる。のみならず外国人の管理を通して基本的政策を助長するということを看過してはならない。出入国管理法はその延長線にありさらに外国人と接触を持つ日本人に対しても管理規制を強化する治安立法性をそなえている。以下その内容を概観してみよう。

現在日本に在留し外国人登録をしている外国人の人員は昭和

現在の出入国管理令が作られた昭和二十六年とは、いうまでもなくアメリカの占領下にあり朝鮮戦争の真最中である。ここに入管令の性格が、中国、朝鮮民主主義人民共和国等の社会主義諸国を敵視し、韓国を始めとするアジア反共植民地支配を打ちたてようとするアメリカの利益、占領目的にそったものとして作られたことは明らかなことである。戦後の出入国管理体制は占領軍総司令部の指令に基づいたものであるが、昭和二十五年九月

反憲法的規定に目を
むけよう

出入国管理令第二四条は強制退去事由を詳細に規定するが、不法入国者、不法残留者、在留資格外活動者、らい患者、精神病で収容されているもの、生活保護者、一年以上の刑に処せられたもの、売淫に関する業務関係者等のほかに、「日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを企て、若しくは主張し、又は主張する政党

その他の団体を結成し、若しくはこれに加入している者(二)左に掲げる政党その他の団体を結成し、若しくはこれに加入し、又はこれと密接な關係を有するもの(三)公務員であるという理由に因り、公務員に暴行を加え、又は公務員を殺傷することを勧奨する政党その他の団体(四)公共の施設を不法に損傷し、又は破壊することを勧奨する政党その他の団体(五)工場事業所における安全保持の施設の正常な維持又は運行を停廢し、又は妨げるような爭議行為を勧奨する政党その他の団体(六)に規定する政党その他の団体の目的を達成するため、印刷物、映画その他の文書圖書を作成し、頒布し、又は展示した者」をすべて退去強制該当者として掲げている。

入管にある仮放免制度、強制退去手続の諸々に他に類例を見ない反憲法的な規定がある。中でも令条第六十六条には強制退去事由の該当者を通報したものに對しては五万円以下の金額を報償金として交付することができむねの規定があり、これはまさにスパイ奨励のための規定である。このような内容を持つ入管令は外国人登録法と表裏一体をなし、在日朝鮮人に對する管理として無權利狀態に落しめてきたことはたしかなことであらう。

う。入管行政がこのような法令の下に治安機関として機能してきたことは最近新聞で報道された東京高等裁判所の裁判官をして(昭和四四年二月一日第二民事部決定)「いわゆる不法入国、不法滞留にも人によって事情が異なり、退去の即時強制によって人の被る損害にもいろいろある。これらいろいろの事情を無視し、たんに法定の手続、条件に違反していることの一事をもつて、機械的にすべての不法入国者、不法滞留者を即時に強制退去せしめようとするのは、本来、人の福祉に奉仕することを目的とする行政の態度ではない。およそ法にも涙があろう。いわずや法の枠内において自由裁量により、ことの可否を判定することを主眼とする行政には涙があつてよいのではあるまいか……」と言わしめたことに端的に示されている。

世論を恐れて削除は
したが

現行の出入国管理令とそれにもとづく入管行政を理解するとき、すでに本件にふたたび国会へ上程される出入国管理法が政府の趣旨説明とは、およそかけはなれた機能を發揮することは多言を要しないと思われる。法案を貫く二つの基調の一つ

は、新たに日本に来る外国人にさまざまな条件を付し、とくに社会主義国との自由な交流を規制制限することであり、その二つは外国人の在留活動の規制を強化し、「好ましからざる」人物の退去強制を徹底していくことである。

現行出入国管理令になかった二、三の制度を取ってみよう。法第八条には遵守事項の規定が新設された。現行令でも外国人はその来日目的にそつて在留資格が定められており、その在留資格外の活動を専ら行っているものについては退去強制事由とされているが、さらに法案では在留資格のほか法務大臣が適当と認める条件を付すことができ、在留するについて言動規制が自由になれることとなった。条件に違反したものに對しては行爲命令、中止命令が出され、これに従わないものは刑事処罰を受けるほか、退去強制の對象となる。「外国人の在留管理を合理化する規定」(前出、辰巳參事官)として説明するが、法務大臣が付する適当な条件とは「わが国の利益に反するおそれのある活動の禁止制限、一定の事項についての届出義務」(前出、辰巳參事官)を主眼にしていることは明らかである。

調査権なるものを新設した。出入国管理に関する法務大臣、主任審査官の権限を行使するにつき事実調査が必要と自ら認めるべき出入国審査官或は入国警備官は「関係人」に対し質問権、文書物件の呈示権を持つことになる。昨年の国会審議中に世論を怖れてか削除はしたが、この調査に対して陳述しないこと、または虚偽の陳述をすること、文書物件の呈示をしないことはいずれも犯罪になり三万円以下の罰金刑さえ課されることになっていた。これほど明瞭に憲法無視の法案を国民の前に出した例は他に見当たらない。「関係人」とは外国人のみならず日本人と交際を持つすべての日本人がそれにあたることとなる。

日本の反戦平和運動はアジア諸国を初めとして広く世界の人民との連帯なくして推進できない。反戦平和運動を支えるものはすべて「関係人」として調査を受けない保障はどこにもない。法案が現行入管令の装いを新たににして、直接人民に挑戦しはじめたというのは過言であろうか。まして黙秘することも許さないという規定はまさに憲法の基本的人権を否定しきつていくものにはかならない。法案第六章は退去強制の手続を規定しているが、違反調査に対する行政手続

上の異議の機会を従来の三段階から二段階までに簡略化し、退去命令発布の手続と法務大臣による特別在留許可の手続をきり離した違反事実があれば即時退去命令が出て、その間に從來あった法務大臣の裁量の機会はなくなった。いったん退去命令が出てからべつに出願という手続で法務大臣に特別在留許可を願ひ出ることになる。

法務省入国管理局辰巳参事官は「人道主義の見地から、法務大臣に対する特別許可の出願を認めることとしたが、特別許可の制度をおく国にあっても、当該外国人にその出願を認めてい

る例は極めて稀である。」(前出外人参事)と賛美する。およそ三権分立をとる近代憲法は人権保障を实效あらしめるために行政権の行使に対し司法的救済の途を人民に与えている。司法的救済の手続がないところに人道主義の理想は紙屑に等しい。人権保障の歴史はその手続の歴史であるといわれる由縁である。

法案が退去命令と出願手続という二つに分離したことは、現在あまた行なわれている非人道的退去強制の執行に対する行政訴訟を不可能にするものである。法案はいっさいの行政訴訟を不可能にすることを企図した

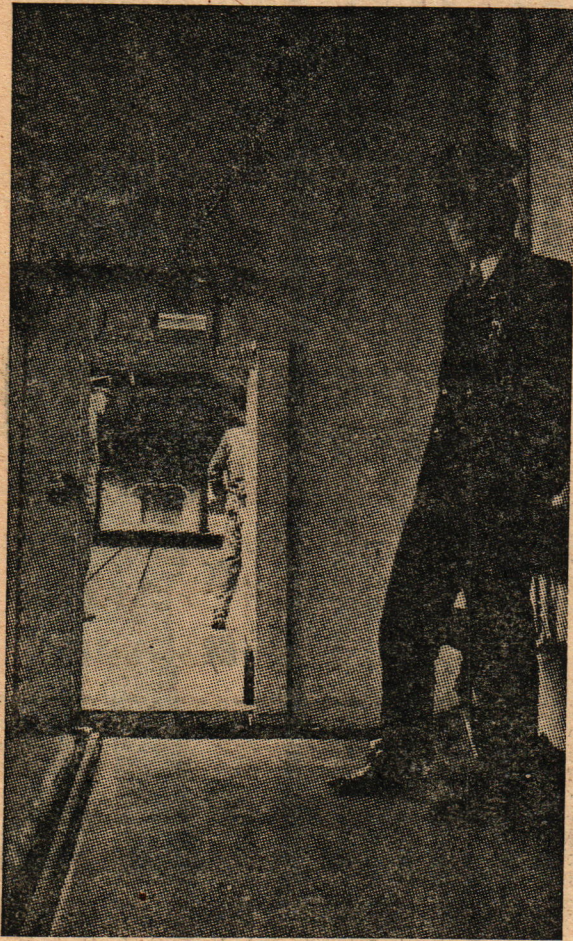
ものと言われても仕方あるまい。「行政訴訟を提起した外国人で、本件に付随してその退去処分執行停止をあわせて請求するものが多く、これに対し、裁判所が比較的にたやすく執行停止をあたえる傾向があり、ために退去強制の執行が訴訟の確定まで停止の状態に陥り、訴訟の遅延と相まって、かなりの長年月にわたり、その外国人の在留を事実上認めざるを得ない事態となるのを免れない。」(法務省入国管理局 出入国管理とその実態)と嘆く巻返しとも受取れる。

以上のほかに仮放免制度の廃止、面会禁止条項、本人の意思

を無視した送還先についての規定等々枚挙できないほどの改悪条項が法案には含まれている。短期滞在者、一時上陸者等の入国手続の簡素化という未少部分を除いたところに出入国管理令を全面にわたり出入国管理法として装い新たにし、在留管理令の合理化を図った真の意図があることを見抜かねばならないであろう。

日米安保条約に基づく行政協定により、米軍関係者は一切出入国管理令の適用を受けない。何故ならば日本国にとって「好ましい」外国人とされているからである。在日朝鮮人でも韓国に忠誠を誓い韓国籍を取得したものは日韓条約に基きできた出入国管理特別法により協定永住権を取得でき、退去事由は緩和される。これも「好ましい」外国人だからであろう。これ以外は「好ましくない」外国人として出入国管理令の対象となる。法案は安保体制の強化の国内治安立法としての性格を如実に示すものと言えよう。

法案はまさしく私たちの日本国憲法の下に、私たちが選挙した国会により、日本人の名で作られようとしている。「他民族を抑圧するものは自らも解放されない」という真理を新たに認識しなくてはならない。

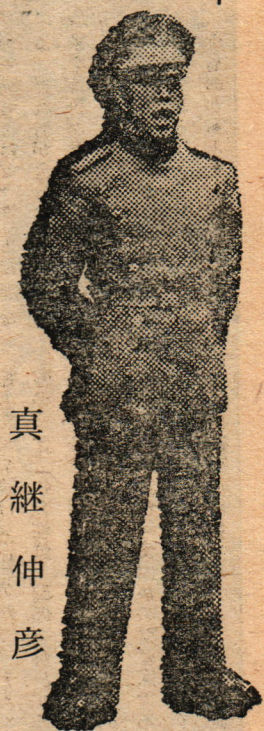


刑務所よりもいかめしい大村収容所入口

三島由紀夫

批判

そのⅦ



真継伸彦

「天皇は、われわれの歴史的連続性・文化的統一性・民族的同一性の、他にかげがえのない唯一の象徴だからである」三島由紀夫氏の「反革命宣言」なるものの内容を紹介しつつ問題点を列挙している今は、右の主張こそ氏の防衛論の骨子であることを、もう一度念を押しておいて、さきに進もう。私はもちろん氏の日本文化論にたいしては、私自身が日本文化論を対決させて、氏の天皇論にたいしては、私自身の天皇論を対決させ、デタラメきわる相手の論旨を、正面から批判するつもりである。挙げ足ばかりをとる気は毛頭ないのだが、ただし、後述するように、私と氏の視点は、文字どおり月とスッポンほどに異なるのである。これまでにも若干ふれてきたことだが、私は仏教という世界文化的な視野に日本文化を置いて観察している。三島氏はそれにたいし、日本文化という辺境文化を、しかもそのうちの神道文化のみを強調して、それを防衛しようとする。私はインドにはじまった仏教や、中国にはじまっ

た儒教や、老荘思想ないし道教と、我国本来の神道との複合体としての日本文化を、そのままに見ようとする。三島氏はそのうちのごく一部に偏執し、盲愛する。私は客観主義的であり、相手は主観主義者であり、それも狭隘きわる主観主義者、井戸の中の蛙なのである。私は鏡のように相手の蛙の面を映したい。どんな井戸のなかで、ギャロギャロわめいているのかを、ありのままに示したいのだが今はそのために、相手のわめき声をまず披露している次第なのである。

さて、三島氏は「反革命宣言」の四において、氏が共産主義に反対する理由として、天皇制否定のほかにもうひとつ、言論の自由の否定ということをおける。私と氏の、共産主義にたいする見方は大いに異なるのだが、しかし、現実の共産主義社会ないし社会主義社会に、言論の自由が存在しないという、一般的認識、および、言論の自由にたいする要求は、当然のことながら共有する。ただし、言論の自由の要求の内容は、やはり大いに

異なるのである。

「われわれは天皇の真姿を開題するために、現代日本の代議制民主主義がその長所とする言論の自由をよしとするものである。なぜなら、言論の自由によって最大限に容認される日本文化の全体性と文化概念としての天皇制との接点にこそ日本の発見すべき新しく又古い「国体」が現われるのであらうからである」

というのが、三島氏の言論の自由要求の内容であるが、冒頭の文章に注意されたい。天皇主義者である氏は、天皇主義のために言論の自由を要求する。すなわち、絶対主義者である氏は、自己の絶対主義的な信条の開陳と、その実現のために、言論の自由を要求している。

「もちろん言論の自由は絶対的価値ではなく、それ自体が時には文化を腐敗させることは現下の日本に見るとおりであり、ともすると言論の自由の文化の創造的伝統的性格とヒエラルヒーを失わせ、文化の全体性の平面のみを支持して、全体性の立体性を失わせる欠点であるけれ

ども、相対的にはこれ以上よいものは見当たらず、これ以上、相手方に対する思想的寛容という精神的優越性を保たせるものはない」

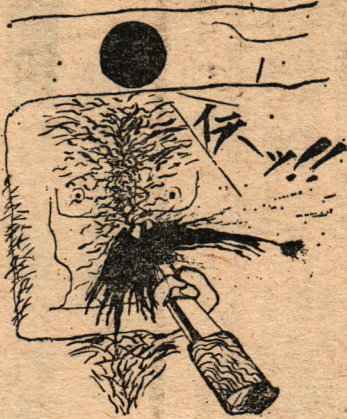
と、三島氏は主論文「文化防衛論」のなかでもくりかえすのだが、今度は最後の文章に注意していただきたい。いかにもエリート意識にかたまつた絶対主義者らしい台詞ではないか。この蛙はおれがどんなに偉いかをみせびらかしたいために言論の自由が必要だと言っているのである。このような言論の自由要求論を、まあ一度、氏の共産主義と対比して検討いたしたい。

「言論の自由を保障する政体として、現在、われわれは複数政党制による議会主義的民主主義より以上のものを持っていない。この「妥協」を旨とする純技術的政治制度は、理想主義と指導者を欠く欠点を有するが、言論の自由を守るには最適であり、これのみが、言論統制、秘密警察、強制収容所を必然的に随伴する全体主義に對抗しうるからである。従って、第二に、われわれは、言論の自由を守るために共産主義に反対する。

われわれは日本共産党の民族主義的仮面、すなわち、日本の方式による世界最初の、言論自由を保障する人間主義的社会主義という幻影を破碎するであらう。この政治体制上の実験は、(もしそれが言葉どおりに行なわれるとしても)、成功すれば忽ち一党独裁の怖るべき本質を

あらわすことは明らかなからである」

私はキューバなどごく少数の例外をのぞき、現存する代表的な社会主義国家がナチス、ドイツと同様に「言論統制、秘密警察、強制収容所を必然的に随伴」した全体主義国家であることを認める。なぜ、もともと人間の全体的な解放をめざす共産主義の理念が、現実には人間を全体的に抑圧する国家しか生みだせないのか、というのは、私にとっても、最も切実な問の一つである。私はスターリニズムに至らぬ社会主義への道を、ずっと考へつづけているのだが、共産主義が全体主義に至ってしまう根本の原因は、実は三島氏の天皇主義と同様の絶対主義、すなわち、ある思想なり政策のみが、絶対



に正しいとする硬直した信条にある。

ところが、絶対に正しい思想なり政策はもともとありえない。政治とはたえず試行錯誤でしかなく、それも、殺人をとまぬ試行錯誤であるということがおそろしいのである。硬直した絶対主義が政治という実現過程にはいれば、かならず排他的な全体主義の形をとり、対立者を抑圧し抹殺せざるにいられない。

私の共産主義にたいする疑義は、その思想の絶対主義性にかかわる。とすれば、私の見地からみれば天皇主義者も一つ穴のムジナである。三島氏の天皇主義も、それが絶対主義的であるかぎりには全体主義にいたらざるをえない。三島氏が日本共産党を批判するときは、偽善者が偽善者にたいし、テメエは偽善者だとののしっているのと同じである。氏の言論の自由尊重論は、日本共産党の自由尊重論（ただし氏のレンズを通しているところの）と同様に欺瞞的なのである。

相対主義者である私の言論の自由への要求の根拠は、彼ら絶対主義者とはゼツタイに異なる。だれもが自分の意見なり要求を言語が表現し主張する権利があるという、ただそれだけの、最も一般的かつ原初的根拠なのである。と同時に、人というものがもともと相対的な思想

しかもちえないと確信する私は、だれの意見をも、批判をも、謙虚に聞き、討論したのである。私はまるで当り前のことを言っている。わざわざ書くのも恥かしうらいだ。しかし、当り前の要求が抑圧されようとしているときは、当り前のことを書きつづけるべきだろう。

そういえば、つい先日、沖縄の全軍労支援のための資金カンパというあたりまえの行為が、知識人の主唱によって有楽町で行なわれたとき、三島氏の大好きな右翼の手によって、またまた妨害された。あなたはこの行為をどう評価するのですか。あなたがどういう評価をしようと、その評価を言語表現だけではなく、実践でもって示すことを私は要求する。あなた自身が、自分の思想を実践でもって、すなわち、人斬り包丁をふりまわして示すと誓っているのだから。

三島氏はこの「反革命宣言」の補註において、原爆問題や在日朝鮮人問題に言及している。それは、こういう問題を政治的に利用する、日本共産党その他の左翼を批判するという形で、刺身のツマ的に言及されているのだが、私は、こういう類の文章を読むと吐がたつ。テメエが原爆問題、在日朝鮮人問題を解決するために、今まで何をしてきたのかと言いたくなる。私は三島氏自身が、どこかの雑誌で、自分が何億円かの財産家であると誇示した文章を読んだり、バタクサイその豪邸の写真をみたことはあるが、

氏が、たとえば原爆被災者救援等の、博愛的な事業に献身したという話は、聞いたことがない。自分が何もしないで、他人のアラばかりをあばきたてるのは、卑しい人間のすることである。

三島氏が、私たち平連の反戦運動の一つである、脱走兵援助に協力したという話も、聞いたことがない。氏は何もしないで、「日本の非暴力主義には、抵抗の思想は稀薄であり、エゴイズムのみが先行している」などと、けがらわしい中傷を浴びせかけるのだ。馬鹿野郎。右翼の脅迫にもめげずに、街頭資金カンパを行なうことが、エゴイズムだけでできるのか。脱走兵をかくまうのは、並大抵の苦勞ではない。ここで詳細を語りたくないが、言葉も、生活情況も異なる人間を、一つ所にかくまうて生活させ、激励しつづける仕事は、どれだけ忍耐づよい献身を必要とするか、常識ある人には、すぐに判らう。それが、非暴力的反戦運動の実践なのだ。それを実践している人びとの多くは、ごく貧しい市民や学生なのである。エゴイズムがあればできるものではない。テメエは何もしないで、売文でかせいで贅沢に生活し、「日本の非暴力主義者はエゴイストだ」などと、佐藤栄作そのけのデマゴークを飛ばしている。そういうケガラワしい男が、右翼の新オピニオンリーダーとして、今、国家主義的風潮の再興に便乗して、顔売りをまくっているのである。（つづく）

アンボ 入学

封じこめられるか 侵入するか

なぜなんのためにどのようなにして、きみは学生になりこれからどうしてゆくかの自問・他問を断つまい……

一昨年の九月三〇日、神田で逮捕された日大生一四人の第一回統一公判が、二月一八日、東京地裁であった。

検事は起訴理由として、兇器準備集合と大学校舎侵入の共同謀議をあげ、侵入する目的で兇器（火焰ビン、コンクリート塊、棒など）を用意して多数の学生が集って神田路上を走ったがゆえに、池田某以下一六人の警視庁機動隊員が一、二週間の負傷を受けたと述べた。

ところが、弁護人側から、機動隊はいったい何の目的で、いつどこに出動したのかその「特定」をたずねられ、ほとんど答えられない。

また、学生が、いつどこで何の目的で警官に傷を負わせたかの理由の「特定」も返答できないのであった。

ようするに当日、三〇〇人以上の機動隊員は、朝から何も起

を打ったのは、冒頭の人定尋問のさい、現住所はという質問に対し多くの学生が拘留所の所番地をいい、現在きみは日大生です、という念押しに対し、何人かが、革命家ですと答えたことである。

もちろん学生はユーモラスな決意をこめ答えたのだが、はい、日大生ですという返答と、革命家ですという返事とが、少しも矛盾せずに延内に響き、日大生「革命家」という総体的人間がそこにあつてきわめて論理的に裁判そのものを告発し、釈放後の大学における闘いを宣言していた。

被告団長、田村正敏（日大全共闘書記長）は、「傍聴人は一人でも多く明日から三里塚へ行ってください」と後向きのまま叫んで護送警官の人垣のなかへ消えた。

さて、今年も何十万もの大学生が誕生する。

いくつかの国立大学は、入試方法の改革案を示し、カリキュラムをいくらか改革した。

だが、「あれだけ学生が騒いだのだから少しは何かが改革されねば」というのが多くの教授会の意向だ。

「騒動」部分の改革「正常化」の繰り返し、この力学を大学内に封じ込めていけば現体制はな

かば永久に安泰である。

彼らは「何とか切り抜けよう」としている。いっさいの拘留所内学生は彼らの視野外にある。

裁判のルールは大学の制度手なおしとともに、殺された学生の屍を越えて進む。

アンボ 就職

新入社員にも チャンスはある

せっかく会社が「集中教育」という形で用意してくれたオルグのチャンスを見逃すのはもったいない次第だ

スタートは試用期間に年度がわりの四月が近づいてきた。

そこで「新入社員造反法」。

まず条件として、教育期間は「試用期間」で、労組員の資格もない、ということがある。だから、会社としては、容易にクビ切りができるわけだ。その実例も決して少なくはないのである。

しかし、そうだからといって日和っていたのでは「造反派」の名が泣くというものだし、

七〇年春、すでに大学生となつた青年は、なぜなんのためにどのようにして学生になり、これからどうしてゆくのか、この自問と他問が断たれたるなら、検事たちはぬくぬくと起訴理由を読み上げ続けるであろう。

（市民A）

実際的にいっても。せっかく会社が「集中教育」という形で用意してくれたオルグのチャンスを、見逃してしまうことになる。もったいない次第だ。

そこで、提案を二つ、三つ出しておこう。まず、新入社員教育「合宿のときに、労組とコネをつけ、できれば労組幹部に「闘争史」でも特別講義をさせること（既成労組など信用できない、と反論する人もあるだろうが、まずは向うの話を聞いてみようじゃないか）。

次に、同期の新入社員で、大

学卒も、高卒も、中卒もひっくり返して、親睦会を組織しよう。少なくともそこでは、何をしゃべっても会社側に洩れないような集りとして、である。そうした集りがつくれれば、後に労組革新でもぶち上げるとき、有力な拠点となるに違いない。

ミドル層を分解せよ

新入社員教育の終りころ、感想文を書かせたり、パーティであいさつをさせたりする会社が多い。これには注意深く対処したい。あいさつでも、テープに録音をとっておくところが多いからだ。気楽に「頑張ります」などと妥協的なタチエでしゃべるのも、後で困るし、張切りすぎて、聞き手の状況も知らずに反戦演説をぶつのも得策でない。

具体的な行動開始は、教育が終了して、現場に配属されてからだ。ネーは、まずスタッフ（人事課・社長室など）とライン（生産・営業などの現場）との矛盾である。求人募集から教育期間を通じて、スタッフはきみたちに甘い約束をバラまいていたことだろうが、ラインに入ると、とてもその通りにはいかない。そのとき、「約束がちがう」という攻撃を、ラインに向けてのではなく、スタッフのほうに

向けるのがたいせつである。

勤務内容についてであれ、残業についてであれ、約束と違うからといって、ラインのなかでだけケンカするのは、「造反」としてもモノが小さいのだ。もう一步すすめて、ラインとスタッフの矛盾を拡大し、深刻化す

アンボ 結婚

努力して、式をやめる方法

いますぐできること

七〇年に結婚しようとしている人、思いきって結婚式をやめませんか。

お金が無駄です。一〇万円にしろ、五〇万円にしろ、たった二時間の披露宴のために使ってしまうのは、もったいないはなしです。「結婚式、やらないわけにいかないだろ。オレたちはどうでもいいんだけど」「親がうるさいもんな」

豪華な花嫁衣裳も、盛大な宴も、「オレたち」のためではなく、「御両家」のステータス・シンボルなのです。「×男くん、

るところまで、造反の渦を巻き起していこう。

はっきりいえば、ミドル層を「理解派」と「秩序派」にまで分解しつくすことこそ、造反派新入社員の「戦術目標」にふさわしい。

（市民B）

もしあなたが、それほどウエディングドレスを着てみたかったら、その衣装でデモをしたらいかがですか

×子さんと結婚式」と書かれてある式場はどこにもなくてそれはいつも「××家御結婚式」であり、招待状さえ、いまだに本人からでなく、「御両家」から差し出されてくるのです。

おかしいものですね。結婚と云って、ふと出会った女と男が、好いて好かれて、さて、いっしょに暮そうではないか、それだけのことです。いってみれば、結婚はまったくブライベイトなことです。

ところが、現実には、「好いて好かれて」までは、ひとりの男とひとりの女のブライベイトなことでありえても、「いっし

ょに暮そう」となると、これはまた異質な、法的、社会的な制度としての「結婚」がでんとして横たわっていて、役所に届けを出したり、親類、縁者を招いて、お金のかかる結婚式を挙げたりするはめになります。

結婚届けなんて出さなくていいよ、という向きもあるでしょう。子どもを生まないなら、それもけっこう。ただ、もし子どもが生まれた場合、やっかいになってしまいます。

そこで、届け出の問題はさておき、いますぐできることとして提案したいのは、結婚式をやめることです。

七〇年に第一歩を

受験、就職、がんばりがめの社会のなかで、せめて、結婚ぐらい、好きなようにやってみたらいかがでしょう。

「御両家」とか「祝詞」とか、しららしいスピーチなど、非人間的なものを、人間的としかいかいようなない結婚にまでもちこむことは、あまりにもナンセンスです。

結婚したことを友人に知らせたかったら、新しい住所、紹介をかねて二人の写真でも貼ったカードを送ったらどうですか。どうしても友人を呼んでおめでたがってほしい向きは、せめ

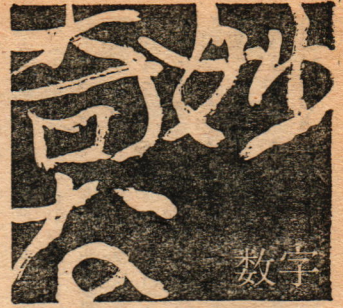
て、花ヨメ花ムコとも一言も口をきかない、かたくるしい宴をやめて喫茶店でも借りて気楽なパーティを開いたらいかが。

会費制の結婚式には反対です。もともとおめでたいのは当人たちだけなのですから、人さまからお金を徴収してまで祝ってもらおうというのは、虫がよすぎます。

結婚式をするならせいぜい自前でお酒でもだして、「オレたちは幸せなんだ。まあ酒でも飲んでくれ」というのが礼儀というものでしょう。

せっかくのキンランドンスやウエディング・ドレスをできるだけ多くの人に披露したい花ヨメさん、勇気を出して、その衣裳のまま反戦デモをしてみませんか。さすがの鬼の機動隊も、ウエディング・ドレスには手が出ないと思います。それに第一、みんな振るかえるから、デモの効果は満点です。

七〇年。安保体制をひっくりかえすことは残念ながらできないかもしれない。でも、昔の生えた慣習を、自分の意志でやめにする、これはできることです。結婚式だけじゃなくて、自分の身のまわりから、不自由な絆を一つ一つ切り離していくことを、七〇年にはじめようではありませんか。（市民C）



連載 3

海軍・空軍の投入量

米軍がベトナム戦争

に投入した海軍戦力は実動艦艇八百五十隻のうち四百五十隻でしかも戦艦ニュージャーシー、原子力空母エンタープライズ、原子力巡洋艦ロングビーチなどを擁する強力な第七艦隊（艦艇百三十隻、航空機八百機、兵員七万）が主役となった。

一方空軍は戦術空軍の大半と戦略空軍の一部を投入した。B52は六百四十機のうち百機がベトナム作戦に当たった。全空軍機の三〇％余が投入されたことになる。

海兵隊も大部分が送りこまれた。陸海空海兵隊全部でいうと米国の全軍勢力の五〇％以上がベトナム戦争に投入されたことになる。



脱走兵の数字

米上院軍事委員会が六九年三月六日に発表した脱走兵の数字はつぎのとおりである。



われず、この無断休暇の罰を受けている。

サイゴン政府軍のほうの脱走兵はべらぼうに多い。南ベトナム解放通信によると、昨六九年の一月から十一月までの僅かな期間中に、中央ナンボ（メコンデルタ）地方だけで脱走した政府軍兵士と民間防衛組織員は四万三千三百三十人を越す。この中には十一個中隊、八十六個小隊および民間防衛グループ百隊が含まれている。

これまでに政府軍から寝返って解放戦線に参加したものは六二年に十万名以上、六五年に十一万、六六年に十一万五千名、六七年には八万名、六八年には六月までで五万名となつてゐる。総兵力との比率は六七年の六・五％、六八年の八％と上昇し、ほぼ十二名半に一名が脱走をしている勘定になる。

別の資料では、六七年三月には五名のうち一名が脱走する割合

合になつていたという。

なお政府軍の部隊長はどれだけ脱走兵が出ようが、戦死・行方不明者が出ようが、なかなか減員を報告しないという。その分だけ給与が減らされるからである。差額は全部、部隊長のポケットへ入る。とすると、政府軍のさきの実数も極めて怪しいとみなければならぬ。

国外への脱走兵の数字

本年 一月 一日

に米国防総省が発表した数字によると一九六六年七月一日以来三年間に国外に脱走をした米兵の数は合計一千四百三人である。このうち公然と反戦を宣言したものは百七人だが、黙って脱走したもので反戦運動の影響は歴然たるものがあるという。

脱走兵のうち三百七十一人はあとで兵營に戻った。脱走先はカナダ五百七十六人、メキシコ八十八人、スエーデン八十五人だという。

米軍の捕虜

米軍の捕虜・行方不明は六九年六月二十四日に米国防総省・国務省が発表したところでは、北ベトナムに約八百名、東南アジア一帯に約五百名、合計千三百二十五名であるという。このうち捕虜第一号は六四年八月のトンキン湾事件の

際に出た。

なお、これに対し六九年六月現在、サイゴン政府側の収容所にある解放戦線軍、北ベトナム軍の捕虜は合計二万五千名（うち北ベトナム軍捕虜は五千名）だと発表されている（米側）。

投弾量

ベトナム戦争での米軍の投弾量は大変なものである。月間投弾量では一九六六年三月に、朝鮮戦争、第二次大戦中のヨーロッパ、アフリカ、日本に対するものを上回った。すなわち第二次大戦中、ヨーロッパとアフリカに落とされた爆弾の量は月間平均四万八千トン、日本では二万九千トン、朝鮮では一万七千五百トンだったが、北ベトナムでは五万トンを越えた。

六七年十一月から六八年三月まで僅か四か月のケサン攻防戦で米戦術空軍と海軍航空隊は戦闘爆撃機を一日平均三百波、延べ二万一千九百一波出撃させ、九万五千四百三十トンの爆弾を投下、また同時に戦略空軍のB52を四百二十五波出撃させ、五万九千五百四十二トンの爆弾を投下した。結局合計十五万五千トン。太平洋戦争中、日本に投下された爆弾量は十六万トンだったから、ほぼそれに匹敵することになるという。（つづく）

●CB兵器討議と日本

No. 9

連載

外信ステディ

ことしの国連軍縮委討議は二月十七日から、ジュネーブの国連欧州本部ではじまった。

核軍縮問題が昨年ヘルシンキで行なわれた米ソ両国間の戦略兵器制限交渉(SALT)予備会談を受けて、四月十六日からウィーンで開始予定の本交渉の成行き待ちという事情もあって、ジュネーブ軍縮討議の当面の焦点は、化学・生物(CB)兵器禁止問題だとされている。

日米は未批准

CB兵器については、一九二五年のジュネーブ議定書(戦争における窒息性、毒性又はその他のガス及び細菌学的戦争手段の使用禁止に関する議定書)で、その使用禁止が一応規定されているが、こんどはCB兵器の開発、実験、生産、貯

蔵をも含めた「全面禁止」を討議しようというわけである。

ベトナム戦争で、大量のこの種兵器を使うという犯罪行為が続けてきた米国は、今度の討議でも、CB兵器のうちB兵器だけをまず禁止すべきだといひ、CB両兵器を一括して同時に禁止すべきだというソ連と対立している。さらに米側は、全面禁止が遵守されていることを確認するために検証が必要だとの立場をとり、一方、ソ連側は、検証は必要だとの態度を示している。

昨年七月、軍縮委参加の、宿願を果たした日本は、CB兵器禁止問題に力を入れる方針で、政府代表団顧問に、薬学専門家の山田俊一・東大教授を加えたのも、熱意の一端を示すものだったといわれる。結構なことである。

しかし、その意欲が見せかけ、口先だけのスタンド・プレーに終わってしまう危険性をも指摘しておくかなければならない。ジュネーブ軍縮委に臨む前に取組んでおくべき最少限のことがなおざりにされているからである。

まず、日本は、先に触れた「ジュネーブ議定書」に調印しながら、いまだに批准していない。この議定書には、英国、ソ連をは

じめとする約七十カ国が加わっており、主要国で批准手続きを済ませていないのは、日本と米国などにすぎない。CB兵器禁止が国際的に問題化したのは、きのうきょうのことではない。

最近だけでも、六八年のジュネーブ軍縮委の主要議題となったし、これより先の六六年には国連総会で、議定書の尊重を要請する決議が採択された。昨年七月、ウ・タント国連事務総長は「化学生物兵器の効果について」の報告書を発表した。これは六八年二月の国連総会決議に基づき、加盟十四国の専門家たちの調査をまとめたもので、わが国からは、川喜田愛郎・前千葉大学長が参加した。

昨年八月の軍縮委で、当時の朝海代表は「議定書の批准を考慮する」と述べながら、いまだに所定の手続はとられていない。もとより四十四年前の議定書は完全なものではない。それだからこそ軍縮委で全面禁止問題が討議されるわけである。さりとて、完全な新協定がつくれる保証はない。CB兵器について云々するのなら、多数の国が加わっているジュネーブ議定書を批准して、まず基本的態度を国際的にも明確にしておくべきである。ジュネーブ議定書が不完全なものとはいえ、CB兵

器を現在、戦争で使っているのは未批准の米国だけであることから、一定の効果があることも明らかだからである。

沖縄からの撤去進まず

次に、沖縄の米軍基地に配備されている致死性毒ガス兵器の撤去問題である。

昨年七月、米国のウォールストリートジャーナル紙が漏洩事故を暴露したことから、その沖縄配備が明らかにされた。米国防総省は直後の七月二十二日に撤去の方針を明らかにし、さらに十二月二日にも、同月中が今年一月には撤去を開始すると発表しながら、依然として配備されたままである。この毒ガス

は、容器ともで一万トンに達するといわれ、約二千トンずつ船で五回に分けて米国西海岸に運び、専用列車でオレゴン州ウマチラの陸軍兵器庫に貯蔵される計画だというが、通過地のワシントン州当局、議会、住民などから猛烈な反対の火の手があがり、撤去はのびのびになっている。米軍当局は、危険防止に万全の措置を構するといっておき、この一月二十一日にもレアリッド国防長官が一月中に撤去の方針を再確認しながら、実施できないでいる。国防総省には、反対の手紙が続々と寄せられ、

「沖縄に置いて危険なものをどうしてわが州に持込むのか」と息巻くものもあるという。

政府は、米本国で、それほど危険視されているものを百万同胞のいる沖縄に無断で持込んだことを糾弾し、一刻も早く撤去させるよう申入れてしかるべきである。CB兵器の製造、貯蔵、使用が「悪」であるから禁止しようというのであり、禁止協定がつくられてはじめて、「悪」となるものではあるまい。

もう一点。昨年八月、社会党議員が「米軍のCB兵器が本土にも配備されているのではないか」と実例をあげて政府に質問書を出したのに対し、政府は「日本本土に致死性化学兵器は配備していない」と米国の言明しており、これを十分信頼している」と回答した。自国領土にCB兵器が配備されているどうか検証もできない状態で、違反容疑国に対する検証制度を提唱しようとする態度は、果して真面目なものといえようか。

ジュネーブ議定書も批准せず、沖縄の毒ガス兵器に一言の抗議もせず、国内にCB兵器があるかどうかの検証もできず、はるばるジュネーブまで出かけて、米ソの中間、第三の道を唱えても、その声は虚ろに響きはしまいか。

金沢

な がいな
がいに北

陸トンネルを
抜けて金沢へ
たどり着いた
日、金沢は雨

だったのをごさいます。この日、一年前の丁度この日、金沢の近くにございます小松の航空自衛隊のF104とか申す、じえっとせんととき、が金沢の人々の頭の上へ降り落ち、尊い人命を奪っていたのをごさいます。そりゃあ、あなた昔から、加賀の前田様の時代から、お上、はひどいことをなさってまいりましたが、この世に至っても同じだということをごさいます。たとえば金沢の古い街並長町・長土塀の街の三差路にも見られるとおり、また寺町などへ戦路上の都合から寺社を集中させたことから分かるように、まったく「お上」のためのみの都市計画なのをごさいます、ところで今の都市計画は「お上」の都合ではないかと申しますと、とんでもなく、パブリックミューンメントのあと、パリの街並は太い道の見通しよろしく改造され、パリケード、なんぞを作りにくくいたしまし、たり、東京の街の幹線道路も、高速道路も、東名も中央高速も

「お上」の軍事上の必要性重要視していたのでございまして、決してわれわれ、しもじも、のためにあるのではありません、ただただ「お上」のためのみなのでございまして。今となってはみまると、見通しの悪い三又の道も、白い土塀からのぞいている銃眼も、要塞と化す、忍者寺、も当時の殿様の趣味だけで多くの、しもじも、を苦しめて作った、兼六園、も更には金沢城跡もみんな過去のものとして観光の資源としかなっていないかのごとく見えても、今はあのことよりずっと良い時代なのだと思います。管理された文明の、束縛された文明人なんて当時のしもじもと同じく、しもじも、なのでございましょう。

重

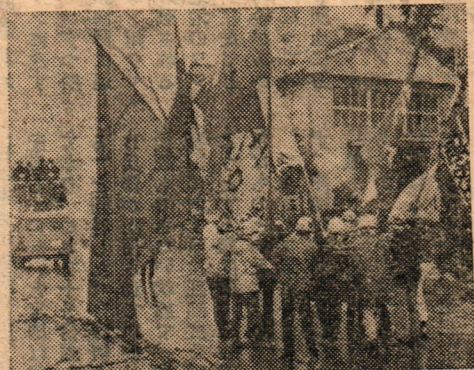
要文化財金沢城石川門より金沢大学へ入ってまいります。ここにも全国学園闘争の嵐は吹いたのでございまして、重文であるところの白い美しい門をめぐるましてバリエード封鎖の折には学生も警察もさまざまに悩んだものと聞きおよんでおります。まあとにかく金沢ベ平連の集合地の中央公園にやってまいりました。いよいよ金沢ベ平連のデモの出番な

のでございまして。水雨にけぶる旧制第四高等学校の赤レンガの建物を右目で見ながら、左目で金沢ベ平連の人々の努力の作であるところの、特大・特製のプラカードを見るのでございまして。写真でもおわかりのことと思いますが今や全国的な傾向といたしまして、デモとは旗とアンボンフンサイ・トローション・リノ、の声だけになりつつあるのでございまして、ガゼンこは抵抗しているのをごさいます。水雨の中央公園も、夏秋とはセーラー服の高校生女の子の前では金沢フオーク・モグラの面々が、友よー、とかモグラ・オリジナルを唄い、解放広場と化した時もあったそうでございまして。そのモグラ氏は沖繩全軍労働カンパの先頭に立ちまして多額のカンパを集めたのでございまして、なにせこの水雨・デモは唄なしなのでございまして。

さ

平連のデモはゆっくり、おっとり出発いたしましたのでございまして。公園を出ますとはるかむこうに金沢の中署が見えます。ここは68年6月14日、加賀百万石まつりの折に、作家いだも氏の講演会の終了後のデモの弾圧に抗議いたしました

人々が、堂々と署の中にまでデモをいたしまして、挙句のたてには署長の所まで到着したという、由緒、ある警察署なのでございまして。さらにその先には自衛隊地方連絡本部がございまして。昨年の10月21日には、地方権力の中枢、粉砕のピラがまかれたのでございまして、自衛隊の人々はまさか何もしルメエと信じていたらしいのでございまして、ナント赤ペンキの封入されたタマゴバクダンが投げこまれ、次の日にはビックリした自衛隊が武装して門番に立ったとか、気の小さい人々は多いものだと思わずおかしかったのでございまして。またしても横道にそれてしまっておりまして、デモは香林坊をすぎております。この交差点は金沢でも最もにぎわいを見せているところをごさいます、さきほどのカンパもここで行なったのでございまして。このあたりより金べのジュニアチンパス氏が街行く人々に呼びかけ、残りの面々は一列になりまして間隔



これはプラカードなのだ／

をあけ特大のプラカードを示しながら進んでゆくのでございまして。片町の大通りをどんどん進むのでございまして、目の前に犀川があるのでございまして、犀川大橋をわたりますと広小路と申すところをごさいます。このあたりはさっき申しました寺の多いところをごさいます。冬の間は雪が降りますので、それを融かすため、道の中央部分より地下水が噴出したしておりますが、あまりデモが道中の中央に出ますと、その水がひっかかるのでございまして、決して弾圧機構ではないと信じてはおりますが、ツメタイものなのでございまして。

(遠藤洋一)

■市民運動入門

■ビラ配りに関する三つの立場

■吉川 勇一

最近よく街頭でビラ配りをしたいのだ
がどうしたらいいかという問合わせの電
話を受ける。とくに警察や法律との関係
のことを聞かれる。これが一言で答えら
れないから困ってしまう。そこで三つの
立場からこの問題を考えてみよう。①警
察の立場 ②裁判所の立場 ③市民の立
場の三つである。

①警察の立場

警察の立場からすると路上のビラ配り
に關係する法律はさしあたり道路交通法
第七十七条一項とそれにもとづく各都道府

県のきめた条例や規則ということになろ
う。たとえば東京でいえば「交通ひんば
んな道路において、寄付を募集し、若し
くは署名を求め、又は物を販売若しくは
交付すること」は署長の許可がいるとし
てある（都道路交通規則第一四八条八号）。
そしてビラ配りはこの「物を交付するこ
と」に該当するのだというわけだ。だか
ら警察に聞けば無許可のビラまきはま
たくの違法行為でケシカランことで、逮
捕、処罰の対象である、という答えが
えってくる。

では許可を受ければいいのか。そうは
簡単にいかないのだ。何のビラか？ 今
もってきたか？ ビラの内容の許可を受
けるわけでもないのに、まずまこうとす
るビラを出さない、届を受けさせよう
としなさい。内容が反戦だの反安保だ
の、ましてや警察の弾圧非難のビラなん
かだと、トタンに彼らの態度は固くな
る。親のカタキにあったような顔付きを
する。そして場所が問題になる。まずこ
れで話はずかない。こっちのまきたい所
はすべて「交通ひんばんな場所」で一般交
通に著るしい影響を与える」からという
理由でダメだといわれる。人通りのま
たかない裏通りや街はずれなら許可され
る。しかしそれでは元来ビラまきの意味
がなくなる。こっちは多勢の人にまきた
いのだから。

結局、どうしようもないから、許可な
んか受けないでビラをまく。警官が出て

くる。追いつらされたり、ビラを没収さ
れたり、交番へ連行されたり、中には留
置場へ放りこまれたり……。

つまり、どうしたらよいか、と聞かれ
ても、警察の立場からするかぎり、どう
しようもないのである。つまりビラまき
はやるべきではないし、やらないのが一
番いいという答えになる。これが警察の
立場。

②裁判所の立場

裁判所の立場からすれば、さしあたっ
て判例が問題になるだろう。ビラまき事
件の判例としては、有名な「有楽町駅ビ
ラ配り事件」がある。一九六二年五月四
日の朝、三人の労働者が東京の国電有楽
町駅前の路上で核実験反対などのビラを
警察の許可を受けずに配った。そして逮
捕され、道交法違反で起訴された事件で
ある。

これに対し、東京地方裁判所は一九六
五年一月二十三日、無罪の判決を下し、
これを不服とした検事側の控訴による第
二審でも、東京高裁は翌六六年一月二十
八日、一審判決を支持して、ここに無罪
が確定した。

この判決を詳しく紹介するには紙面が
足りないが、要するに「一人または少数
のものが、人の通行の状況に應じ、その
妨害を避けるためいつでも移動しうる状
態において、通行人に印刷物を交付する
行為のようなものは、その態様方法にお
いて社会通念上一般に一般交通に著るし

い影響を及ぼす行為類型に該当するもの
とはいえないところである」というわけ
で、つまり少数人数で交通の邪魔をひどく
しないなら、無許可でビラをまいても一
向にかまわないという判決なのだ。

さて警察もこの判例は知っている筈な
のだが、実際には尊重しない。ビラ配り
をやると一人であれ、二人であれ、すぐ
文句をつけてくる。法律と裁判所の決定
をいちばん守らないのは警察だ。

③市民の立場

さて最後にわれわれ市民の立場だ。わ
れわれにとって、さし当っていちばん関
連する法律は何か。憲法第二一条と第一
一条だろう。「集会、結社及び言論、出版
その他一切の表現行為は、憲法が国民に保
障する基本的権利であり、侵すことので
きない永久の権利なのである。土台、許
可制なんてことが憲法違反なのである。

二月七日の北爆五周年デモの時、出て
きた機動隊に向かって、デモの責任者の
福富節男さんは、スピーカーから大声で
どなった。「警官の諸君、デモの邪魔をす
るのはやめなさい！ 私たちは今、そ
うなことをやっているのです。」そ
うなのだ。デモも、ビラまきも、それ
は、とっても大切なことなのだ。正しい
ことをやっているのだという確信をもっ
てビラまきをすることが、そしてそれは
市民の侵すことのできない権利なのだ
ということが、私たちにのべてのすべ
てなのだろう。

全共斗ブルース・全共斗ブルース・全共斗ブルース・全共斗ブルース たになをと作詞 作曲・たになをと



あー あたいはい だァ たいはい だァ おいらの せ かい は くさって るー



いい たい こと も い え な い じ ゅ う と いっしょくそくはつ の へい わ とー



ブルジョワ ぎ かい の みんしゅしゅ ぎー お れ は だん こ きょひ する ぞー

- | | | |
|--|--|---|
| 1. ああ 頹廃だァ 頹廃だァ
おいらの世界は腐ってる
言いたいことも言えない自由と
一触即発の平和と
ブルジョワ議会の民主々義
おれは断固拒否するぞ | 2. ああ しらけた しらけた
大衆団交は しらけた
良識だらけの専門バカ
ガチガチ頭の老いばれ教授
いつまでたっても堂々めぐり
おれは断固やんなった | 3. ああ 日和見だ 日和見だァ
一般学生は日和見だ
ストを始めたときは賛成して
単位が危なくなれば騒ぎだす
非暴力といいながら石を投げてくる
ああ 民主化とは恐ろしい |
| 4. ああ ギマンだ ギマンだァ
ブルジョワ議会はギマンだ
独占資本にあやつられた
悪意に満ちた代議士が
大学を思うように変えていく
おれは断固粉碎するぞ | 5. ああ 弾圧だ 弾圧だァ
デモでウロウロしてパクられた
機動隊にさんざんどつかれて
デカにじっくりいびられて
無理やりゲバ棒持たされて
写真を撮られたよ みじめだなァ | 6. ああ ぶっこわせ ぶっこわせ
くさった世界をぶっこわせ
機動隊の弾圧は恐ろしい
催涙ガスはモーレツ
だけど新しい世界を創るため
おれは断固たたかうぞ (左むけ 左!) |

© Copyright 1969 by 「20世紀の谷間」社 OSAKA

うたが欲しい・うたが欲しい・うたが欲しい・う
ギマンに満ちたオレたち自身の・ギマンに満ち
つくってくれ・うたってくれ・つくってくれ・つく
おしえてくれ・おしえてくれ・おしえてくれ・おし

